

陸軍刑法海軍刑法第二條第二項ニ依リ新舊法ヲ比照スルニハ左ノ規則ニ從フヘシ

第一條 新法ト舊法トノ刑ヲ比照スルニハ別表ニ從フ

第二條 舊法ノ刑期新法主刑ノ刑期内ニナル時ハ新法ニ從フ但舊法ノ刑期ニ過クルコトヲ得ヌ(舊法ニ於テ百日ニ該ル者新法ニ照シ二月以上四年以下ノ禁錮ニ該ル時ハ新法ニ從ヒ二月以上百日以下ニ處スルノ類)

若シ舊法ノ刑期新法主刑ノ短期ニ等シクシテ舊法ニ定役ナク新法ニ定役アル時ハ舊法ニ從フ(舊法ニ於テ杖五十錮四十二日若クハ閉門半年后停官ニ該ル者新法ニ照シ二月以上三年以下ノ重禁錮ニ該ル時ハ舊法ニ從ヒ杖五十錮四十二日若クハ閉門半年后停官ニ處スルノ類)

第三條 舊法新法ノ刑共ニ短期長期アル者ハ其短期ノ短キ者ニ從フ但其長期ノ短キ者ニ過クルコトヲ得ヌ(舊法ニ於テ一年以上三年以下ニ該ル者新法ニ照シ三月以上四年以下ノ禁錮ニ該ル時ハ新法ニ從ヒ三月以上三年以下ニ處スルノ類)

若シ舊法新法ノ刑其短期等シクシテ舊法ニ定役ナク新法ニ定役アル時ハ舊法ニ從フ

第四條 新舊ノ法ヲ比照シ新法ニ從ヒ重罪ノ刑ニ處スル時ハ普通刑法第三十一條第二項第三項(位記貴族ヲ除ク)第四項第五項及ヒ第四十三條ヲ除クノ外附加刑ヲ科セス

第五條 新舊ノ法ヲ比照シ新法ニ從ヒ輕罪ノ刑ニ處スル時監視ハ之ヲ附加セス

第六條 新法ト舊法トヲ比照スルニハ各其本法ニ照シ加減シタルヲ以テ本刑トス

刑期	將校	刑名	下士	刑名	卒夫	刑名
十年	流	刑	同	同	同	同
三年	閉門半年后	奪官	徒	三	年	同
二年	奪	官	徒	二	年	同
一年	閉門半年后	回籍	徒	一	年	同
百日	回	籍	戒	役	同	同
九十日	閉門半年后	停官	錮	三十五日	後	黜等
八十日	閉門四十二日	后停官	錮	三十五日	后	停官
七十日	降	官	降	等	一	年
六十日			降	等	一	年
五十日			降	等	半	年
四十日	閉門九十八日		錮	四十二日		同

三十日	閉門四十九日	銅三十五日	同
二十日	閉門三十五日	銅二十八日	同
十一日	閉門三日	同	同

布告 十六年十一月十日 第三十七號

陸海軍法衙ニ於テ罰金科料ニ處スル時ハ直ニ輕禁錮拘留ニ換フルヲ得

勅令 十九年五月二十日 第四十四號

陸軍々人軍屬違警罪處分例

第一條 陸軍々人軍屬ノ犯シタル違警罪ハ違警罪即決例ニ依リ憲兵部ニ於テ其處分ヲ爲シ憲兵設備ナキ地ニ於テハ警察署ニ於テ其處分ヲ爲スヘシ

第二條 憲兵部若クハ警察署ニ於テ被告人ヲ留置シタルトキハ直ニ其所屬ノ長官若クハ隊長ニ通知ス可シ

第三條 即決ノ言渡ニ對シテハ軍法會議ニ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得其裁判管轄ハ陸軍治罪法ニ從フ

第四條 正式ノ裁判ヲ請求スル者ハ違警罪即決例第五條ニ記載シタル期限内ニ其理由ヲ記シタル書面ヲ即決ノ言渡ヲ爲シタル憲兵部若クハ警察署ニ差出スヘシ

(六) (七)

第五條 憲兵部若クハ警察署ニ於テ前條ノ書面ヲ受領シタルトキハ二十四時内ニ訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ管轄軍法會議ノ所管司令官ニ送致ス可シ

第六條 軍法會議ニ於テ被告人ノ訊問ヲ要セサルモノト認ルトキハ書面ニ依リ其裁判ヲ爲スコトヲ得

第七條 即決ノ言渡確定シ若クハ正式裁判ノ言渡ヲ爲シタルトキハ憲兵部警察署軍法會議ヨリ被告人所屬ノ長官若クハ隊長ニ其執行ヲ囑托スルコトヲ得

第八條 軍法會議ノ裁判ニ對シテ上訴ヲ爲スコトヲ得ス  
司法省達 十四年九月廿一日 丁卯 十二號 大審院裁判所

(別紙)

陸海軍々人東京府下ニ於テ違式註違ノ罪ヲ犯シタル者ハ憲兵條例第八條ニ據リ憲兵ニ於テ處分シ其追徴シタル科料ハ憲兵隊長ヨリ其省ヘ交付セシメ候條此旨相達候事

司法省達 十六年八月七日 丙第六 號 府縣(東京府ヲ除ク)ハ

陸軍常備下士卒服役中ノ者違警罪ヲ犯シ其處分ヲ爲シタル節ハ其人名罰科ヲ詳記シ其都度本人所管(隊附ナレハ該隊長)ヘ速ニ通報可致此旨相達候事

(九)

陸海軍ノ部 〇刑法治罪法ニ關スル事

(十)

太政官達 十七年三月廿四日(第二十七號内)

軍人軍屬賭博犯處分ノ義ニ付左ノ通陸海軍兩省へ相達候條爲心得此旨相達候事

陸 軍 省  
海 軍 省

本年第一號布告賭博犯處分規則(三)ニ依リ處分スヘキ者軍人軍屬ニ係ル時ハ憲兵部ノ處分ニ付シ該部ノ處分ニ付スルヲ得サル場合ニ在テハ陸海軍法衙ノ處分ニ付セシメ候條右規則施行ノ方法細則ハ其省ニ於テ便宜之ヲ定ムヘシ此旨相達候事

但軍人軍屬ニアラスシテ軍人軍屬ト共犯ニ係ル者ハ各其事件ヲ管理ス可キ官司ノ處分ニ付スル義ト心得可シ

明治十七年三月廿四日

太政大臣三條實美

(二十)

陸軍省達 十六年一月二十六日(第八號陸軍一般)

砲工兵上等監護及ヒ樂長犯罪取扱方ノ義別紙ノ通被相達候條此旨相達候事

陸 軍 省

砲工兵上等監護及ヒ樂長陸軍刑法ノ罪ヲ犯シタル時ハ總テ將校ト全シク處断スヘキ儀ト可相心得此旨相達候事

明治十六年一月十九日

太政大臣三條實美

(四十)

同 十七年三月十五日(水戸縣刑部)

警備兵例第五十條ニ掲ケル割符ヲ付與セラレ而シテ後入營ニ際シ逃走徵集ニ應セサル者アリ右ハ陸軍刑法第七條ニ該ルヲ以テ軍衙ノ管轄タルコト勿論ノ義ト相心得可然哉官報第三號ニ載スル大坂府ヨリ陸軍省へ伺ニ未タ軍人トナラサル云々ト之アレハ是ハ陸軍治罪法制定以前ニ係ル伺指令ニシテ其後陸軍治罪法御發令ニ付全法第二十一條ニ依リテ明瞭タル者ト存候得共權限上ニ關スル義ニ付相伺候

指令 十七年三月廿五日

伺之通

(五十)

海軍省達 十七年四月一日(丙第)

海軍東京軍法會議并ニ海軍東京監獄署ヲ設置シ其條例左ノ通相定ム此旨相達候事

海軍東京軍法會議條例

- 第一條 海軍東京軍法會議ハ海軍治罪法ニ從ヒ其權限ニ屬スル重罪輕罪ヲ審判スル所トス
- 第二條 軍法會議ニハ判士長判士主理錄事ヲ置ク
- 第三條 判士長一名佐官ヲ以テ之ニ補シ部下諸員ヲ統督シ主管百般ノ事務ヲ總理ス
- 第四條 判士長ハ主管ノ事務ニ於テハ卿ニ對シ其當否ヲ辨明スルコトヲ得而シテ亦擔保ノ責任ス

陸海軍ノ部 〇刑法治罪法ニ關スル事

第五條 判士長ハ部下諸員ノ進退黜陟ヲ卿ニ具狀スルヲ得

第六條 判士長ハ左ニ記列スル事項ハ卿ノ認可ヲ經ルニ非サレハ施行スルヲ得ス

一 外國人ニ係ル訴訟ヲ取扱フ事

二 定例外ノ經費金ヲ要スル事

三 内外國人ト諸條約書ヲ交換スル事

四 一工事ニ付百圓以上ノ金額ヲ要スル事

五 損廢ノ物品器具等ヲ賣却スル事

第七條 判士長ハ左ニ記列スル事項ハ之ヲ專行スルヲ得

一 處務内規ヲ創設改良スル事

二 給料一月金拾圓以下若シハ日給金五拾錢以下ノ僱員ヲ進退黜陟スル事

三 所轄諸員ニ掛ヲ命シ及ヒ之ヲ二十里以内ノ地ニ派出セシムル事

四 主管ノ事務ニ付各廳ニ對シ其名ヲ署シ照會往復スル事

第八條 判士長ノ下ニ屬僚二名ヲ置キ判士長ノ處分ニ係ル文書ノ往復受付官印ノ監守公文書類ノ編修保存諸報告ノ調製及ヒ其他ノ庶務ヲ掌理セシメ又警査四名ヲ置キ警吏或ハ警吏補ヲ以テ之ニ充テ判士長判士或ハ主理ノ命ヲ受ケ令狀ノ執行被告人ノ看守護送公庭ノ警固其他取締等ノ職務ニ從事セシム

第九條 判士六名尉官ヲ以テ之ニ補シ公判ノ事ヲ掌リ又判士長ノ命ヲ受ケ審問委員ト爲リ豫審ノ事ヲ掌ル

第十條 審問委員ハ海軍治罪法ニ依リ職務ヲ行フニ付テハ各廳ニ對シ其名ヲ署シ照會往復スルヲ得

第十一條 録事四名七等官以下ヲ以テ之ニ充テ判士長判士ノ命ヲ受ケ豫審公判ノ調書其他審判ニ關スル文書ヲ作り及ヒ其事務ヲ理シ並ニ裁判ニ關スル書類ヲ保存スルヲ掌ル

第十二條 主理二名委任官ヲ以テ之ニ充テ告訴告發ヲ受ケ犯罪ノ搜查起訴或ハ現行犯罪ニ係ル處分ヲ爲シ及ヒ裁判執行ノ事ヲ掌ル

第十三條 主理ハ海軍治罪法ニ依リ職務ヲ行フニ付テハ各廳ニ對シ其名ヲ署シ照會往復スルヲ得

第十四條 主理ハ三月毎ニ豫審及ヒ公判ノ事件表ヲ作り判士長ヲ經由シテ之ヲ卿ニ差出ス可シ

第十五條 主理ノ下ニ屬僚三名ヲ置キ判任官ヲ以テ之ニ充テ主理ノ命ヲ受ケ其事務ヲ掌理ス

海軍東京監獄署條例

第一條 海軍東京監獄署ハ海軍東京監獄ヲ管轄シ其事務ヲ掌理スル所トス

陸海軍ノ部 〇刑法治罪法ニ關スル事

第二條 署内ニ庶務課ヲ置キ署長ノ處分ニ係ル文書ノ往復受付官印ノ監守署内公文書類ノ編修保存諸報告ノ調製及ヒ他ノ主管ニ屬セサル庶務ヲ掌理ス

第三條 署長一名少佐若シクハ大尉ヲ以テ之ニ補シ所轄諸員ヲ統督シ主管ノ事務ヲ總理ス

第四條 署長ハ主管ノ事務ニ於テハ卿ニ對シ其當否ヲ辨明スルコトヲ得而シテ亦擔保ノ實ニ任ス

第五條 署長ハ海軍治罪法ニ係ル事務ニ付判士長審問委員主理ヨリ照會アルトハ速ニ其處分ヲ爲ス可シ

第六條 署長ハ所轄諸員ノ進退黜陟ヲ卿ニ具狀スルコトヲ得

第七條 署長ハ監房ニ入ル、物品ハ一々之ヲ檢査シ其危險ノ虞アル者ハ之ヲ禁ス可シ

第八條 署長ハ不時ニ監房ノ内外ヲ巡視シ或ハ物件ヲ査閲シ又ハ警査長及ヒ警査ヲシテ常ニ在監人ノ行狀ヲ録セシメ賞罰ヲ行フノ考據ト爲ス可シ

第九條 署長ハ所轄諸員ニ分課ヲ命ジ及ヒ二十里以内ノ地ニ派出セシムルコトヲ得

第十條 署長ハ課務ヲ分テ掛リヲ置クコトヲ得

第十一條 署長ハ主管ノ事務ニ付各廳ニ對シ其名ヲ署シ照會往復スルコトヲ得

第十二條 警査長三名尉官ヲ以テ之ニ補シ監獄ノ巡視警戒出入物件ノ調査出入監人ノ點檢在監人ノ看守護送驅役等ヲ監督シ及ヒ在監人ノ名籍ヲ調査スルコトヲ掌ル署長事故アルトキ

(六十)

ハ先任ノ警査長其代理ヲ爲ス

第十三條 警査六名警吏ヲ以テ之ニ充テ警査長ノ命ヲ受ケ監獄ノ巡視警戒出入物件ノ調査出入監人ノ點檢在監人ノ看守護送驅役等ノ事ヲ掌ル

第十四條 署内ニ軍醫一名ヲ置キ醫務衛生ノ事ヲ掌ラシム又其下ニ看護手看病夫若干名ヲ附屬ス

第十五條 軍醫ハ死刑ノ執行アルトハ之ニ立合フ可シ

第十六條 庶務課ニ課僚二名ヲ置キ署長ノ命ヲ受ケ其主務ニ從事セシム

海軍東京監獄署定員表

署	長	少佐	大尉	一	人
警査	長	尉	官	三	人
軍	醫			一	人
課	僚	八等官	以下	二	人
警	査	吏	同	補	六
					人

海軍省達 六十七年四月一日丙第  
六十四號海軍一般ハ

陸海軍ノ部 〇刑法治罪法ニ關スル事

東海鎮守府刑事課監囚課ヲ廢シ同府ニ鎮守府軍法會議并ニ鎮守府監獄ヲ設置シ其條例左ノ通相定ム此旨相達候事

鎮守府軍法會議條例

第一條 鎮守府軍法會議ハ鎮守府長官ノ命ヲ受ケ其權限ニ屬スル重罪輕罪ヲ審判スル所トス

第二條 軍法會議ニハ判士長判士主理錄事ヲ置ク

第三條 判士長一名佐官ヲ以テ之ニ補シ部下諸員ヲ統督シ主管百般ノ事務ヲ總理ス

第四條 判士長ハ主管ノ事務ニ於テハ鎮守府長官ニ對シ其當否ヲ辨明スルコトヲ得而シ亦擔保ノ實ニ任ヌ

第五條 判士長ハ部下諸員ノ進退黜陟ヲ鎮守府長官ニ具狀スルコトヲ得

第六條 判士長ハ所轄諸員ニ掛ヲ命シ及ヒ之ヲ二十里以内ノ地ニ派出セシムルコトヲ得

第七條 判士長ハ主管ノ事務ニ付各廳ニ對シ其名ヲ署シ照會往復スルコトヲ得

第八條 判士長ノ下ニ屬僚若干名ヲ置キ判士長ノ處分ニ係ル文書ノ往復受付官印ノ監守公文書類ノ編修保存諸報告ノ調製及ヒ其他ノ庶務ヲ掌理セシメ又警査若干名ヲ置キ警吏或ハ警吏補ヲ以テ之ニ充テ判士長判士或ハ主理ノ命ヲ受ケ令狀ノ執行被告人ノ看守護送公庭ノ警護其他取締等ノ職務ニ從事セシム

第九條 判士若干名尉官ヲ以テ之ヲ補シ公判ノコトヲ掌リ又鎮守府長官ノ命ヲ受ケ審問委員ト爲リ豫審ノ事ヲ掌ル

第十條 審問委員ハ海軍治罪法ニ依リ職務ヲ行フニ付テハ各廳ニ對シ其名ヲ署シ照會往復スルコトヲ得

第十一條 錄事若干名七等官以下ヲ以テ之ニ充テ判士長判士ノ命ヲ受ケ豫審公判ノ調書其他審判ニ關スル文書ヲ作り及ヒ其事務ヲ理シ并ニ裁判ニ關スル書類ヲ保存スルコトヲ掌ル

第十二條 主理若干名奏任官ヲ以テ之ニ充テ告訴告發ヲ受ケ犯罪ノ搜查起訴或ハ現行犯罪ニ係ル處分ヲ爲シ及ヒ裁判執行ノ事ヲ掌ル

第十三條 主理ハ海軍治罪法ニ依リ職務ヲ行フニ付テハ各廳ニ對シ其名ヲ署シ照會往復スルコトヲ得

第十四條 主理ハ三月毎ニ豫審及ヒ公判ノ事件表ヲ作り判士長ヲ經由シテ之ヲ鎮守府長官ニ差出ヌ可シ

第十五條 主理ノ下ニ屬僚若干名ヲ置キ判任官ヲ以テ之ニ充テ主理ノ命ヲ受ケ其事務ヲ掌理ス

鎮守府監獄署條例

陸海軍ノ部 〇刑法治罪法ニ關スル事

第一條 鎮守府監獄署ハ鎮守府所屬ノ監獄ヲ管轄シ其事務ヲ掌理スル所トス

第二條 署内ニ庶務課ヲ置キ署長ノ處分ニ係ル文書ノ往復受付官印ノ監守署内公文書類ノ編修保存諸報告ノ調製及ヒ他ノ主管ニ屬セサル庶務ヲ管理ス

第三條 署長一名少佐若クハ大尉ヲ以テ之ニ補シ所轄諸員ヲ統督シ主管ノ事務ヲ總理ス

第四條 署長ハ主管ノ事務ニ於テハ鎮守府長官ニ對シ其當否ヲ辨明スルコトヲ得而シテ亦擔保ノ責ニ任ス

第五條 署長ハ海軍治罪法ニ係ル事務ニ付判士長審問委員主理ヨリ照會アルキハ速ニ其處分ヲ爲ス可シ

第六條 署長ハ所轄諸員ノ進退黜陟ヲ鎮守府長官ニ具狀スルコトヲ得

第七條 署長ハ監房ニ入ル、物品ハ一々之ヲ檢査シ其危險ノ虞アル者ハ之ヲ禁ス可シ

第八條 署長ハ不時ニ監房ノ内外ヲ巡視シ或ハ物件ヲ査閲シ又警査長及ヒ警査ヲシテ常に在監人ノ行狀ヲ録セシメ賞罰ヲ行フノ考據ト爲ス可シ

第九條 署長ハ所轄諸員ニ分課ヲ命シ及ヒ之ヲ二十里以内ノ地ニ派出セシムルコトヲ得

第十條 署長ハ課務ヲ分テ掛ヲ置クコトヲ得

第十一條 署長ハ主管ノ事務ニ付各課ニ對シ其名ヲ署シ照會往復スルコトヲ得

第十二條 警査長若干名尉官ヲ以テ之ニ補シ監獄ノ巡視警戒出入物件ノ調査出入監人ノ點檢在監人ノ看守護送驅役等ヲ監督シ及在監人ノ名籍ヲ調査スルコトヲ掌ル署長事故アルキハ前任ノ警査長其代理ヲ爲ス

(七十) (八十)

第十三條 警査若干名警吏ヲ以テ之ニ充テ警査長ノ命ヲ受ケ監獄ノ巡視警戒出入物件ノ調査出入監人ノ點檢在監人ノ看守護送驅役等ノ事ヲ掌ル

第十四條 署内ニ軍醫若干名ヲ置キ醫務衛生ノ事ヲ掌ラシム又其下ニ看護手看病夫若干名ヲ附屬ス

第十五條 軍醫ハ死刑ノ執行アルルキハ之ニ立會フ可シ

第十六條 庶務課ニ課僚若干名ヲ置キ署長ノ命ヲ受ケ其主務ニ從事セシム

海軍省達 十七年四月一日  
乙第三號府縣ハ

令般東海鎮守府ニ鎮守府軍法會議ヲ設置シ該會議ヲ橫須賀ニ置候條爲心得此旨相達候事  
布告 十九年二月十日第五號

明治十七年三月第八號布告海軍治罪法第七條中東京軍法會議ハ當分ノ内之ヲ閉鎖シ該會議ノ權限ニ屬スル事件ハ鎮守府軍法會議ノ審判ニ付ス

海軍省達 十七年四月一日丙第  
六十五號海軍一般ハ

罪犯取扱及ヒ行刑ニ關スル手續方法左ノ通相定候條此旨相達候事

判士長判士審問委員若クハ海軍治罪法第二十五條ニ記載シタル諸官其職務ヲ行フニ當リ必

陸海軍ノ部 ○刑法治罪法ニ關スル事

要ナル時ハ艦船警長若クハ憲兵隊長ニ照會シテ兵員ヲ要求使用スルコトヲ得  
證人鑑定人通事旅費日當止宿料ヲ請求スル時ハ普通刑法附則第四十八條ニ從ヒ支給スヘシ  
罰金科料ノ宣告ヲ爲ス時ハ其宣告ト共ニ限内納完セサル時ハ輕禁錮拘留ニ換フ可キコトヲ告  
示シ且ツ之ヲ其宣告書ニ記載シ置ク可シ

軍法會議ハ私訴ヲ受理セスト雖モ贓物軍人軍屬ノ手ニ理存スルハ追徵シテ其主ニ還付ス  
可シ

死刑ノ執行ヲ爲ス時ハ主理録事司獄官吏囚人ヲ艦船ニ收禁シタル時ハ本艦ノ尉官 醫官刑場ニ立會ヒ司獄官吏若  
ハ尉官ヨリ囚人ニ死刑ヲ執行ス可キコトヲ告示シタル後銃手ヲシテ之ヲ射殺セシム  
銃手ハ水兵十二名ヲ撰ヒ尉官一名之ヲ指揮ス可シ囚人ハ其目ヲ蔽ヒ柱ニ背テ坐セシメ紐ヲ  
以テ繋縛ス

銃手ハ六人ヲ前列トシ六人ヲ後列トシ囚人ヲ距ル十歩ノ地ニ於テ前列ヲシテ囚人ノ肩間ヲ  
狙ヒ一發ニ發射シテ之ヲ擊タシム若シ死ニ至ラサル時ハ後列ヲシテ同シク之ヲ擊タシム  
刑場ハ水兵若クハ憲兵ヲシテ警戒ヲ爲サシメ執行ニ關スル者ノ外入ルコトヲ許サズ但主理ノ  
許可ヲ得タル者ハ此限ニ在ラス

警戒ノ兵員ハ主理ノ請求ニ因リ艦船警長若クハ憲兵隊長之ヲ出ス可シ  
死刑ノ遺骸ハ便宜ノ場所ニ埋ム若シ親屬故舊請フ者アル時ハ之ヲ下付ス可シ

左ニ記載シタル日ハ死刑ヲ行フコトヲ禁ス

元始祭 孝明天皇祭 紀元節

春季皇靈祭 仁孝天皇祭 神武天皇祭

六月大祓 秋季皇靈祭 神宮神嘗祭

天長節 後桃園天皇祭 新嘗祭

光格天皇祭 十二月大祓

主刑ヲ免シテ止テ監視ニ付シタル者ハ宣告書ノ謄本ト共ニ主理ヨリ地方警察署ニ送致ス可  
シ

罰金科料ヲ限内納完セサル者ハ主理其裁判宣告書ニ依テ直チニ之ヲ輕禁錮拘留ニ換ヘ監獄  
署長艦船ニ在テハ艦船長ニ通知シテ其執行ヲ爲ス可シ但艦内ニ於テ主理在ラサル時ハ艦船長部下ノ  
將校ニ命シテ其處分ヲ爲サシムヘシ

罰金科料ノ宣告ヲ受ケタル者納完セサル前ニ死去シタル時ハ之ヲ徵收セズ

監視及特別監視ニ付スル者海軍ノ名籍ヲ除カレサル間ハ別ニ監視法ヲ用フルニ及ハス

假出獄ヲ許サレタル者艦船警長ニ在ルハ其艦船警長ヨリ載罪服務ヲ命スルコトヲ得帶勳者罪  
ヲ犯シ公權ヲ剝奪又ハ停止シタル者及ヒ褒章條例第四條ニ依リ褒章ヲ沒收シタル者ハ其裁  
判宣告書ノ謄本ヲ以テ主理ヨリ鎮守府長官艦隊司令官若クハ東  
京軍法會議判士長ヲ經由シテ本省へ届出ツ可シ



(九十)

但刑奪公糧糈糧沒收ノ者ハ主理其勳記勳章年金票獎章等ヲ收奪シ本省へ差出ス可シ  
 犯罪ノ用ニ供シタル物件及ヒ犯罪ニ因テ得タル物件ハ本案ノ裁判宣告ヲ爲スマテニ所有主  
 ヲ發見セザル時ハ其本案ノ裁判ト共ニ沒收ノ宣告ヲ爲スコト雖モ右ノ物件ハ榜示又ハ新  
 聞紙其他適宜ノ方法ヲ以テ之ヲ公告シ一年間ニ所有主ヲ發見シタル時ハ主理直チニ之ヲ還  
 付スコシ若シ主理ニ於テ保存スコカラザル物件又ハ保存スルニ付費用ヲ要スコキ者ト思料  
 シタル時ハ之ヲ公賣シ其代價ヲ保存スコシ但艦内ニ於テ主理在ラサル時ハ艦船長部下ノ將  
 校ニ命シテ其處分ヲ爲サシム可シ

軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テ前項ノ處分ヲ爲スコ能ハサル時ハ直チニ之ヲ沒收スルコトヲ  
 得但艦船内ニ於テモ亦本項ノ例ニ依ルコトヲ得

陸軍省達 十六年十月八日  
 陸軍省達 日七第百二號

罪犯取扱手續並書式左ノ通相定候條此旨相達候事

第一條 陸軍檢察官要塞司令官備成司令官諸隊長分遣隊長各所管ノ長官監獄長陸軍治罪法  
 ニ從ヒ檢察ノ處分ヲ終リタルト左ノ書類物品ヲ添へ(司令官ノ部下ニ屬セザル諸隊)司令  
 官ニ具申スヘシ

一 被告人調書

二 被害書

三 證人調書

四 證據物品其他參考書類

五 鑑定書

六 檢證調書

七 書類及物品目錄書

被告人所屬ノ長官隊長檢察ノ處分ヲナシ具申ヲナストキハ被告人ノ前罰科素行調書ヲ添  
 フヘシ

第二條 司令官被告事件ヲ審辨シ若クハ理事ノ意見ヲ問ヒ被告事件審問ノ命令ヲ下スヘキ  
 者トナスルハ命令書ヲ訴訟書類ト共ニ理事ニ下付スヘシ  
 裁判管轄ニアラザル者及ヒ審問ノ命令ヲ下スヘカラザル者ハ其書類ヲ返還スヘシ  
 審判ノ命令アリタルトハ理事ハ錄事ヲシテ其事件及ヒ所管隊號氏名等ヲ帖簿ニ登記セシ  
 ム之ヲ審事若クハ判士長ニ交付スヘシ

第三條 審事召喚狀ヲ發スル時被告人軍人軍屬ナルトキハ其所屬ノ官廳若クハ本隊ニ移シテ  
 送付ノ處分ヲ求ムヘシ若シ逃走等ノ恐アルトキハ護送ヲ求ムルコトヲ得但營外居住ノモノニ  
 係ルトキハ直ニ本人ニ交付シ出廷セシムルコトヲ得

陸海軍ノ部 〇刑法治罪法ニ關スル事

其地ニ所屬官廳若クハ本隊アラサルキハ直チニ本人ニ交付シ出廷セシムヘシ  
召喚狀ヲ受ケ出廷シタル被告人ハ其召喚狀ヲ携ヘ之ヲ軍法會議ニ出スヘシ

第四條 審事拘引狀收禁狀ヲ發スルキハ憲兵卒ヲシテ之ヲ執行セシムヘシ憲兵卒之ヲ執行  
シ若クハ執行スル能ハサルキハ其旨ヲ審事ニ報告スヘシ

第五條 被告人營内若クハ隊伍ニ在ルキハ憲兵卒ハ該隊長ニ頼リ勾引狀收禁狀ノ執行ヲ求  
ムヘシ

隊長ハ速ニ之ニ應セシムヘシ

被告人已ニ監倉ニ在ル者ナルキハ審事收禁狀ヲ監獄長ニ送付シ監獄長ハ速ニ其處分ヲ爲  
シ之ヲ審事ニ報告スヘシ

第六條 召喚狀勾引狀ヲ以テ引致シタル被告人ニ收禁狀ヲ發シ若クハ留置ヲ命シタルキハ  
監獄附屬ノ會計卒若クハ憲兵卒ヲシテ監獄ニ護送セシムルコトヲ得勾引狀ヲ以テ監獄ニ付  
スルキ又同シ

第七條 審事ハ罰金以下ノ刑ニ該ル者ト認ムルキト雖モ其被告人遠隔ノ地ニ在ル軍人ナル  
キハ監獄ニ留置クコトヲ得

第八條 審事被告人ニ收禁留置ヲ命シ若クハ之ヲ解キタルキハ被告人所屬ノ官廳若クハ本  
隊及ヒ監獄ニ通報スヘシ責任以上及ヒ滑動者ニ係ルキハ理事ヲ經由シ司令官ニ上申スヘ

レ

司令官ハ之ヲ陸軍卿ニ上申スヘシ但帶勳者ニ係ルキハ勳章年金褫奪及ヒ停止取扱手續(四)  
第九條ニ依リ其處分ヲ爲スヘシ

第九條 證人鑑定人通事ヲ要スル時其證人鑑定人通事ト爲スヘキ者軍人軍屬ナルキハ其所  
屬ノ官廳若クハ本隊ニ呼出狀ヲ移シテ其出廷ヲ求ムヘシ但營外居住ノ者ニ係ルキハ直チ  
ニ本人ニ交付シ出廷セシムルコトヲ得

其地ニ所屬官廳若クハ本隊アラサルキハ直チニ本人ニ交付シ出廷セシムヘシ  
呼出ニ應ジ出廷シタル者ハ其呼出狀ヲ携ヘ之ヲ軍法會議ニ出スヘシ

第十條 審事ハ被告人所屬ノ官廳若クハ本隊ニ調書ヲ送り前罰科平素ノ行狀事實相違ノ有  
無等ヲ問フヘシ但所屬官廳本隊ノ具申ニ係リ事實明瞭ナルモノハ此限ニアラス

第十一條 司令官審問終結ノ上申ヲ受ケ其事件不問ニ付スヘキ者ト認ルキハ命令書ヲ理事  
ニ下付シ理事ハ錄事ト共ニ法廷ニ臨ミ之ヲ被告人ニ讀示スヘシ

第十二條 法廷ニ於テ審問ヲ要スル事件發覺スルキハ判士長審事ニ付シ其取調ヲ爲サシム  
ルコトヲ得

審事取調ヲ終リタルキハ更ニ報告書意見書ヲ出スヘシ

第十三條 軍法會議ノ判決ハ多數ヲ以テ之ヲ決スヘシ

第十四條 被告人證人ノ陳述前ニ陳述シタル所ト異ナルハ錄事其要領ヲ記錄シ理事ト共ニ署名捺印シ訴訟書類ニ添置クヘシ

第十五條 再議ノ命令ヲ受ケタル軍法會議ニ於テ事實明瞭ニシテ更ニ被告人證人ノ訊問ヲ要セサル者トナスルハ直チニ判決ヲ爲スコトヲ得  
其宣告ハ命令ヲ下シタル陸軍卿若クハ司令官宣告書ヲ被告人所在ノ地ノ軍法會議ニ移シテ之ヲ爲サシムヘシ

第十六條 判士長令狀ヲ發シ若クハ之ヲ解キタルハ第三條第四條第八條ノ例ニ從テ

第十七條 贓物犯人ノ手ニ在ルルハ被害者ノ請求ナシト雖モ之ヲ還付スヘシ

損害陸軍官署ニ係ルルハ請求ヲ待タヌ返還賠償ノ處分ヲ爲スヘシ

第十八條 裁判宣告ノ時傍聽人ノ席ハ左ノ三區ニ別ツ

一 將官及ヒ同等官

二 上長官及ヒ士官

三 下士及ヒ士卒

軍屬委任ハ上長官士官ノ席ニ判任以下ハ下士卒ノ席ニ於テ傍聽セシムヘシ

第十九條 無罪免訴若クハ罰金科料ノ宣告アリタルハ理事直チニ犯人ヲ放免シ收禁留置ニ係リタル者ナルハ其旨ヲ監獄ニ通報スヘシ

禁錮拘留ノ宣告アリタルハ監獄ニ交付スヘシ

懲役若クハ劓官ヲ附加スル禁錮若クハ普通刑法ニ依リ禁錮ニ處スル將校軍屬及ヒ懲治場ニ留置スル者ハ普通監獄則定タル所ノ區別ニ從ヒ地方監獄ニ交付シ軍人軍屬ニ非サルハ禁錮拘留ニ處スルハト雖モ又地方監獄ニ交付スヘシ

徒流禁錮ノ宣告アリタルハ監獄ニ交付シ之ヲ司令官ニ具申シ司令官ハ之ヲ陸軍卿ニ上申スヘシ

前數項ノ處分ヲ爲スルハ裁判宣告書ノ謄本ヲ添フヘシ收禁ニ係ラサル囚人ヲ監獄ニ交付シ其他地方監獄ニ交付スルハ第六條ニ從ヒ護送セシムヘシ

第二十條 監視ニ付シタルハ監獄長主刑滿限ノ後宣告書ノ謄本ヲ添ヘ犯人ヲ地方警察署ニ交付ス主刑ヲ免シテ止テ監視ニ付シタルハ理事其處分ヲ爲スヘシ

第二十一條 有罪無罪ヲ問ハヌ裁判宣告アリタルハ理事宣告書ノ謄本ヲ添ヘ本人所屬ノ官署若クハ本隊ニ通報スヘシ

罰金科料ノ宣告アリタルハ理事期限内ニ之ヲ納完セシムヘシ其犯人營内居住ノ者ニ係ルルハ所屬隊長ニ照會シテ納完セシメ其監獄ニ在ルルハ監獄長ニ照會シ監獄長之ヲ隊長ニ照會スヘシ

重罪及ヒ劓官ノ宣告アリタル者若クハ將校軍屬其他ノ官吏官職ヲ失フ刑ニ處セラレタル

キハ理事裁判宣告書ノ謄本ヲ以テ所管ノ府縣ニ通報シ死刑ニ處セラレタルモノニ係ルキハ第三十條ニ照シ榜示公告スヘキヲ照會スヘシ

第二十二條 罰金科料ヲ限内納完セサルキハ理事禁錮若クハ拘留ニ換ヘンコトヲ判士長ニ求メ言渡書ヲ作り録事ト共ニ法廷ニ臨ミ之ヲ言渡スヘシ

犯人遺隔ノ地ニ在ルトハ言渡書ヲ其所屬ノ長官若クハ隊長監獄長ニ送致シ執行ヲ求ムヘシ長官隊長監獄長ハ其地ノ營倉若クハ監獄ニ於テ執行スヘシ禁錮拘留限内罰金科料ヲ納完シタルキハ理事放免ノ處分ヲ爲シ之ヲ判士長ニ通知スヘシ長官隊長監獄長ノ執行シタル者ニ係ルトハ長官隊長監獄長之ヲ放免シ其金圓ヲ理事ニ送致シ理事之ヲ判士長ニ通報スヘシ

第二十三條 罰金科料ノ宣告ヲ受ケ未タ納完セサル前ニ於テ犯人死去シタルキハ之ヲ徵收セズ

第二十四條 録事ハ宣告ノ年月日及ヒ刑名刑期等ヲ還漏ナク簿冊ニ登記スヘシ

第二十五條 死刑ヲ執行スルキハ犯人ヲ刑場ニ護送シ理事録事醫官之ニ會同シ理事死刑ヲ執行スル旨ヲ犯人ニ告示シタル後小銃ヲ以テ之ヲ射殺ス其護送及ヒ執行ハ本人所屬ノ隊兵一小隊ヲ以テシ隊外若クハ其地ニ所屬ノ本隊アヲサルキハ鎮台歩兵一小隊ヲ以テ之ニ充ツ

死刑執行ノ期日定ル時ハ理事豫メ之ヲ司令官ニ具申シ司令官前項ニ照シ隊兵出場ノ處分ヲ爲スヘシ

第二十六條 死刑ヲ行フキハ憲兵ヲシテ刑場ノ警戒ヲ爲サシメ執行ニ關スル者ノ外刑場ニ入ルコトヲ許サス但理事ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニ在ラス

第二十七條 死刑ノ執行畢リタルキハ録事其始末書ヲ作り會同ノ官吏ト共ニ之ニ署名捺印シ軍法會議ニ納ムヘシ

第二十八條 左ニ記載シタル日ハ死刑ヲ行フコトヲ禁ス

元始祭 孝明天皇祭 紀元節

春季皇靈祭 仁孝天皇祭 神武天皇祭

六月大祓 秋季皇靈祭 神宮神嘗祭

天長節 後桃園天皇祭 新嘗祭

光格天皇祭 十二月大祓

第二十九條 死刑ニ處セラレタル者ノ遺骸ハ一定ノ場所ニ埋ム若シ親屬故舊請フ者アルキハ之ヲ下付ス

第三十條 死刑ヲ執行シタルキハ左ノ各所ニ榜示公告スヘシ  
刑ヲ宣告シタル軍法會議ノ門前

犯罪地ノ揭示場

犯罪人原籍所在地ノ區戸長役所ノ門前

第三十一條 證人鑑定人通事旅費日當止宿料ヲ要求スルハ刑法附則第四十九條ニ從ヒ支給スヘシ

第三十二條 理事審事録事ノ職務ハ理事ハ判決書ヲ作り會議ニ列シ且軍法會議ニ係ル一切ノ庶務ヲ擔當シ審事ハ被告人證人ヲ訊問シ證憑ヲ拾收シ録事ハ口供其他犯罪ニ關スル一切ノ書類ヲ作り及ヒ之ヲ保存スヘシ

第三十三條 司令官事變ニ際シ若クハ戰時ニ在テハ此手續及ヒ書式ヲ變更省略執行セシムルコトヲ得

書式

第一號

被告人調書

府(縣)國區(郡)町(村)何番地住  
華士族平民某某男(次男)(弟)  
宗門  
兵種隊號所管

職官位勳 氏 名

當何月何年何ヶ月

犯罪事實云々<sup>問答體或ハ供述體</sup>、、、、、、、官給品賣却投棄ノ犯ナレハ給與年月日褫袴袴下等ニ係ルキハ保存期限盜犯ナレハ贓物ノ存不存存セサレハ其品ノ原價買入年月日品質等之ヲ詳記スヘシ但調書中ニ記載シ難キ事項ハ之ヲ別紙ニ記スルモ妨ケナシ

年月日

被告人 氏 名 印

第二號

證人調書

何某何々事件云々<sup>問答體或ハ供述體</sup>

兵種隊號(所管)

證人職官 氏 名 印

第三號

鑑定書

何々事件ニ付何々ノ鑑定ヲ命セラレタルニ由リ左ノ如ク鑑定ス  
一何々<sup>診斷</sup>手続シタル處何々<sup>理由</sup>ナルニ付何々<sup>結果</sup>ナルヲ明白ナリ<sup>結果ヲ得サ</sup>此他傷ノ輕重大小  
休業日數現場ノ景況將來治不治ノ徵候等ヲ詳記スルヲ要ス

陸海軍ノ部 〇刑法治罪法ニ關スル事

年月日

鑑定人職官職官ナキ者ハ在所

氏名印

第四號

前罰料奉行書

一何年月日何々ノ所爲ニ依リ何年月日刑法第何條ニ依リ何刑刑罰ニ處セラル  
一何年月日何々ノ所爲ニ依リ何罰料ニ處セラル  
一平素行狀云々

年月日

細書ヲ作  
リタル者職官 氏名印

第五號

被告事件具申書

兵種隊號(所管)

職官 氏名

右何々ノ件ニ付取調候處本犯及ヒ證人ノ陳述其他證據物件等別紙目錄ノ通ニ候間相當ノ御處分相成度候也

年月日

職官 氏名印

某鎮臺營所司令官氏名殿

第六號

審問命令書

兵種隊號(所管)

職官位勳 氏名

右之者何々罪之件訴訟書類並證據差廻候條審問可致候事

年月日

某鎮臺營所司令官氏名印

軍法會議中

第七號

召喚狀

兵種隊號(所管)

職官位勳 氏名

右ハ何々事件ニ付訊問ノ儀有之候條何月何日當軍法會議ニ出廷可致者也

年月日

某鎮臺營所軍法會議  
審事判士長官 氏名印

第八號

拘引狀

陸海軍ノ部 〇刑法治罪法ニ關スル事

兵種隊號(所管) 職官位勳 氏 名

右ハ何々事件訊問ノ義有之候條當軍法會議ニ拘引スヘキ者也  
但本人潛匿スル時ハ家宅ヲ搜索ス可シ

其鎮臺(營所)軍法會議  
審事(判士長官) 氏 名 印

第九號 年月日

收禁狀

兵種隊號(所管)

職官位勳 氏 名

右ハ何々事件禁錮以上ニ該ルヘキ者ト認ルヲ以テ何所監倉ニ收禁スル者也  
但本人潛匿スル時ハ家宅ヲ搜索ス可シ

第十號 年月日

收禁(留置)並ニ解放通報書

兵種隊號(所管)

審事(判士長官) 氏 名 印

職官位勳 氏 名

右何々之件ニ付取調中月日收禁(留置)ノ處分ニ及ヒ(收禁留置致シ候處月日解放)候間此段及  
御通報候也

年月日

何官(何隊)

御 中

其鎮臺(營所)軍法會議

審事(判士長官) 氏 名 印

第十一號

收禁並解放上申書

兵種隊號(所管)

職官位勳 氏 名

右何々ノ件ニ付取調中月日收禁致シ(收禁候處月日解放致シ)候間此段及上申候也

年月日

其鎮臺(營所)司令官氏名殿

審事(判士長官) 氏 名 印

第十二號

共犯發覺上申書

陸海軍ノ部 〇刑法治罪法ニ關スル事

兵種隊號(所管)

職官位勳 氏 名

右ハ兵種隊號所管職官氏名被告事件取調候處其共犯ナルヲ覺舉致シ候間何分ノ御下命有之度此段及上申候也

年月日

審事判士長官) 氏 名 印

某鎮臺營所司令官氏名殿

第十三號

事實前罰科素行照會書

兵種隊號(所管)

職 官 氏 名

右被告事件取調候處別紙訊問書之通致供述候事實相違無之哉(且前罰科及平素ノ行狀等)御申越有之度此段及御照會候也

某鎮臺營所(軍法會議)

審 事 氏 名 印

年月日

何官(何隊)

御 中

第十四號

被告人訊問書

本營 / / / / /

第一號書 式ニ全シ

兵種隊號(所管)

職官位勳 氏 名

年 齡

問其方ノ本官等ハ前ニ示シタル通ニ相違ナキヤ

答然リ

問其方ハ前ニ罪ヲ犯シ刑法ノ處分ヲ受ケシコアリヤ

答云々

問勳章從軍記章ヲ賜リタルコアリヤ

答云々

問何々犯罪

答云々

問 / / / / /



答、

證憑物件ヲ示シ

問此品々ハ何々ニ用ヒン者ナリヤ又ハ其所ニテ盜ミ取リシ物ナリヤ(其方ノ所有ナリヤ)、

答、

問右陳述ノ外申立ツヘキコトナキヤ

答、

名 氏 印

右被告人某ニ讀聞カセタル處陳述シタル處ニ相違ナキ旨相答署名捺印セシニヨリ本官等左ニ署名捺印スル者也

審 事 氏 名 印

錄 事 氏 名 印

被告人其陳述ヲ増減變更右被告人ニ讀聞セタル處其陳述ヲ増減變更スヘキコト申立タルニ付更ニ其問答ヲ記載スル左ノ如シ

問、

答、

以下總テ前書式ニ全シ

第十五號

檢證調書

某何々事件ニ付年月日時檢證ノ爲メ何處家屋ニ到リ之ヲ檢スルニ其家屋ハ何々<sup>方面</sup>而何方ノ牆壁ハ何形ニ破壊シ何器ヲ以テ之ヲ毀テタル者ノ如ク以テ人ノ出入ヲ容易ナラシムヘク而足跡泥痕ヲ留メ何所ヨリ何室ニ連接スルニヨリ立會人其他何々ト共ニ其室ニ入り之ヲ查スルニ何々<sup>室内ノ景況</sup>立由此觀之其盜ハ何々<sup>牆壁ヲ破壊シ之ヨリスリ又ハ他ヨ</sup>ヲ爲シタルヲ明瞭ナリ因テ何室ニ於テ見出シタル證憑物件何々ヲ押收シ其受領證ヲ何々ニ付シ何時ニ檢證處分ヲ終リ本官等署名捺印スル者也

年月日

審 事 氏 名 印

錄 事 氏 名 印

第十六號

報告書

兵種隊號(所管)

職官位勳 氏 名

右之者被告事件審問ヲ遂ケ候處某年月日時兵營ヲ脱シ何町古着商ニ官給品ヲ賣リ其代金若干ヲ旅費ニ充テ某所ニ趣キ某日時某所ニ於テ警察官ニ捕ヘラル<sup>自首或ハ夜或ハ二人以上</sup>

成ハ兇器某所ニ入り門戸燬壁ヲ踰越何々ヲ竊ニ取り又某年月日哨兵ニ對シ口論ヲ爲スモ  
ヲ持ス等其所以ノ由ハ證據ヲ開キ等何々ヲ竊ニ取り又某年月日哨兵ニ對シ口論ヲ爲スモ  
暴行ヲ爲サ、ル旨被告人陳述スト雖証人氏名ノ陳述及ヒ何々ノ證ニ依ルニ暴行ヲ爲シタ  
ルノ明瞭ナリ因テ訴訟書類證據相添此段報告候也

年月日

審事氏名印

第十七號

審事意見書

職官氏名

右ノ者被告事件別紙報告書ノ通ニ有之其何々ノ所爲ハ陸軍刑法第何條ニ該リ何々ノ所爲ハ  
普通刑法第何條ニ該リ何々ノ所爲ハ何々ノ證據ニ依レハ何々シタル者ナリト雖モ何々ナル  
ヲ以テ刑法ニ問フ可ラサル者(又何々ノ所爲ハ確定裁判ヲ經或ハ法律ニ於テ其罪ヲ全免ス  
可キ者等)トス此段意見申陳候也

年月日

審事氏名印

第十八號

理事意見書

兵種隊號(所管)  
職官位勳氏名

右之者訴訟書類ニ依リ之ヲ審按スルニ逃亡六日ヲ過キ緝捕セラレハ陸軍刑法第何條ニ該  
シ何々ヲ竊取スルハ普通刑法第何條ニ該ス可キモノトス依テ判決ニ付シ(何々ノ所爲ハ何  
々ニ因リ罪トナラス或ハ何年月ヲ經ルヲ以テ公訴期滿免除ニ屬ス或ハ確定裁判ヲ經或ハ法  
律ニ其罪ヲ全免スヘキ者トス依テ免訴被告人收禁留且放免)可然此段意見上申候也

年月日

理事氏名印

某鎮臺營所司令官氏名殿

第十九號

判決命令書

兵種隊號(所管)

職官位勳氏名

右之者何々之件別紙訴訟書類並ニ證據差廻候條判決可致候事

年月日

某鎮臺營所司令官氏名印

第二十號

軍法會議中

兵種隊號(所管)

證人呼出狀(鑑定人通事呼出狀亦之ニ準ス)

陸海軍ノ部 〇刑法治罪法ニ關スル事

職官氏名  
何々被證人任 何々事件ニ付年月日時證人トシテ當軍法會議ニ出廷可致者也  
正當事故ヲ證明セスノ呼出ニ應セサル時ハ法律ニ依リ罰金ヲ科シ又勾引スルコアルヘシ  
證人奏任以上ニ係ルルハ可致ヲ可有之ト爲シ職官氏名殿宛ト爲ス  
年月日  
某鎮臺(營所)軍法會議  
審事(理事)氏 名 印

第二十一號 證人訊問書

兵種隊號(所管) (何府縣何國區郡町村番地) 職官氏名  
問兵種隊號(所管)本管(等)ハ前ニ示シタル通相違ナキヤ  
答然リ  
問事實、、、  
答、、、、  
年 齡

證據物件アレハ之ヲ示シ

問、、、  
答、、、

以下被告人訊問書ニ準ス  
第二十二號

證人罰金言渡書(鑑定人通事)

本管、、、、

第一號書  
式ニ全シ

兵種隊號(所管)

職官位勳 氏 名

年 齡

右年月日某被告事件ニ付證人トシテ出廷ヲ命シタル處故ナク呼出ニ應セス因テ陸軍治罪法  
第五十一條(陳述ヲ付セサルルハ)普通ニ依リ罰金何圓ニ處ス

某鎮臺(營所)軍法會議

審事(判士長官)氏 名 印

年月日  
第二十三號

免訴命令書

陸海軍ノ部 く○刑法治罪法ニ關スル事

兵種隊號(所管) 職官位勳 氏 名

右ノ者何々ノ件罪トナラス(法律ニ於テ其罪ヲ全免ス)(期滿免除ヲ經)(大赦)等云々因テ免  
訴收禁留置ニ 且放免スル者也

年月日

某鎮臺(營所)司令官 氏名印

第二十四號

犯人交付添書

兵種隊號(所管) 職 官 氏 名

右之者別紙宣告書之通處分相成候間本犯及御交付候也

某鎮臺(營所)軍法會議

年月日

理 事 氏 名 印

監獄長氏名殿

第二十五號

判決書即宣告書 無罪免罪判決  
書之ニ添ス

本管ノノノノノノノ

第一號書  
式ニ全レ

兵種隊號(所管) 職官位勳 氏 名 年 齡

右被告(宣告書ハ其方)ハ何々(犯罪事實何々)証ニ依リ明瞭ナリ(又何々陳述)スト雖ヒ証ニ依レハ何々  
ノ所爲アリタルコト明瞭ナリトス(之ヲ法律ニ照スニ何々ニ揭クル所ノ罪ヲ犯シタル者依テ  
全條ニヨリ何刑ニ處ス)(罰金若クハ罰金ヲ附加ス)(沒收品)何々法律ニ於テ禁制シタル物件  
ナルヲ以テ之ヲ沒收ス(贓物犯人ノ手)ハ何々ハ盜品ニシテ犯人ノ手ニ在ルヲ以テ徵收シテ  
被害者ニ還付ス(損害官物ニ)何々ノ損害ハ金若干ヲ賠償スヘシ(沒收徵收等ノ事項ハ別項  
ニ記載スルモ妨ケナシ)

某鎮臺(營所)軍法會議

年月日

判士長官 氏 名 印  
判士官 氏 名 印  
判士官 氏 名 印  
理 事 氏 名 印  
錄 事 氏 名 印

第二十六號

裁判通報及罰金科料納完照會書

兵種隊號(所管)

職官氏名

右ノ者別紙宣告書ノ通處分相成候間此段及御通報候營内居住ノ者ニシテ罰金ノ宣告アリタルハ一月内ニ罰金納完セシメ(料ナ)十日内ニ科料納完セシメ候様御取計相成度此段御照會及候也

年月日

何官廳(何隊)

御中

理事氏名印

某鎮臺營所軍法會議

下士上等卒及軍屬等ノ刑追テ本犯ハ陸軍刑法第三十條(普通刑法第三十三條)ニ依リ官職ニ處セラレ官職ヲ失フハハ候間爲念此段申添候也

重罪及劔官ヲ附加シ若クハ官職ヲ失フ刑ニ處セラレタルハ府縣へ通報書

本管  
第一號書  
式ニ同シ

第二十八號

罰金科料ヲ禁錮ニ換ニル言渡書

兵種隊號(所管)

職官氏名

右之者何々之罪ヲ犯シタルニ依リ年月日若干ノ罰金(科料)申付ル處一月(十日)ヲ過ルモ未タ納完セサルヲ以テ陸軍刑法第二十七條ニ依リ普通刑法第二十七條第三十條附加ノ罰金ナルハ第四十二條ニ照シ輕禁錮(拘留)何日ニ換フル者也

年月日

府(縣)

御中

某鎮臺營所軍法會議印

判士長官氏名印

右之者別紙裁判宣告書之通何日致處分候條此段及御通知候也

兵種隊號(所管)

職官位勳氏名

年月日

府(縣)

御中

某鎮臺營所軍法會議印

第二十九號

陸海軍ノ部

刑罰法

關スル事

陸海軍ノ部ノ刑罰法ニ關スル事

年月日

御中

判士長官氏名印

某鎮臺營所軍法會議

死刑執行始末書

本管、  
第一號書

兵種隊號(所管)

職官位勳 氏

年 齡

右之者年月日何所ニ於テ何罪ニヨリ死刑ヲ執行スルニヨリ臨場檢視シ其始末ヲ録スル左ノ如シ

一何時何分某軍法會議ニ於テ宣告ヲ爲シ何時何分何隊犯人ヲ護送シ刑場ニ來ル  
一理事某犯人ニ死刑ヲ執行スル旨ヲ告ケ等外吏ニ命シ何々ヲシテ其準備ヲ爲サシム須臾ニシテ準備整ヲ報ス理事乃チ之ヲ小隊長ニ告ク小隊長射手ニ令ス射手進ンテ何歩ノ地ニ立成ハ一發兩眉ノ間ヲ洞ス醫官親接反覆熟視絶命ヲ報ス理事更ニ檢査シ之ヲ隊長ニ告ケ隊長整列ヲ解キ理事何々ニ命シ埋葬ノ手續ヲ爲サシメ 親屬某ニ 何時執行處分全ク畢ル因テ其始末ヲ録シ署名捺印スル者也

年月日

醫 官 氏 名 印  
理 事 氏 名 印

第三十號

死刑揭示

錄 事 氏 名 印

本管、  
第一號書

兵種隊號(所管)

職官位勳 氏

年 齡

宣告全文ヲ掲ク、  
右之通宣告候ニ付公告スル者也

年月日

某鎮臺營所軍法會議

第三十一號

人相書

本管、  
第一號書

兵種隊號(所管)

陸海軍ノ部 く○刑法治罪法ニ關スル事

氏名

年齢

音聲	齒	耳	口	鼻	肩	眼	髮	頭	色	頬	丈	

痘痕	疵所	鬚髮ノ有無	其他特徴	長所	父母妻子	逃走ノ際着用衣服	同上ノ際持去物品	同上ノ際残置物品	犯罪事件ノ概略

別紙  
 他ニ處分ヲ求ムル時ト管下ニ違スル時トニ依リ別紙ニ照シテ之ヲ記入ス

他ニ處  
 右之者何々ノ犯罪有之候處所在分明ナラサルニ依リ  
(或ハ何獄何處へ收禁拘引中何年何月何日何時

分ヲ求

何分逃走(捜索ノ上逮捕ノ御處分有之度候也  
候ニ付)

明治年月日

某鎮臺(營所)司令官 氏名印

ル時

某鎮臺(營所)司令官 氏名殿  
其控訴裁判所檢事長

管下ニ

右之者何々ノ犯罪有之所在分明ナラサルニ依リ(或ハ何獄何所へ收禁拘引中  
候ニ)他ヨリ請求ニ係ル時ハ(捜査) 隠密捜索ヲ迷ケ見當次第逮捕スヘキ  
付(一)ノ上逮捕方囑托有之候ニ付) 隠密捜索ヲ迷ケ見當次第逮捕スヘキ  
著也

達スル

但本人潜匿シタル時ハ家宅ヲ搜索スヘシ

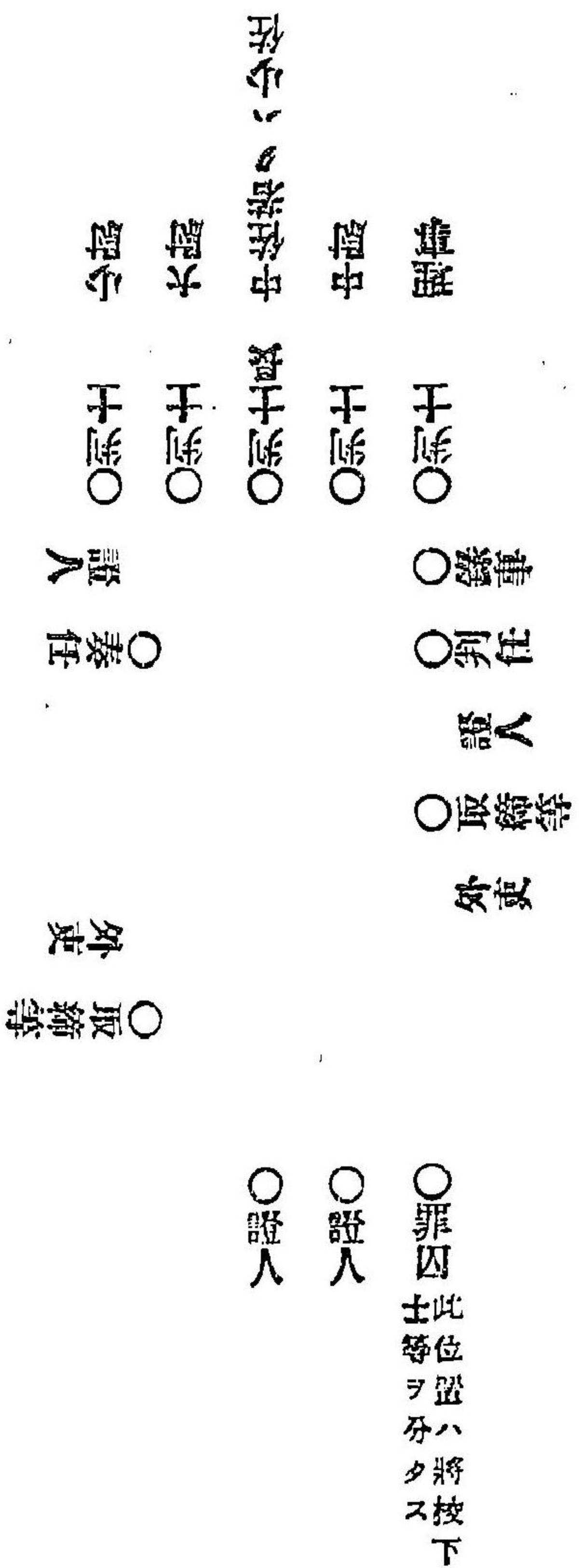
時

明治年月日

某鎮臺(營所)司令官 氏名印

第三十三號

判士長以下列席圖



上ニ掲クル所ノ書式ハ二三概略之例ヲ示ス者ニシテ凡百文書ノ式ヲ枚擧シ盡スモノニ非ル  
也管ヘハ軍人ノ例ヲ擧ケテ平民ニ及ハス証人ヲ例シテ鑑定人通事ヲ例セス審事ニ關スルモ  
ノヲ掲ケテ判士長檢察官ニ關スルモノヲ掲ケス若クハ檢察官命スル處ノ醫師ノ鑑定書ヲ擧  
ケテ豫審若クハ判決ニ於テ命スル鑑定書ヲ示サス竊盜ノ檢證書ヲ掲ケテ其他ニ及ハス照會  
通報書ノ如キモ甲ヲ擧ケ乙ヲ省クノ類是ナリ況ヤ變態百出ノ事物數行書式ノ能ク盡ス所ニ  
非サルハ固ヨリ論ヲ待タサルニ於テオヤ夫ノ範圍ノ中ニ拘々シ爲メニ行文澁滞シ若クハ事  
務煩雜ニ失ヌル若キハ則書式ヲ設クル所以ノ旨趣ニ非ルヲ以テ實際事ニ當ル者類ヲ推シ例

陸海軍ノ部 〇刑法治罪法ニ關スル事



(十二)

ニ從ヒ簡易明瞭ヲ主トシ詳略宜シキヲ得セシムヘシ  
海軍省達 十六年三月十九日  
七第三號府縣へ

海軍治罪法御制定迄當省裁判事務取扱手續ノ儀明治十五年三月乙第一號ヲ以テ相違候處監  
視處分取扱令般別紙ノ通所轉一般へ相違候條爲心得此旨相違候事

海軍ニ於テ犯罪人ニ監視ノ刑ヲ附加シタル時ハ裁判事務取扱手續第七項ニ據ルヘシト雖モ  
尙ホ左ノ手續ニ從ヒ處分ヌ可シ

監視ニ付ヌヘキ者ハ豫メ其住所ヲ定メシメ主刑ノ終リタル時其監視ノ期算滿期ヲ記載シタ  
ル文書及ヒ刑名宣告書ノ謄本ヲ添ヘ監司課長ヨリ最近ノ地方警察署ニ護送ヌヘシ但主刑ノ  
期滿免除ヲ得又ハ主刑ヲ免シ止タ監視ニ付ヌル者ハ其裁判官ヨリ護送ヌ可シ

監視ニ付ヌル者住居ナク及引取人ナキ時ハ監視中別房ニ留置シ工業ヲ爲サシメ又ハ使役ニ  
供ヌ住居遠地ニ在テ歸着ヌル資力ナキ者亦同シ若シ留置中引取人アル時又ハ歸着ヌル資  
力ヲ得タル時ハ護送ノ手續ヲ爲ヌ可シ

監獄中ノ別房ニ留置シタル者ハ其工錢ノ中ヨリ食費ヲ扣除シ餘分ハ皆本人ニ給與ヌ

(一廿)

同 十五年十一月陸軍省  
計局ヨリ陸軍省へ

軍人軍屬ニシテ監視ニ處セラレタル者ハ當局所管東京囚獄ニ於テモ普通刑法附則第二十二  
條ニ準據シ其最近ノ警察署へ護送シ可然哉

指令

伺之通

海軍省達 十八年九月九日丙第  
四拾七號海軍一般へ

海軍軍人軍屬ノ罪犯ニシテ遠隔ノ地ニ送致ヌヘキ者アル時ハ自今警察署へ依頼シテ遞傳護  
送ヌヘシ其費用返辦方監視廳又ハ地方廳ヨリ請求ヌル節ハ艦隊ニ屬スルモノハ會計局ニ於  
テ艦船費ヲ以テ償還シ其他ハ同局ヨリノ通知ニ依リ其裁判管轄ノ廳ヨリ直ニ償還ヌヘシ此  
旨相違候事

(二廿)

海軍省達 十八年十月二十八日丙  
第五拾七號海軍一般へ

本年第十二號布告(一)第四條ニ依リ軍法會議ノ言渡ニ對シ上告ヌル時ハ主理其辯明書ヲ作リ  
訴訟書類ヲ添ヘ所管長官ヲ經テ大審院ニ送致ヌル義ト心得此旨相違候事

(三廿)

同 十六年四月東京鎮  
監ヨリ陸軍省へ

本臺軍法會議ニ於テ被告事件ヲ受理シ訊問ノ末實地ニ就キ取調ヲ要スルキハ審事録事ヲ差  
遣シ可然哉

指令

伺之通

但取調ヲ爲ヌヘキ場所遠隔ノ地ニ在ルキハ其地ノ豫審判事治安判事若クハ司法警察官ニ

陸海軍ノ部 く○刑法治罪法ニ關スル事

(四廿)

(五廿)

協議ノ上取調ノ處分ヲ囑託スルハ不苦儀ト可相心得事

太政官布達 十八年六月十日 第三拾貳號

舊海陸軍刑律ニ依リ職官及ヒ回籍ノ刑ニ該リ文武大小ノ員ニ補スルヲ禁セラレ又ハ武官大小ノ員ニ補スルヲ禁セラレタル者宣告ノ日ヨリ五年ヲ過クルノ後悔改ノ情狀ニ依リ其禁ヲ解クコトアルヘシ

(六廿)

同 十六年七月十三日海軍省ヨリ太政官ヘ

生年ヲ知テ生月ヲ知ラサル被告人年齢計算方ノ義舊法ニ在テハ改定律例第九十三條ニ依リ生年ヲ以テ半年ニ計算致候ヘ共新法ニハ右等ノ明文無之且ツ生月ヲ知ラサル者ハ其六月前ニ出生セシヤ將タ七月以後ノ出生ナルヤモ知ルヘカラサルニ付キ舊法ノ如キ計算法ニシテハ被告人ニ於テ大ニ幸不幸ヲ來シ不都合ト被存候處地方法衙ニ於テハ生月ヲ知ラサル者ハ十二月ヲ以テ生月ト爲シ計算致候由右ハ算定方允當哉ト存候條當軍衙ニ於テモ生年ヲ知テ生月ヲ知ラサル者年齢ノ儀ハ十二月ヲ以テ生月ト定メ計算致度此段相伺候也

指令 十六年八月二十二日

何之通

陸軍省令

十九年五月七日第十五號北海道廳府縣(沖繩縣ヲ除ク)ヘ

歸休兵及豫備後備ノ軍籍ニ在ル者罪ヲ犯シ地方裁判所ノ處分ヲ受ケタルトキハ其罪名刑名

(七廿)

ヲ記シ其帶動者ニシテ勳章ヲ被奪セラレタルトキハ其旨ヲ記シ犯人本籍地ノ戸長ヨリ郡區駐在官ヘ通報セシム可シ但明治十五年<sup>四</sup>當省達第九號達ハ自今廢止ス

○憲兵ニ關スル事

大政官達 十四年三月十一日第十號官省院府縣ヘ

憲兵條例別冊ノ通相定候條此旨相達候事

但現今先ツ東京府下ニ其一隊ヲ實施シ他府縣ニハ追テ施行スヘシ

憲兵條例

第一章 憲兵汎則

第一條 凡ソ憲兵ハ陸軍兵科ノ一部ニ位シ巡按檢察ノ事ヲ掌リ軍人ノ非違ヲ視察シ行政警察及ヒ司法警察ノ事ヲ兼テ内務海軍司法ノ三省ニ兼隸シテ國內ノ安寧ヲ掌ル其職時若クハ事變ノ際ニ於ケル服役ノ方法ハ別ニ之ヲ定ム

第二條 憲兵ハ各軍管ニ布キ各府縣ニ配置ス

第三條 憲兵ノ職掌其軍紀ノ檢察ニ係ル事ハ陸海軍兩省ニ隸シ行政警察ニ係ル事ハ内務省ニ隸シ司法警察ニ係ル事ハ司法省ニ隸ス

第四條 憲兵ハ其職務ニ關シ警視總監府知事縣令<sup>東京府知事ヲ除ク</sup>并ニ各裁判所<sup>檢</sup>ヨリ指示ヲ受ケル時ハ直ニ其事ニ從フヘシ

陸海軍ノ部 や○憲兵ニ關スル事

(一)

第五條 憲兵ハ軍管ノ司令官ニ對シテハ鎮台條例第十九條及ヒ第二十條ヲ遵守スヘシ

第六條 巡察中若シ警察ノ職權ヲ有スル者又ハ巡查ヨリ助力ヲ要求スルコトアラハ直ニ應接シ或ハ代ツテ其事ヲ掌ル又時宜ニ依リ憲兵ヨリ巡查ニ補助ヲ求ムルコトヲ得

第七條 軍人遊歩中途上ニ醉酗暴行シ或ハ酒樓食肆等ニ暴動シ或ハ武權ヲ弄シテ人ヲ侮凌スル等凡ソ隊外ニ在テ兇暴ノ所爲ニ涉ル者ハ直チニ逮捕シ若シ暴行者數人アリテ悉ク捕獲スルコト能ハサル時ハ其中ニテ造意者或ハ其威權アル者ヲ逮捕スヘシ

第八條 若シ草賊一揆等ノ萌芽スルアラハ審カニ之ヲ觀察シ其首唱ノ人名及ヒ其人員等ヲ探偵シテ速ニ報告スヘシ

第九條 水火災ノ節ハ其防救ヲ爲シ非違ヲ警メ及ヒ貨物運搬ノ場所等ヲ監視スヘシ

第十條 變死人アル時ハ速ニ其處分ヲナシ又老幼婦女及ヒ急病人或ハ瘋癲人等ノ危害ニ罹ル者アレハ其扶助ヲ加フヘシ

第十一條 憲兵ハ命令書ヲ有スルニ非サレハ漫リニ人ヲ逮捕シ若クハ人家ニ侵入シ若クハ物件ヲ差押ルコトヲ得ス但現行犯及現行犯ニ准スル場合ハ此限ニアラス

第十二條 憲兵ハ漫ニ兵器ヲ用ルコトヲ許サス

但シ其抗拒シテ制シ難ク殺傷シテ勢ヒ猶豫シ難ヤ者アル時ハ之ヲ用ルモ妨ケナシ

第十三條 凡ソ何等ノ犯罪タルヲ論セス逃レテ外國公使ノ館地内ニ在ル者ハ之ヲ追捕スル

コトヲ得ス此場合ニ於テハ其外部ヲ警備シ速ニ屯所ニ報告シテ其指揮ヲ受クヘシ

第十四條 憲兵ハ其職務上ノ過誤失錯懲戒シテ止ムヘキモノハ陸軍懲罰令ニ照シテ之ヲ處分ス

但シ事ノ軍紀ニ關セサル者ハ此限ニ在ラス

第二章 布置撰任

第十五條 憲兵ハ現今先ツ東京府下ニ其一隊ヲ設置シニ大隊ヲ以テ之ヲ編制シ憲兵本部ヲ置キ陸軍卿ニ直隸ス

第十六條 府内ヲ六區ニ分チ之ヲ憲兵ノ六管區トナシ各管區ニ若干ノ屯所ヲ設ク其六管區ノ配置左ノ如シ

第一管區	日本橋區	京橋區
第二管區	芝區	麻布區
第三管區	赤坂區	荏原郡
第四管區	牛込區	南豐島郡
		東多摩郡

陸海軍ノ部 や○憲兵ニ關スル事

神田區

本郷區

下谷區

淺草區

第五管區

深川區

本所區

南葛飾郡

南足立郡

第六管區

小石川區

北豐島郡

第十七條 憲兵ハ第十八條ヨリ第二十三條ニ據テ其撰擧及ヒ進級ヲ爲ス者トス

但進級法ハ其最下限ヲ示ス者ナルヲ以テ其最下限ヲ越ル者ト雖モ必シモ直ニ進級セシムルノ例ニ在ラス

第十八條 兵卒ハ近衛及ヒ鎮臺ノ常備豫備後備軍ニ在テ左ノ三項ニ合格スル者ヲ撰擧ス

第一項 年齢二十二歳ヨリ三十歳迄ニシテ身幹五尺以上ノ者

第二項 讀ミ書キヲ爲シ得ル者

第三項 行狀方正ノ者

第十九條 伍長ハ憲兵卒ノ服役六ヶ月ヲ經タル者ヨリ撰任ス

但時宜ニ依リ他兵科ノ伍長ニシテ其服役六ヶ月ヲ經タル者ヨリ撰任スルヲ得

第二十條 軍曹ハ憲兵伍長ノ服役六ヶ月ヲ經タル者ヨリ撰任ス

但時宜ニ依リ他兵科ノ軍曹ニシテ其服役六ヶ月ヲ經タル者ヨリ撰任スルヲ得

第二十一條 曹長ハ憲兵軍曹ノ服役一箇年ヲ經タル者ヨリ撰任ス

但時宜ニ依リ他兵科ノ曹長ニシテ其服役一ヶ年ヲ經タル者ヨリ撰任スルヲ得

第二十二條 下副官ハ憲兵曹長若クハ他兵科ノ下副官ヨリ之ヲ撰任ス

第二十三條 士官以上ハ專ラ憲兵曹長以上ノ者ヨリシテ陸軍武官進級條例ニ基キ順次昇給

セシムルヲ以テ正例トス

但時宜ニ依リ他兵科ノ士官以上ヨリ之ヲ撰任スルヲアルヘシ

第三章 職務分掌

第二十四條 憲兵隊長ハ憲兵大(中)佐ノ内一名之ニ任シ憲兵本部長トナリ部下ノ憲兵ヲ統

率シ其命令ヲ司リ其勤惰ヲ監視シ憲兵本部ノ事務ヲ總理ス

第二十五條 隊長ハ各官廳ノ命令或ハ依頼ヲ受ケ其職務ニ服行シ及ヒ其職務ノ事ニ係リテ

ハ直チニ各官廳ト往復スルヲ得

第二十六條 隊長ハ非常ノ事件アルヲ探知セハ即時ニ之ヲ内務卿陸軍卿司法卿及ヒ警視總

監ニ急報スヘシ

第二十七條 隊長ハ非常ノ事件アルニ際シテハ時宜ニ依リ直チニ鎮臺兵ノ應援ヲ要求スル

ヲ得

第二十八條 隊長ハ各大隊長ノ報告ヲ受ケ月末毎ニ報告書ヲ作り行政警察ニ係ル者ハ内務

卿ニ司法警察ニ係ル者ハ司法卿及檢事ニ申告シ其行政及ヒ司法ニ係ル者ヲ併セ陸軍卿ニ申報スヘシ

但シ海軍部内ニ關スル報告ハ別ニ海軍卿ニ申告スヘシ

第二十九條 隊長ハ時々各管區并ニ各屯所ヲ巡廻スヘシ其夜巡ヲ爲ス時ハ軍曹及ヒ兵卒各一名ヲ具スルコトヲ得

第三十條 本部次長ハ憲兵少佐之ニ任シ長ヲ補佐シテ部事ヲ整理シ長事故アルハ其代理ヲ爲スコトヲ得

第三十一條 次長ハ時々各管區并ニ各屯所ヲ巡廻スヘシ其夜巡ヲナスハ伍長及ヒ兵卒各一名ヲ具スルコトヲ得

第三十二條 本部副官ハ憲兵大尉之ニ任シ次長ニ亞テ部事ヲ整理シ兼テ武器掛及ヒ書記ノ勤怠ヲ監視ス

第三十三條 本部副官ハ本部長若クハ次長ノ命ヲ受ケ各管區并ニ各屯所ヲ巡廻スヘシ其夜巡ヲ爲ス時ハ伍長或ハ兵卒一名ヲ具スルコトヲ得

第三十四條 本部下副官ハ憲兵曹長之ニ任シ本部副官ノ命ヲ受ケ本部中ノ庶務ヲ掌ル

第三十五條 大隊長ハ憲兵少佐之ニ任シ部下ノ指揮ヲ司リ巡察ノ部署ヲ定メ其隊ノ事務ヲ總理シ會計ノ事務ヲ監視ス

第三十六條 大隊長ハ時々所轄各管區并ニ各屯所ヲ巡廻シ部下ノ勤怠ヲ監視ス其夜巡ヲ爲ス時ハ伍長及ヒ兵卒各一名ヲ具スルコトヲ得

第三十七條 大隊長ハ各中隊長ノ報告ヲ受ケ一週毎ニ報告書ヲ作り之ヲ隊長ニ申報スヘシ但非常若クハ至急ヲ要スル事件ハ急報又ハ日報ヲ以テ申報スヘシ

第三十八條 大隊副官ハ憲兵中尉之ニ任シ其隊中ノ庶務ヲ掌リ併テ武器掛及ヒ書記ノ勤怠ヲ監視ス

第三十九條 大隊副官ハ大隊長ノ命ヲ受ケ各管區並ニ各屯所ヲ巡回スヘシ其夜巡ヲ爲ス時ハ兵卒一名ヲ具スルコトヲ得

第四十條 大隊下副官ハ憲兵曹長之ニ任シ大隊副官ノ命ヲ受ケ隊中ノ庶務ヲ掌ル

第四十一條 中隊長ハ憲兵大尉之ニ任シ其中隊ノ指揮ヲ司リ又管區以下ノ會計給與ノ事ヲ管理ス

第四十二條 中隊長ハ時々管區内ヲ巡廻シ部下ノ勤惰ヲ監視ス其夜巡ヲ爲ス時ハ伍長或ハ兵卒一名ヲ具スルコトヲ得

第四十三條 中隊長ハ管區内ニ非常ノ事件アル時ハ直チニ出張シ之ヲ大隊長ニ急報シ其指揮ヲ受ケルコトヲ得

第四十四條 中隊長ハ各屯所ノ報告ヲ受ケ一週毎ニ報告書ヲ作り之ヲ大隊長ニ申報スヘシ

第四十五條 小隊長ハ憲兵中(少)尉ノ内之ニ任シ中隊長ノ命ヲ受ケ時々各屯所ヲ巡廻シ部下ノ勤惰ヲ監視ス其夜巡ヲ爲ス時ハ兵卒一名ヲ具スルコトヲ得

第四十六條 小隊長ハ各管區ノ事務ヲ分掌シ各屯所ノ報告ヲ掌ル

第四十七條 小隊長ハ變死人等アル時ハ醫員ヲ率テ其場ニ臨ミ死體ヲ檢視シ軍人ハ該軍衛ニ通報シ其他ハ親戚故舊ニ引渡スヘシ若シ親戚故舊其地ニアラサル時ハ區役所若クハ戶長役場ニ引渡スヘシ

但シ時宜ニ依リ半隊長ヲ以テ檢視セシムルコトヲ得

第四十八條 小隊長ハ非常ノ事件アル時ハ之ヲ中隊長ニ急報シ其指揮ヲ受ケ

第四十九條 小隊副長ハ憲兵曹長之ニ任シ中隊長ノ命ヲ受ケ隊中ノ庶務ヲ掌リ併セテ書記ノ監督ヲ爲ス

第五十條 半隊長ハ憲兵軍曹之ニ任シ小隊長ノ命ヲ受ケ小隊長ノ在ラサル屯所ニ於テハ古參ノモノ其長トナリ小隊長ノ職務ヲ辦理ス

第五十一條 半隊長ハ巡察ヲ派遣スルニ方リ其人員分隊ニ越ル時ハ之カ長トナリ分隊長以下ノ勤務ヲ監視ス

第五十二條 本部武器掛ハ憲兵曹長全書記ハ憲兵曹長軍曹ヲ以テ之ニ任シ大隊附武器掛ハ

(二)

憲兵軍曹全書記ハ憲兵軍曹伍長ヲ以テ之ニ任シ各副官ノ命ヲ受ケ事務ヲ分掌ス

第五十三條 分隊長ハ憲兵伍長之ニ任シ巡察及護送等ノ事ニ當リ分隊ヲ以テスル時ハ其指揮ヲ爲シ兵卒ノ勤務ヲ監視ス

第五十四條 中隊付ノ書記モ亦憲兵伍長之ニ任シ小隊副長ノ命ヲ受ケ事務ヲ分掌ス

第五十五條 兵卒ハ守區ヲ畫シテ巡察スル者ナリト雖モ警察上追蹤スヘキ者アルニ方リテハ自他ヲ區畫スルノ限リニ在ラス又他ノ管區ト連續スルノ事件ハ相通牒シテ其處分ヲ爲ス

軍ヲ巡察中ニ生スル事件ハ手帖ニ記載シ其報告ニ供ス

太政官達 十六年十一月三十日第五十三號官省院廳府縣へ

自今大坂府下ニ憲兵ヲ設置候條此旨相達候事

但東京憲兵ノ内一中隊ヲ分派ス

内務省達 十四年十月二十五日乙第五十二號警視廳府縣(東京府ヲ除ク)へ

憲兵職掌中行政警察事務ノ儀別紙ノ通及達示候條爲心得此旨相達候事

(別紙)

憲兵本部

行政警察ニ關スル事務別紙規程ノ通相心得執行可致此旨相達候事

(別紙)

陸海軍ノ部 や○憲兵ニ關スル事

行政警察事務規程

第一條 行政警察ハ人民ノ凶害ヲ豫防シ安寧ヲ保全スルニアリ其事務ヲ大別シテ左ノ四項トス

一 人民ノ妨害ヲ防護スルヲ

二 法章ノ遵奉ヲ視察スルヲ

三 健康ヲ看護スルヲ

四 國事ニ關スル犯罪ヲ未萌ニ搜索警防スルヲ

第二條 行政警察事務執行ノ際司法警察事務ニ牽連スル事アリト雖モ其事務ヲ混同ス可ラス

第三條 行政警察ノ事務ヲ執行スルニ當リ他ノ警察事務官吏其場ニ臨ミタルハ其處分ヲ專務官吏ニ讓ルヘシ

陸軍省布達 十四年九月十日 第五日第二號

陸軍警察假規則別冊之通相定候條此旨布達候事

陸軍警察假規則

第一條 此規則ハ憲兵平時ニ於ケル陸軍警察ノ勤務ヲ示スモノニシテ行政及ヒ司法警察並ニ海軍ニ關スル警察ノ事務ニハ之ヲ適用スルコトヲ得ス

(三)

第二條 陸軍警察ノ趣旨タル軍紀風紀ヲ維持スルニ在ルヲ以テ憲兵ハ常ニ軍人軍屬ノ行爲ニ注目シ其非違ヲ警防スヘシ

第三條 現行犯罪人ハ直チニ之ヲ逮捕シ現行ニ非サル犯人ハ命令書ヲ以テ逮捕スヘシ但懲罰ニ屬スヘキモノ及ヒ違式註違ノ犯人ハ之ヲ引致スルモノトス

第四條 現行犯罪トハ現ニ行ヒ又ハ行ヒ終リタル際ニ發覺シタル罪ヲ謂フ

第五條 左ノ場合ニ於テハ現行犯ニ準ス

一 犯人トシテ一人又ハ數人ニ追呼セラル、時

二 兇器贓物其他ノ物件ヲ携帶シ又ハ其舉動ニヨリ犯人ト思量シタル時

三 家宅内ニ於テ犯シタル罪ヲ檢證スル爲メ又ハ犯人ト思料スヘキ者ヲ逮捕スル爲メ其戶主ヨリ處分ヲ請求シタル時

第六條 現行犯人ヲ取押フル爲メ人家ニ入ルヘキ時ハ官姓名ヲ述ヘ直チニ入ルヲ得若シ之ヲ拒ミ或ハ藏匿スルモノアル時ハ懇ロニ説諭シ尙ホ用非サル時ハ侵入スルヲ得

但外國人ノ邸宅ニ係ルハ其主ノ承諾ヲ得テ搜索スヘシ若シ肯セサル時ハ其外部ヲ警備シ上官ノ指揮ヲ請フヘシ

第七條 現行犯罪アル時ハ犯人ヲ取押ヘタルト否トニ拘ハラヌ調書ヲ作ルヘシ

第八條 死傷其他檢證ヲ要スル者アル時其証憑ト爲ルヘキ物件ハ悉ク原態ヲ保存シ他人ノ

陸海軍ノ部 や○憲兵ニ關スル事

騷擾ヲ防キ見證人ノ離散ヲ制シ現場ノ景況ヲ屯所若クハ分屯所ニ報シ隨檢ヲ請フヘシ  
第九條 脱走及ヒ休暇期滿キテ還ラヌ又ハ豫備後備軍ニ在テ擅ニ他管ニ出或ハ召集ニ應セ  
サル軍人ト思料スヘキ者アル時ハ休暇免狀宿泊證書或ハ證據ト爲ルヘキモノヲ檢シ其之  
ヲ有セサル者ハ逮捕若クハ引致スヘシ

第十條 現行ニ非サル犯人ヲ認知スル時ハ順序ヲ經テ隊長ニ申告シ其命ヲ俟テ處分スヘシ  
第十一條 告訴告發ハ詳細ニ開取り事實相違ナク法ニ悖ラサルモノハ現行非現行犯ノ區分  
ニ從ヒ處分ヲ爲ヌヘシ

但告訴告發書ニハ署名捺印セシムヘシ

第十二條 命令書ヲ以テ犯人ヲ搜索スルニ方リ其家宅若クハ他人ノ家宅ニ潛匿シタリト思  
料スル時ハ其郡區吏員若クハ隣佑ノ立會ヲ求メ之ヲ搜索スヘシ若シ戸主之ヲ拒ミ或ハ藏  
匿スル時ハ第六條ノ例ニ依ルヘシ

第十三條 命令書ヲ以テ犯人ヲ逮捕スルニ當リ命令書ヲ見シテ請フ時ハ之ヲ示スヘシ

第十四條 犯人搜索ノ爲メ人相書ヲ要スル時ハ隊長之ヲ各分隊長ニ達シ分隊長ハ之ヲ部下  
ニ付シ各自ノ勤務手帳ニ記載セシムヘシ

但其犯人捕ニ就キ若クハ死去シタル時ハ隊長ヨリ速ニ其旨ヲ達スヘシ

第十五條 犯人ヲ逮捕スルニ當リ踪跡ヲ失スル時ハ罪狀並ニ容貌衣服攜帶ノ物品其他證憑

ト爲ルヘキモノヲ詳記シ速ニ最寄屯所若クハ分屯所ニ報スヘシ

第十六條 犯人他區ニ遁逃或ハ潛匿スルヲ探知スレハ速ニ其區ノ屯所若クハ分屯所ニ報  
シ若シ他ノ使府縣ニ係ル時ハ隊長ヨリ其使府縣へ逮捕若クハ引致ヲ依頼スヘシ

第十七條 犯罪ニ關スル物件ヲ差押フル爲メ家宅搜索ヲ要スル時ハ命令書ヲ帶シ其郡區吏  
員若クハ隣佑ノ立會ヲ求メ搜索スヘシ若シ戸主之ヲ拒ミ或ハ藏匿スル時ハ第六條ノ例ニ  
依ルヘシ

第十八條 犯罪ニ關スル物件ハ勉メテ原態ヲ變改セサルヲ要ス其輒ク轉移スヘカラサル者  
ハ場所ノ周圍ヲ閉鎖シ又ハ看守者ヲ置クヘシ但已ヲ得サル場合ニ於テハ親屬又ハ隣佑ニ  
寄托スルヲ得

第十九條 隊長ハ犯罪ノ事實發見ノ爲メ必要ナリトスル時ハ驛遞電信鐵道ノ官署又ハ諸會  
社ニ事由ヲ通知シ其證憑トナルヘキ者アル時ハ之ヲ差押エルヲ得ヘシ

第二十條 犯人ヲ逮捕若クハ引致シタル時ハ隊號官姓名等ヲ取調其逮捕ニ係ルモノハ携帶  
品ハ悉ク之ヲ取揚クヘシ就中劍銃火藥其他危害ト爲ルヘキモノニ注意スヘシ但證人ト爲  
ルヘキモノニ對シ屯所若クハ分屯所ニ到ルヲ求ムルヲ得

第二十一條 分屯所ニ於テ逮捕若クハ引致シタル犯人(逆式註違ヲ除ク)ハ總テ屯所へ送付  
スヘシ但屯所最寄ニ於テ逮捕若クハ引致シタル時ハ直チニ屯所ニ送付シ然ル後分屯所ニ



報スルモ妨ケナシ

第二十二條 違式註違ノ犯人ハ引致シタル屯所若クハ分屯所ニ於テ違式註違條例ニ照シ士官之ヲ處分スヘシ

第二十三條 屯所若クハ分屯所ニ於テ犯人ヲ逮捕若クハ引致シタル時ハ直チニ本人所管ヘ通報スヘシ

第二十四條 分屯所ヨリ犯人ヲ屯所ニ送付スル時ハ調書ヲ作り携帶品及ヒ贓物等ト全時ニ送致スヘシ但携帶品及ヒ贓物ハ犯人ノ面前ニ於テ目錄ヲ作り之ニ調印セシムルモノトス

第二十五條 屯所ニ於テ犯人ノ取調ヲ爲ス時ハ下士ヲシテ口供ヲ書取ラシメ兵卒一名若クハ二名ヲシテ看守ヲ爲サシムヘシ

第二十六條 犯人取調中黨類アルヲ認知スル時ハ速ニ隊長ニ申告スヘシ

第二十七條 犯罪ニ關スル物件ニ付鑑定人ヲ要スル時ハ分隊長ヨリ直ニ之ヲ召喚スルヲ得

第二十八條 鑑定ハ取調ヲ爲ス者ノ面前ニ於テ之ヲ爲サシメ其鑑定書ニ署名捺印セシムヘシ

第二十九條 犯人ノ取調ヲ爲スニハ決シテ拷掠究治スルヲ許サス其罪ニ服セサル者ハ強

ヒテ甘結セシムルコトヲ要セス

第三十條 分隊長ハ犯罪ノ軍律ニ觸ル、者ハ假口供並ニ關係書類ヲ隊長ニ送呈シ指揮ヲ請ヒ懲罰ニ屬スヘキ者ハ本人ヲ直チニ其所管ヘ交附スヘシ然レモ其軍律ニ觸ル、者ニ關涉

スル時ハ隊長ノ指揮ヲ請フモノトス但懲罰ニ屬スヘキモノニシテ本人ノ所管東京ニ非ラサルモノハ陸軍裁判所ニ送付スルモノトス

第三十一條 隊長ハ分隊長ヨリ犯人處分ノ指揮ヲ請フ時ハ尙ホ之ヲ審覈シ假口供並ニ關係書類ヲ添ヘ陸軍裁判所ヘ送付スヘシ

第三十二條 犯人取調ノ爲メ之ヲ拘留スルモ分屯所ニ於テハ一日(二十四時間)屯所ニ於テハ三日(七十二時間)ヲ過クルヲ得ス若シ事故ニヨリ定期ヲ超ユル時ハ其事由ヲ詳記シ上官ニ申告スヘシ

第三十三條 犯人ヲ護送スル時ハ嚴重ニ其取締ヲ爲スヘシ然レモ之カ爲メ苛酷ノ取扱ヲ爲スヘカラヌ

第三十四條 犯人二名以上ヲ全時ニ護送スル時ハ其罪狀ニ依リ之ヲ別異スヘシ

第三十五條 犯人暴行ヲ以テ逃亡セントスル時ハ勉メテ之ヲ制シ猶從ハサル時ハ相當ノ處置ヲ爲スヲ得

第三十六條 犯人若シ逃亡シタル時ハ速ニ追跡スヘシト雖モ之カ爲メ他ノ犯人ノ護送ヲ遲延スヘカラヌ

第三十七條 暴行ヲ鎮壓スル爲メ犯人ニ死傷アル時ハ其顛末ヲ速ニ屯所若クハ分屯所ニ報シ檢視ヲ請フヘシ

第三十八條 中(少)尉若クハ軍曹檢視ヲ爲スニ方リテハ先ツ見證人ニ就キ其事情ヲ聞取リ然ル後之ヲ檢視シ死傷ノ原因景狀等ヲ詳記シ証告書ヲ作り診斷書ヲ添ヘ之ヲ上官ニ呈ス

第三十九條 犯罪ノ事蹟並ニ器物等ハ詳細取調犯罪ノ證憑トナルヘキモノハ之ヲ拾聚スヘシ

第四十條 行兇人逃亡シ被害人生存スル時ハ其行兇人ノ容貌衣服其他事情ヲ聞取り之ヲ詳記シテ探索ノ用ニ供スヘシ

第四十一條 檢視終レハ被傷者及ヒ死屍ハ本人ノ所管ニ交付スヘシ若シ其所管東京ニアラサル時ハ被傷者ハ東京陸軍病院ニ送付シ死屍ハ假埋ヲ爲シ其旨ヲ所管ニ通報スヘシ

第四十二條 陸軍裁判所ヨリ死刑執行ノ通報アル時ハ警備ノ爲メ適宜人員ヲシテ臨場セシムヘシ

第四十三條 證書類ハ左ノ書式ニ照シ楷行ノ書体ニ片假名ヲ交ヘ行文ハ勉メテ簡明ナルヲ要ス若シ止ムコトヲ得ス改竄塗抹挿入等ヲ爲ス時ハ必ス本人ヲシテ認印セシムヘシ

命令書式

憲兵官 姓名

何ノ誰(所管隊號官姓名)儀何々ニ付逮捕(引渡)(家宅搜索)可致事

憲兵隊長

年月日

官 姓名 印

逮捕證告書式(引致ニ係ル證告書モ亦之ニ準ス)

所管隊號

官 姓名

右ノ者(逃亡殺傷等)ノ所業有之趣ヲ以テ逮捕ノ命ヲ奉シ或ハ何ノ誰ヨリ何々ノ訴有之ヲ以テ直チニ其場ニ臨ミ或ハ何誰ヲ毆打スルヲ見認メ(逮捕シタル月日場所並ニ現場ノ景況ヲ詳細ニ記載ス)依テ逮捕致候(事故ニヨリ本犯逮捕スル能ハサルトハ其事由ヲ記ス)此段證告候也

憲兵第幾分隊

年月日

官 姓名 印

家宅搜索ヲ爲シタル時ハ立會人ヲシテ連署セシムヘシ

物件差押證告書式

何々ノ件ニ付物件差押ノ命ヲ奉シ戸長或ハ隣佑立會ノ上家宅搜索ヲ遂處左ノ通ニ候間此段證告候也

一犯人ノ所管隊號官姓名

陸海軍ノ部 や○憲兵ニ關スル事

- 一 犯罪ノ事由
- 一 戸主ノ姓名
- 一 搜索シタル室
- 一 開披シタル器具
- 一 差押ヘタル物件
- 一 搜索ノ月日時

憲兵第幾分隊

官 姓名 印

立會人

姓 名 印

差押ヘタル物件ニ付犯人或ハ戸主ノ辨解アリタル時ハ之ヲ別紙ニ記載スヘシ

検視證書式

何月何日何時何誰ヨリ變死傷ノ申報有之醫官何某同道臨檢候處何誰或ハ姓名不詳何年位ノ者縊死開腹殺傷ニ有之(疵ノ大小深淺出血ノ多少皮膚ノ景況等詳細ニ之ヲ記ス)全ク謀殺又ハ強盜等ノ所爲ト相見エ何々ヘ引渡シ又ハ假埋取計置候依テ醫官診斷書并ニ見證人證書相添此段證書候也

憲兵第幾分隊

官 姓名 印

所管隊號

官 姓名

診斷書式

年月日

右ノ者變死傷ニ付何ノ誰(官姓名)ノ檢視ニ立會候處何々々々(創傷ナレハ其部位廣狹深淺並ニ豫後等)(溺死ナレハ肺ノ膨脹胃中水液ノ有無皮膚ノ景況等)(縊死ナレハ其縊痕ノ形狀膈肺血液充盈ノ有無等ヲ記ス)ナルヲ以テ何々候者ト及診斷候也

醫官

官 姓名 印

口供書式 (○印朱書)

口供書式

分	隊長	官姓名名印	所管隊號(本管族籍)
主	任	官姓名名印	
書	記	官姓名名印	官 姓名 名
		押 人	

陸海軍ノ部 や○憲兵ニ關スル事

罪名	逃亡	盜等	黨類	何人	犯人	本管族籍隊號官姓名	宗旨	年齡
前科	何年何月何日陸軍裁判所或ハ何鎮臺ニ於テ何々ノ科ニ依リ杖何十匁何日(何等營倉何日)申付ラル							
自分義云々	、	、	、	、	、	、	、	、
右之通相違不申上候事	、	、	、	、	、	、	、	、
年月日						姓 名	印	(下士以上ハ花押兵卒ハ拇印)

(四)

一 逮捕自首告訴發ノ年月日時場所ハ詳ニ之ヲ記スヘシ  
 一 數業ニ涉ルモノハ必ス本人ヲシテ其緩リ目ニ花押若クハ拇印ヲ爲サシムヘシ  
 海軍省達 十七年四月一日丙第  
 六十六號海軍一般  
 海軍警察心得左ノ通相定ト此旨相違候事  
 但明治十四年丙第六十五號達ハ廢止ス

別紙

海軍警察心得

第一條 憲兵ハ海軍警察ノ事ヲ行フ可シ但鎮守府及艦船中營其他海軍各官舎内ニ於テハ此限ニ在ラス  
 第二條 判士長若クハ審問委員ヨリ令狀ヲ附托シタルトハ速ニ其執行ヲ爲スヘシ  
 第三條 海軍軍人軍屬ノ現行犯人ヲ逮捕シタル時ハ之ヲ東京若クハ鎮守府軍法會議ノ主理若クハ其被告人所屬ノ艦船營ニ送致ス可シ  
 第四條 海軍治罪法第二十五條ノ諸官其職務ヲ行フ爲メ若クハ主理刑場警戒ノ爲メ兵員ヲ要求シタル時ハ其求ニ應ヌ可シ  
 第五條 前數條ニ記載シタル外ハ陸軍警察規則ニ依リ處分ス可シ但臨時告達若クハ命令アル時ハ其告達命令ニ從フ可シ  
 (ま) ○監獄ニ關スル事  
 陸軍省達 十六年十月二十  
 四日乙第百十號  
 陸軍監獄署官員服務概則別冊ノ通相定候條此旨相違候事  
 但明治九年九月達第百四十號達ハ廢止ト可相心得事  
 陸軍監獄署官員服務概則

(一)

陸海軍ノ部 ○監獄ニ關スル事

- 第一條 新ニ入監スル者アル時ハ監獄長先ツ拘引狀收禁狀裁判宣告書等ノ文書ヲ査閲シテ之ヲ領シ其領收ノ證ヲ引致シ來ル者ニ交付ス其文書ナキ者ハ之ヲ入監スヘカラス其入監者ノ名籍ハ軍法會議ノ報知ヲ得テ書記ヲシテ其要領ヲ録セシム
- 第二條 監房ニ入ル、物品ハ監獄長之ヲ檢査シ其危險ノ慮アル者ハ之ヲ禁スヘシ
- 第三條 定役ニ服セザル囚徒ト雖モ監獄長之ヲ勸誘シ自ラ勞作セント請フニ至ラシムルコトヲ要ス其工業ノ種別ヲ定ムルハ監獄長ノ指示ニ依ル
- 第四條 監獄長ハ不時ニ監房ノ内外ヲ巡視シ或ハ物件ヲ査閲スヘシ
- 第五條 監獄長ハ看守長及看守卒ヲシテ常ニ在監人ノ行狀ヲ録セシメ以テ賞罰ヲ行フノ參考ト爲スヘシ
- 賞罰ヲ行ヒタルトキハ第四十四條ノ例ニ依リ在監人ニ示スヘシ
- 賞罰ヲ與ヘタル時ハ賞簿ニ其氏名及ヒ賞詞ヲ記載シ若シ褫奪シタル時ハ之ヲ刪除スヘシ
- 第六條 在監人滿期ノ者アル時監獄長ハ其本人ノ所管ヘ其旨ヲ滿期二日前ニ通報スヘシ
- 第七條 共犯ニ掛ル未決者ハ其監房ヲ別異シ談話通譯ヲ禁シ法院ニ押送スル時亦同行セシムルコトヲ得ス但犯狀ニ依リ之ヲ別異セザルヲ得
- 第八條 要犯疑獄ニ係ル者ヲ拘禁スル監倉ニ於テハ其氏名ヲ呼ハス番號ヲ以テ之ニ換フヘシ其着衣ノ外襟ニ白布ヲ縫着シ番號ヲ墨書シ監房ヲ出入スル毎ニ皂布ヲ以テ覆面シ當眼

- ノ所ニ小孔ヲ穿テ共犯者ヲシテ共ニ拘禁ノ身タルヲ窺探スルコトヲ得カラシム
- 第九條 前二條ハ理事若クハ審事ノ報ヲ得テ監獄長其指揮ヲ爲スヘシ
- 第十條 入監人ノ攜帶スル財物若クハ物品ハ看守長悉ク點檢シテ其名數ヲ簿冊ニ記載シ監獄長証印シテ之ヲ領置シ解放ノ時還付スヘシ但點檢ノ際隱匿スル貨物ハ之ヲ沒收ス其領置ノ貨物ヲ以テ親屬ヲ扶助シ其他正當ノ費用ニ充ント請フ時ハ之ヲ許ス未決者ニ係ルトキハ理事審事ニ照會シテ之ヲ行フ
- 第十一條 看守長ハ入監者ノ全身ヲ檢査シ利器其他ノ物件ヲ夾帶スルヲ拒クヘシ
- 第十二條 看守長ハ總テ在監人ノ姓名ヲ簿冊ニ記載シ之レニ番號ヲ付シ監房ノ出入ヲ明瞭ニスヘシ
- 第十三條 看守長ハ日夜監房ノ内外ヲ巡視シ或ハ物件ヲ査閲スヘシ
- 第十四條 看守長ハ毎日終役ノ際工業ノ諸器械ヲ簿冊ニ照シテ點檢スヘシ
- 第十五條 看守長書記ハ月末毎ニ諸工業ニ關スル需用品ノ檢査ヲ遂ケ其費消高及殘餘等ヲ監獄長ニ申報ス可シ
- 第十六條 在監人ヲ軍法會議其他ヘ護送スル時看守長ハ監獄長ノ達ヲ受ケ看守卒ヲシテ護送セシム若シ病囚アレハ醫官ノ診斷ニ依リ乗車セシムルコトアリ
- 第十七條 在監人ヲ他監ニ移ス時ハ其名籍若クハ處刑ノ宣告書其他必用ノ文書及領置ノ貨

物ヲ具シ看守長ヲシテ其引渡ヲナサシム

第十八條 毎日囚徒ヲシテ役ニ就カシムルニ際シ悉ク之ヲ監房外ニ整列セシメ看守長及看守卒點檢ヌ可シ還房セシムルモ亦全シ

第十九條 看守長ハ日々製造品ノ檢査ヲナシ翌日ニ至リ其物品ヲ監獄長ニ差出スヘシ

第二十條 看守長ハ被服寢具ノ欠乏アルモハ監獄長ニ請求シ之ヲ受取り囚徒ノ姓名及ヒ被服ノ番號ヲ牒簿ニ記載シテ貸與スヘシ

第二十一條 書記ハ日々遺漏ナク已決未決ノ名稱ヲ記載シ滿刑放免ノ期日ヲ計算シ報告書ヲ作り監獄長ニ差出スヘシ又記録ヲ明瞭ニシ文書ノ錯雜ナカラシメンコトヲ要ス

第二十二條 書記ハ毎月囚徒ノ製造セル物品ノ數量價位等ヲ牒簿ニ詳記シ監獄長ノ閱檢ヲ受クヘシ

第二十三條 看守卒ハ晝夜間斷ナク獄舎内外ヲ巡視シ破牢越獄等ノナカラシメンコトヲ要ス又獄則ニ違フ者アル時ハ其旨ヲ看守長ニ申告スヘシ

第二十四條 在監人法廷ニ出ル時及運動入浴其他都テ獄舎ヲ出入スル時ハ看守卒之ヲ監視シ慥モ怠慢スヘカラス

第二十五條 看守卒ハ工役ノ督責ニ任シ日々ノ製造高ヲ牒簿ニ記シ調印シテ其物品ト共ニ看守長ノ檢印ヲ受クヘシ

第二十六條 囚徒ノ製造品賣却代價ノ中ヨリ器械費及需用費等ヲ引去リ其利益金ハ毎月官納スヘシ

第二十七條 在監人ヨリ發スル信書ハ必ス書信紙ヲ用ヒシメ司獄官吏之ヲ緘シ封皮ニ其受領スヘキ者ノ住所氏名ヲ書シ其陸軍監獄署ト記シ之ヲ遞送ス但郵便稅ハ自辨セシム其自辨スル資力ナキ者ニハ之ヲ許サス

第二十八條 門ノ開閉ハ日出日没タルヘシ其鑰ハ宿直官吏之ヲ領置シ開門ノ時々門番ヘ授クヘシ

第二十九條 門ノ通行ハ陸軍ノ徽章アル者ノ外ハ姓名及其事由ヲ問ヒ之ヲ許ス已決未決監ノ門ハ陸軍徽章アル者ト雖モ監獄長ノ遠ニ非サレハ通行セシムルコトヲ得ス

第三十條 司獄官吏在監人ヲ管束スルハ一ニ和平ヲ乘リ罰令ニ照シ處分スルノ外恣ニ責罰スルコトヲ得ス

第三十一條 在監人書籍ヲ看シト請フ者アルトモハ内務書及操典若クハ修身營業ニ必用ナル者ノミ之ヲ許スヘシ

第三十二條 未決者法廷ニ出ル時制服ヲ所持セル者ハ之ヲ着セシム但帶劍ヲ許サス

第三十三條 未決者及定役ニ服セサル已決囚ハ毎朝日出ノ頃ニ起床シ各其監房ヲ掃除シ畢リテ喫飯セシム又毎日一時間以内監房外ニ於テ運動セシム

第三十四條 定役ニ服スル者ハ毎朝日出ノ頃ニ起床シ各其監房ヲ掃除シ畢テ喫飯セシム其起床ヨリ約于一時間ヲ經テ役ニ就カシメ午前第十時前後ニ於テ湯若クハ水ヲ與ヘ正午十二時ニ至リ休役ス午後飯後暫時休憩シ再ヒ就役日没前役ヲ罷メシム其時間ハ別表ニ之ヲ定ム但時宜ニヨリ其時間ヲ伸縮スルコトヲ得

起床還房及就役休役其他勅止ヲ令スルハ鈴若クハ柝ヲ以テシ全監一齊ニ勅止セシム

第三十五條 囚徒ノ專習スヘキ工業ハ授業手若クハ工業殊等ノ囚ヲシテ之ヲ導カシム其刑期一年以下ノ者ニハ習熟シ易キ工業ヲ授クルコトヲ要ス

第三十六條 科程ヲ畢リタル者ハ時間ニ拘ハラヌ役ヲ罷メシム午飯ニ就カシムルノ際科程ノ大半ヲ爲シ得タルヤ否ヤヲ點檢シ若シ怠役スル者ハ飯後ノ休憩ヲ許サヌ

第三十七條 工業ニ勉勵シテ食費ヲ償フヘキ工錢ヲ得ル者ニハ其請ヒニ由リ領置シタル工錢ヲ以テ食物ヲ購ヒ之ヲ給スルコトヲ得但一日金二錢ニ過クルコトヲ得ス

定役ニ服セサル者ニハ其請ヒニ由リ領置シタル工錢ヲ以テ食物ヲ購ヒ之ヲ給スルコトヲ得但一日金五錢ニ過クルコトヲ得ヌ

第三十八條 在監人各自ノ工錢ヲ以テ物品ノ需用ヲ願フ時ハ一週日毎ニ買辦支給スルモノトス

第三十九條 浴湯ノ定度ハ毎年六月ヨリ九月ニ至ルマテハ三日毎ニ一次十月ヨリ五月ニ至

ルマテハ七日毎ニ一次トス

第四十條 已決囚ノ髪ハ之ヲ短薙スヘシ

第四十一條 衣類雜具其他ノ物品ハ種質ニ由リ時々熱湯ヲ用ヒテ之ヲ滌ヒ臭氣ヲ去リ蟲害ヲ防クコトヲ要ス但病者ノ物品ト混一ニシテ之ヲ曝洗ス可ラヌ

第四十二條 燈火ハ監房外ニ置キ危險ノ虞ナカラシム

第四十三條 監房ニハ常に左ノ器具ヲ備ヘ置クヘシ

- 一時水器 木製 一洗手盥 木製
- 一飲器 木製 一唾器 木製
- 一便器 木製

但監房ニ廁圍アルモノハ此器ヲ用ヒス

- 一糞掃 一雜巾

第四十四條 特赦ヲ受ケタル者アル時ハ免役日若クハ日曜日ノ午後ニ於テ他ノ囚徒ニ其旨ヲ告達シ仍ホ之ヲ揭示スヘシ

第四十五條 各監房内ニ左ノ諸款ヲ揭示シ傍訓釋義シテ解シ易カラシム可シ若シ文字ヲ知ラサル者アレハ入監ノ時ヨリ二十四時内ニ於テ之ヲ讀示スヘシ但未決監ニハ第二款第九款ヲ揭示セヌ

揭示

- 一 在監人ハ常ニ教令ヲ謹守スヘシ
- 一 平日互ニ和順ヲ主トシ教誨聽聞ノ席ニ就ク時ハ慎テ容止ヲ正フスヘシ
- 一 毎朝父母若クハ其墳墓所在ノ方位ニ向テ禮拜ス可シ
- 一 毎朝常用ノ諸器具ヲ清潔ニシ之ヲ排列シテ點檢ヲ受ケ及席壁厠園等ヲ掃除スヘシ
- 一 窓壁若クハ物件ヲ汚損シ唾壺外ニ唾シ時水ヲ濫用スルコトヲ禁ス
- 一 監外ニ出タル時其途上ニ於テ全行ノ者ト交談シ及手ヲ交ヘ或ハ路人ニ聲語スルコトヲ禁ス
- 一 夜間ハ最モ鎮靜ヲ主トシ談話或ハ發聲或ハ濫リニ起步スルコトヲ禁ス晝間ト雖モ放歌喧噪或ハ高聲ニ誦讀シ又ハ隣房ノ者ト談話スルコトヲ禁ス
- 一 許可ヲ得サル物品ヲ監房ニ置キ或ハ勝負ヲ競ヒ或ハ賭博類似ノ惡戯ヲナシ或ハ全房ノ者ニ汚辱ヲ被ラシメ猥褻ニ涉ルカ如キ所爲アルコトヲ禁ス
- 一 服役中共作業ニ關セサル他事ヲ交談シ及ヒ休憩ノ時間部外ノ工場ニ到ルコトヲ禁ス
- 一 許可ヲ得スシテ衣食其他ノ物件ヲ受與貸借スルコトヲ禁ス
- 一 總テ願向ハ官吏巡視ノ際申出ヘシ
- 一 監房ニ於テ異常ノ事アレハ晝夜ニ拘ハラヌ直ニ看守所ニ通聲スヘシ

- 一 日没後ハ發病スルモ其症急劇ナルニ非サレハ翌朝ニ至テ醫療ヲ乞フ可キ者トス若シ劇症ナルトキハ直ニ看守所ニ通聲スヘシ
  - 一 獨居ノ者卒カニ病ヲ發シタル時ハ監房ヨリ看守所ニ架スル所ノ響器繩ヲ引キ以テ之ヲ報スヘシ
  - 一 病者アル時ハ全房ノ者共ニ介抱ニ力ヲ致ス可キハ勿論其看護人タラシムル者ハ切實ニ之ヲ看護スヘシ
  - 一 水火風震ノ際解放ニ遭フ者ハ其解放ノ時ヨリ二十四時内ニ監獄署或ハ憲兵部又ハ警察署ニ其旨ヲ首出スヘシ
- 右ノ諸款ニ違フ者アルコトヲ知テ告ケサル者ハ其情狀ヲ量リ處分ス可キ者ナリ
- 某 陸 軍 監 獄 署
- 年 號 月 日
- 第四十六條 滿刑歸隊歸郷ノ者ヘハ旅次證書ヲ附與ス可シ其證書ニハ某陸軍監獄署ト記シ署印ヲ捺ス可シ
  - 第四十七條 在監人醫官ノ診斷ヲ願フ時ハ看守所長其姓名ヲ帳簿ニ記載シ醫官ニ申報スヘシ
  - 第四十八條 醫官ハ在監人一般ノ健康ヲ保全シ毎日囚徒就役時限前病者ヲ診察シ輕役休業監房入室等ヲ區分シ看守所長ニ指示ス可シ



第四十九條 病者ノ攝養ニ效アル飲食物若クハ湯婆等ヲ用ユルヲ要スル時ハ醫官其旨ヲ  
 聲明シ監獄長之ヲ考檢シテ許否スヘシ

第五十條 傳染病侵襲ノ兆アル時其消毒豫防ヲ慎重ニス可シ若シ在監人中傳染病者アル時  
 ハ直ニ病性及感染ノ形狀ヲ詳悉シ醫官ノ診斷書ヲ副へ所屬ノ長官ニ申報ス可シ

第五十一條 在監人死去スル時ハ監獄長醫官看守長會全驗屍ス可シ  
 驗屍畢レハ其狀況及月日時限ヲ記載シ醫官ノ診斷書ヲ添へ本人所屬ノ長官ニ申報ス可  
 シ

該隊不在ノモノハ監獄署ニ於テ陸軍墓地へ埋葬シ其費用ハ本隊ヨリ償還セシム若シ軍人  
 軍屬ニ非サル者ハ本籍ノ戶長戸長ナキハ區長及近地ノ親屬若クハ故舊ニ通知スヘシ  
 未決者又ハ已決囚ニシテ再ヒ訊問ニ係ル者ハ軍法會議ニモ亦之ヲ通知スヘシ

第五十二條 看護長ハ調劑及治療器械ノ磨拭等ヲナシ又患者ノ被服其他需用ノ物品ハ監獄  
 長ニ請求シテ之ヲ受授セシム

第五十三條 看病卒ハ患者ヲ切實ニ看護シ又常ニ病室ヲ清潔ニ掃除スヘシ

用紙美濃紙

監獄長檢印未決者名籍

主檢 何等書記氏名印

隊號	兵種	本管	某管下國郡區町番地住族又ハ其子弟
產地	族籍	氏名	何國郡區町村 隊號 職名 官 氏名
年齡			其年 月 日生 當何年何月何年何月
職業及ヒ親屬			職業ヲ詳記ス可シ 父母兄弟及ヒ配偶者子孫ノ有無
乳兒提携			男或ハ女 收監ノ時何年何ヶ月
入監ノ年月日時			明治何年月日(前居)何時入監 何々ノ罪ヲ犯ス
身材			長何尺何寸何部肥瘠強弱
容貌	音聲		面体肩毛耳目口ノ形容面色ノ黑白四肢ノ交應其他痘斑瘰子癩瘡風天癩創瘡ノ類及 ヒ音聲ノ高低ヲモ細細ニ具載ス
教育	宗門		文字ヲ知ルヤ否或ハ讀書ヲ爲スヲ得或ハ善ク讀書ヲ爲ス 何宗或ハ宗門不詳
入監中勞働 及ヒ處罰			明治何年月日何々ノ勞働アリ 明治何年月日何々ノ行フ
書信贈答ノ年月日			明治何年月日何國郡町住親屬若クハ朋友ニ書信來
當該官ノ氏名			判士長及審事ノ氏名
事	變		明治何年月日病死或ハ變死或ハ脱監

終 結 明治何年月日放免若クハ刑ノ宣告執行  
又ハ他監押送

用紙美濃紙

監獄長(印) 已決囚名籍 主檢 何等書記 氏名 印

隊號 兵種 本管

產地 族籍 氏名

年齡

職業及親屬

刑名及ヒ宣告ノ月  
日軍法會議ノ名稱

入監ノ年月日

犯由ノ大略

身 材

容 貌

教育及ヒ宗門

其管下國郡區町番地住族又ハ某子弟  
何國郡區 隊號職名 官 氏名  
其年月日生  
當何年月何年何ヶ月

職業ヲ詳記スヘシ  
父母兄弟及ヒ配偶者子孫ノ有無

何刑者年月日  
明治何年月日何軍法會議ニ於テ宣告

明治何年月日午前何時入監

財物ヲ窃取シ或ハ人ヲ毆傷スル等犯罪ノ大略ヲ記ス若シ再三犯ナレハ往年何罪ヲ犯シ其軍  
法會議ニ於テ何刑ニ處セラル

長何尺何寸何分肥瘠強弱

面體肩毛耳目鼻口ノ形容面色ノ黒白四肢ノ姿態其他痘斑瘰癧瘰癧風天皴創瘻ノ類及  
音聲ノ高低ヲ細細ニ具載ス  
文字ヲ識ルヤ否或ハ讀書ヲ爲スヲ得或ハ善ク讀書ヲ爲ス  
何宗或ハ宗門不詳

入監中ノ賞罰 明治何年月日何ノ賞罰ヲ行フ

書信贈答ノ年月日 明治何年月日何國郡町住親屬若クハ朋友ニ書信來發

假 出 獄 明治何年月日假出獄

事 變 明治何年月日病死或ハ瘵死或ハ脫監或ハ何ノ罪ヲ犯シ後々未決監ニ入ル

終 結 明治何年月日滿期放免又ハ特赦

一在監人ヨリ其親屬故舊ニ送ル書信ハ此紙ニ書寫スヘシ  
一書信ノ文句規則ニ背キタルイアル時ハ其送致ヲ止メ仍ホ相當ノ罰ニ處スルイアルヘシ

監獄署在監人書信紙明治年月日

陸海軍ノ部 〇監獄ニ關スル事

囚徒服役時限表

月名	時限	起	床	就	役	小	息	午	飯	罷	役	晚	飯	還	房	服役時限合計
一月	前七時〇二分	前八時〇二分	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	六時廿八分
二月	六時三十八分	七時三十八分	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	六時五十七分
三月	六時〇六分	七時〇六分	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	七時三十五分
四月	五時三十二分	六時三十二分	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	八時三十八分
五月	五時〇一分	六時〇一分	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	八時五十九分
六月	四時四十九分	五時四十五分	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	九時〇五分
七月	四時五十分	五時五十一分	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	八時四十九分
八月	五時十六分	六時十六分	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	八時〇四分
九月	五時四十八分	六時四十八分	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	八時十二分
十月	六時廿二分	七時二十二分	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	七時〇三分
十一月	六時五十二分	七時五十二分	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	六時十三分

十二月	七時〇八分	八時〇八分	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	六時十二分
<p>約子日出ノ時刻ヲ以テ起床ノ時刻トナス然ルニ年々季節ニ早晚アリ日々分秒ニ差刻アリ加フルニ東國西國ノ別アリ此ニ由テ何レノ地方ニ於テモ分秒ノ差違サキヲ保ツ能ハス故ニ月毎ニ大約之ヲ平均シテ姑ク其起床時刻ヲ算出ス各地ノ町獄官此表ノ區分ヲ進トナシ宜シク裁酌シテ役囚ヲ遣スヘシ</p>																
<p>右ノ時間ニシテ約子日没ノ時刻ヲ併理刻ヲ以テ入監シ及ヒ發浴等ノ時刻トナスヲ爲サシム</p>																

(二)

陸軍省達 十六年十月二十  
四日七第百九號

陸軍監獄則別冊ノ通相定メ候條此旨相違候事

第一章 總則

第一條 陸軍監獄ヲ別テ左ノ三種トス

一 監倉 未決者ヲ拘禁スル所トス

二 禁錮場 禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス

三 拘留場 拘留ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘留スル所トス

又各兵營内及ヒ憲兵部ニ留置場ヲ備ヤ未決者ヲ一時留置スル所トス但時宜ニ依リ拘留ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘留スルコトヲ得

第二條 監獄ハ軍法會議所在ノ地ニ置ヤ鎮臺ニ在テハ軍管司令官營所ニ在テハ營所司令官ニ屬ス

第三條 監獄ハ大尉ヲ以テ監獄長トシ中少尉ヲ以テ監獄副長トシ曹長若クハ一二等軍曹ヲ以テ看守長及ヒ書記トシ其下ニ看守卒押丁ヲ付シ其他ヘ一二三等書記及ヒ一二三等軍醫一二三等看護長看護卒ヲ置ク

第四條 軍管司令官及ヒ營所司令官ハ臨時監獄ヲ巡閱スヘシ  
理事及ヒ審事モ亦臨時監倉ヲ巡閱スヘシ

第五條 在監人ト稱スルハ未決已決ノ者ヲ謂フ

第六條 十六歳未滿六十歳以上ノ者及ヒ婦女ヲ入監スルコトアル時ハ普通監獄則ノ例ニ照シテ之ヲ區處スヘシ

第二章 監署ノ規程

第七條 在監人ハ左ノ區別ニ從ヒ其監房ヲ別異ス但已決囚ハ各刑名ニ從ヒ仍ホ其監房ヲ別異スヘシ

一 准士官以上及ヒ同等ノ軍屬

二 下士及ヒ同等ノ軍屬

三 諸卒諸生徒等外以下ノ軍屬

第八條 在監人中能ク獄則ヲ守ル者ヲ傳告者誘工者ト爲ス傳告者ハ官吏ノ命令ヲ在監人ニ傳ヘ誘工者ハ工場ニ在テ服役者ヲ勸誘セシム但傳告者誘工者ハ滿六月以上之ヲ繼續セシムルコトヲ得ス傳告者誘工者ハ私ニ在監人ヲ使役シ若クハ凌辱スル所爲アルコトヲ許サス

第九條 刑期滿限ノ者ヲ解放スルハ滿期ノ翌日午前第十時ヲ過クヘカラス

第十條 死刑ニ處セラレタル者若クハ在監中死去スル者ノ所有ニ屬スル貨物ハ親屬若クハ故舊ニ下付スヘシ

親屬故舊遠隔ノ地ニ在リ許多ノ遞送費ヲ要スル時ハ販賣シテ其代價ヲ送致スルコトヲ得遞

陸海軍ノ部 監獄ニ關スル事

送ノ費用ハ領收スル者之ヲ償フヘシ其貨物若クハ代價ヲ受クヘキ親屬故舊ナキトハ之ヲ沒收ス

第十一條 在監人病死スル者アルトキ其遺骸ハ親屬若クハ故舊ノ請フ者ニ下付ス若シ請フ者ナキトキハ之ヲ假葬シ其上ニ氏名標ヲ建ツヘシ但下士以下別ニ定ムル所ノ規則ニ依リ處分スヘキ者ハ其規則ニ從フヘシ

第十二條 在監人逃走スル者アル時領置ノ貨物ハ第十條ノ例ニ依テ處分スヘシ但沒收ハ逃走ノ日ヨリ滿一箇年ヲ經ルノ後ニ非レハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

營内居住ノ者ニ於テハ之ヲ本隊ニ送致スヘシ

第十三條 監獄ノ近傍ヨリ發火シテ罹災ノ虞アルトキハ獄吏其形勢ヲ量リ在監人ヲ他所ニ押送シ其災ヲ避ケシムヘシ

水火風震其他激甚ナル變災ニ際シ在監人ヲ押送スルノ違ナキ時ハ要犯疑獄ニ係ル者ヲ除クノ外一時解放スルコトヲ得

第十四條 未決者ニ其親屬故舊ヨリ書籍用紙衣服寢具若クハ飲食物ヲ贈ラント請フ時ハ之ヲ許シ酒類烟草其他穢生ニ害アル者ハ之ヲ許サス但書籍ハ内務書及ヒ操典若クハ修身營業ニ必要ナル者ニ限り飲食物ハ炊煮ヲ要セサル者ニシテ一人一食ノ量ニ限ルヘシ

第十五條 已決者ニハ前條ニ掲グル書籍及ヒ用紙ノ外差入品ヲ許サス

第二章 監獄ノ構造

第十六條 監倉禁錮場一區域内ニ在ル者ハ牆壁ヲ以テ之ヲ區畫ス

拘留場ハ禁錮場ノ監房ヲ分チテ之ニ充ツ

第十七條 病室ハ監獄内ニ設ケ傳染病室ハ之ヲ區別ス

監室ハ禁錮場内ニ設ケ其室ハ暗ニ空氣ヲ通セシメ毫モ光線ヲ通セシメサルヲ要ス

第十八條 甲ノ監房ニ在ル者ト乙ノ監房ニ在ル者ト彼此交談シ又ハ物件ヲ交通スルノ便ヲ得サラシムヘシ

第十九條 接見室ハ監獄内ニ設ケ其壁面ニ方三尺ノ口ヲ開キ之レニ縦横ノ格子ヲ嵌メ在監人ハ格子内ニ立タシメ外人ハ格子外ノ柵欄ニ倚ラシム其柵欄ハ格子ヨリ三尺ヲ距ルヘシ

第二十條 定役ニ服スル者ノ作業ハ毎囚一日ノ科程ヲ定メ服役セシム若シ病後ノ疲勞等ニ因リ勞力ニ堪ヘサル者ハ其體力ニ應シ科程ヲ寬恕ス

第二十一條 左ニ記載シタル日ハ服役ヲ免ヌ

一月一日

一月二日

元始祭

孝明天皇祭

紀元節

春季皇靈祭

神武天皇祭

秋季皇靈祭

神嘗祭

天長節

新嘗祭

十二月三十一日

第二十二條 定役ニ服スル囚徒現役一百日ヲ經レハ始メテ各自ノ工錢ヲ料定シ之ヲ十分シテ其八分ヲ監署ニ收メ其二分ヲ與フ  
定役ニ服セサル囚徒及ヒ未決者ニシテ作業スル者ノ工錢ハ十分シテ其三分ヲ監署ニ收メ其七分ヲ與フ定役ニ服スル囚徒當日ノ科程ヲ畢テ仍ホ作業スル者科程外ノ工錢亦之ニ準ス

第二十三條 服役限内更ニ罪ヲ犯シ再ヒ定役ニ服スル者後犯ノ刑期一百日以内ハ工錢ヲ給與セヌ

第二十四條 在監人ニ與フヘキ工錢ハ監署ニ領置シ毎月ノ首ニ於テ其前月ノ總計金額ヲ本人ニ知ラシムヘシ

第二十五條 各種ノ工錢ハ其地普通ノ傭工錢ヲ準トシ各自ノ技能ニ應シテ之ヲ定ムヘシ

第二十六條 監署ニ領置ノ工錢ハ本人ノ請ヒニ依リ親屬ニ贈與スルコトヲ許シ又必用ノ物品及ヒ第十四條ノ書物若クハ食物ヲ購ヒ之ヲ給スルコトヲ得

第二十七條 在監人死去スル時其領置ノ工錢ハ第十條ノ例ニ照シ處分スヘシ

第二十八條 在監人逃走スル時其領置ノ工錢已決囚ニ係ル者ハ之ヲ沒收スヘシ

未決者及ヒ定役ニ服セサル囚徒若クハ定役ニ服スル者ト雖ヒ科程外ノ勞作ニ依リテ得タル工錢ハ親屬ニ下付シ親屬ナキ時ハ之ヲ沒收ス

營内居住ノ者ニ在テハ第十二條ノ例ニ照シテ處分ス可シ

第五章 通信接見

第二十九條 已決囚其他親屬故舊ニ信書ヲ贈ルハ六月間ニ一次トシ一次一通ニ過ルコトヲ得ス但官司ノ訊問等ニ由テ書信ヲ要スルトキ若クハ親屬故舊ニ回答セント請ヒ司獄官吏必用ト認ル時ハ此限ニ在ラス

第三十條 未決者ニ係ル信書ハ定限ナシ但審事若クハ理事ノ閱檢ヲ經ルニ非レハ贈答セシムルコトヲ得ス

第三十一條 在監人ノ發スル信書ハ監獄長之ヲ閱檢スヘシ若シ書中忌諱ニ涉ル等ノ文意アルキハ通信スルコトヲ許サス

第三十二條 外人ヨリ在監人ニ贈リ來ル信書ハ監獄長之ヲ閱檢シ適正ノ事項ヲ陳ヘ若クハ遷善ノ諭示ヲ主トスル者ニ限り之ヲ本人ニ附與ス若シ書中忌諱ニ涉リ若クハ在監人ノ改悛ヲ妨クル者ト認ルトキハ之ヲ附與スヘカラス親屬故舊ノ信書ハ監獄署ニ宛差出サシムヘシ

第三十三條 在監人ニ接見セント請フ者アル時ハ監獄長先ツ之ニ面接シテ族籍職業氏名等ヲ訊ヒ其緣由旨趣ヲ詳悉シ已ムヲ得サルノ事狀アリテ形狀ノ疑フ可キコトナキトキハ之ヲ許シ看守長看守卒並ヒ蒞ンテ面會セシム但決未決者ニ係ルキハ監獄長之ヲ理事若クハ審事ニ照會シテ之ヲ許否スヘシ

面會ノ時間ハ三十分時ヲ過ルコトヲ得ス若シ最初陳述シタル面會ヲ請フノ旨趣ニ違ヒタル談話ヲ爲スルハ直チニ之ヲ停止ス

第三十四條 死刑執行ノ以前又ハ徒流禁獄ノ刑ヲ受ケタル囚徒ヲ集治監ニ押送スル以前親屬故舊其囚徒ニ面會セント請フキハ前條ノ規則ニ從ヒ面會セシム但其時間ハ五十分時ヲ過ルコト得ス

第六章 賞譽

第三十五條 已決囚獄則テ謹守シ且改悛ノ狀著キ者ト監獄長ニ於テ認ムルキハ之ヲ賞譽スヘシ

第三十六條 賞譽セシモノニハ賞譽セシ毎ニ之ヲ表スル爲メ獄衣ノ左袖肩臂ノ間ノ表面ニ方二寸ノ藍色布ヲ縫着スヘシ

第三十七條 賞表ハ特赦ヲ具狀スルノ參考ト爲スコトヲ得

第三十八條 賞表ヲ得タル者ニハ二月間ニ一次親屬故舊ニ接見及ヒ通信スルヲ許ス

第三十九條 已決囚在監人ノ逃走ヲ密告若クハ捕獲シ或ハ監獄ニ罹ル水火災ヲ防禦シ或ハ人命ヲ救援スル者アルキハ金二十五錢以下ヲ賞譽ス其賞金ハ監署ニ領置シ本人ノ請求アルトキハ必用品若クハ食物ヲ購ヒ之ヲ給スヘシ

第七章 懲罰

第四十條 未決監ニ在ル者前條ノ勞動アル時ハ之ヲ録シテ軍法會議ノ參考ニ供ス可シ

第四十一條 已決囚此獄則其他獄内若クハ服役ノ爲メニ設ル所ノ規則ヲ犯ス時ハ其輕重ヲ量リ左ノ罰例ニ從テ處分ス

- 一 絶信 親屬故舊ト通信接見ヲ絶ス
- 二 屏禁 晝夜他ノ監房若クハ工場ト隔絶シタル監房ニ獨居セシメ尙ホ座作ノ役ヲ科ス
- 三 減食 常食ノ半若クハ其三分ノ二ヲ減シ鹽湯二品ノ外菜ヲ與ヘス

四間室 間室ニ獨居セシメ常食ノ半若クハ其三分ノ二ヲ減シ鹽湯二品ノ外菜ヲ與ヘス仍ホ寢具ヲ禁ス

第四十二條 絶信屏禁ハ有限若クハ無限ト爲シ減食間室ハ七晝夜ヲ限リトス減食間室七晝夜ニ滿ルモ改悛ノ情ナキ時ハ一旦之ヲ免シ更ニ之ヲ科スルコトヲ得

第四十三條 未決者及ヒ拘留ノ刑ヲ受ケシ者教令ニ順ハス或ハ全監ノ者ヲ煽惑シ其他規則ヲ犯ス時ハ所犯ノ輕重ヲ量リ第四十一條ニ準據シ減食スルコトヲ得

第四十四條 賞表ヲ有スル者處罰ヲ受クル時ハ賞表一個若クハ數個ヲ褫奪ス

第四十五條 減食若クハ間室ノ罰ニ處ス可キ者アル時ハ醫官ヲシテ診視セシメ身體ニ妨ナキヲ證シテ后之ヲ行フハシ

第四十六條 罰則ニ處セラレタル者改悛ノ情ヲ表スル時ハ之ヲ免スルコトヲ得

海軍省達 十七年五月八日丙第 八十號海軍一般ハ

海軍監獄則左ノ通相定ム此旨相達候事

海軍監獄則

第一章 總則

第一條 海軍監獄ヲ別テ左ノ三種ト爲ス

一 監倉 未決者ヲ拘禁スルノ所トス又拘引セラレタル者ヲ一時留置スルコトヲ得

(五)

二 輕禁錮場 輕禁錮若クハ拘留ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘禁スルノ所トス又懲治人ヲ一時留置スルコトヲ得但他ノ拘禁者ト區別ス可シ

三 重禁錮場 重禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘禁スルノ所トス

地方監獄ニ送致ス可キ已決囚ヲ一時拘禁スル時ハ其定役ノ有無ニ從ヒ重禁錮若クハ輕禁錮場ニ拘禁ス可シ

第二條 在監人ト稱スルハ未決已決ヲ論セス監獄ニ拘禁若クハ留置セラレタル者ヲ謂フ

第三條 艦船内ニ於テ未決已決ノ者ヲ處置スルモ亦本則ニ從フ可シ但實際已ムヲ得サル場合ニ於テハ艦船長適宜之ヲ處置スルコトヲ得

第二章 監署ノ規程

第四條 司獄官更在監人ヲ管束スルハ一ニ和平ヲ秉リ罰例ニ照シテ處分スルノ外恣ニ責罰スルコトヲ得ス

第五條 新ニ入監スル者アル時ハ監獄署長先ツ送狀勾引狀收禁狀處刑宣告書等ノ文書ヲ査閲シテ之ヲ領シ其領收ノ證ヲ引致シ來リタル者ニ交付ス其文書ナキ者ハ之ヲ入監ス可カラヌ

第六條 未決ノ共犯者ハ其監房ヲ別異シ談話通聲ヲ禁シ法廷ニ押送スル時亦同行セシム可カラヌ但判士長判士若クハ審問委員別異ヲ要セストスル時ハ此限ニ在ラス



第七條 在監人ハ左ノ區別ニ從ヒ其監房ヲ別異ス

一 准士官以上ノ軍人及ヒ同等ノ軍屬并ニ生徒

二 下士及ヒ同等以下ノ判任軍屬

三 卒准卒及ヒ等外吏以下ノ軍屬

四 常人

陸軍々人軍屬ハ海軍々人軍屬ノ區別ニ從フ

第八條 入監ノ婦女ハ男子ト監房ヲ別異ス可シ若シ三歳未満ノ乳兒ヲ攜帶セント請フ者アル時ハ之ヲ許ス

第九條 新ニ入監スル者アル時ハ名籍ノ機本ニ照シ其要項ヲ録シ一小房内ニ於テ全身ヲ搜檢シ利器其他ノ物件ヲ夾帶スルヲ拒ク可シ

第十條 入監人ノ携有スル財貨物品ハ悉ク點檢シテ其名數ヲ簿冊ニ記載シ監獄署長證印シテ之ヲ領置シ解放ノ時還付ス可シ但點檢ノ際隱匿セシ財物ハ之ヲ沒收ス

其領置ノ財物ヲ以テ親屬ヲ扶助シ其他正當ノ費用ニ充ント請フ時ハ之ヲ許ス

第十一條 監倉ニハ刑法及ヒ治罪法ヲ備置キ未決者ノ請求ニ從ヒ之ヲ貸與ス可シ

在監人書籍ヲ見ント請フトキハ軍人軍屬ノ職務若クハ修身營業ニ必用ナルモノニ限り之ヲ許スヘシ

第十二條 要犯疑獄ニ係ル者ヲ監倉ニ拘禁シタルトキハ其氏名ヲ呼ハス番號ヲ以テ之ニ換フ可シ其着衣ノ外襟ニ白布ヲ縫着シ番號ヲ黑書シ監房ヲ出入スル毎ニ皂布ヲ以テ覆面シ當眼ノ所ニ小孔ヲ穿テ共犯者ヲシテ共ニ拘禁ノ身タルヲ窺探スルヲ得サラシム

第十三條 在監人ヲ他監ニ移ス時ハ其名籍并ニ處刑ノ宣告書其他必要ノ文書及ヒ領置ノ財物ヲ具シテ送致ス可シ押送人ハ送致ヲ受クル所ノ司獄官吏ニ發遣途中ノ行狀ヲ申告ス可シ

在監人ヲ法廷又ハ他監ニ押送スルトキハ時宜ニ因リ戒具ヲ用フ可シ

准士官以上ノ軍人若クハ同等ノ軍屬ヲ押送スル時ハ成ル可ク乗車セシメ人目ニ觸レサラシムルヲ要ス

婦女ヲ押送スル時ハ男子ト別異ス可シ

第十四條 特赦ヲ受ケタル者アル時ハ免役日若クハ日曜日ノ午後ニ於テ他ノ囚徒ヲ集メ其旨ヲ告示シ仍ホ之ヲ揭示ス可シ

第十五條 在監人ヲ賞罰シタル時ハ賞罰簿ニ其氏名及ヒ賞罰罰文ヲ記載シ第十四條ノ例ニ依リ囚徒ニ示ス可シ

第十六條 刑期滿限ノ者ヲ解放スルハ滿期ノ翌日午前第十時ヲ過ク可カラズ

第十七條 死刑ニ處セラレ又ハ在監中死亡シタル者アル時ハ領置シタル財物ヲ死者ノ親屬

ニ下付シ若シ親屬ナキハ遺骸ヲ領收シタル故舊ニ下付ス可シ

親屬故舊遺隔ノ地ニ在テ許多ノ遞送費ヲ要スル時ハ賣却シテ其代價ヲ送致スルヲ得  
遞送ノ費用ハ領收スル者ヨリ之ヲ償却セシム可シ

其財物若クハ代價ヲ領收ス可キ親屬故舊ナキ時ハ之ヲ沒收ス

第十八條 在監人逃走シタル時領置ノ財物ハ第十七條ノ例ニ從ヒ處分ス可シ但逃走ノ日ヨ  
リ滿一年ノ後ニ非サレハ之ヲ處分スルヲ得ス

第十九條 水火風雷等罹災ノ虞アル時ハ監獄署長又ハ警査長其形勢ヲ量リ在監人ヲ他所ニ  
押送シ其災ヲ避ケシム可シ但急激ニ際シ押送スルノ違ナキ時ハ要犯疑獄ニ係ル者ヲ除ク  
ノ外一時解放スルヲ得

第三章 監獄ノ構造

第二十條 監倉禁錮場共ニ一區域内ニ在ル者ハ牆壁ヲ以テ之ヲ區畫ス

第二十一條 甲監房ニ在ル者ト乙監房ニ在ル者ト彼此交談シ又ハ物件ヲ交遞スルノ便ヲ得  
サラシム可シ各監房ノ鑰匙ハ其制式ヲ同シクシ甲乙適用スルヲ要ス

第二十二條 監獄内ニ病室及ヒ關室ヲ設ク其關室ハ暗ニ空氣ヲ流通セシメ毫モ光線ヲ通セ  
シメサルヲ要ス且ツ一室一人ヲ限リトス

第二十三條 燈火ハ監房外ニ置ヤ危險ノ虞ナカラシム可シ

第四章 役法及ヒ時限

第二十四條 定役ニ服スル囚徒ノ作業ハ毎囚一日ノ科程ヲ定メ服役セシム十六歳未滿ノ者  
及ヒ病後ノ疲勞等ニ因テ勞作ニ堪ヘサル者ハ其體力ニ應シ科程ヲ寬恕ス

其作業ハ成ル可ク平生ノ職務ニ要用ナル工事ヲ撰ミ之ニ服セシム可シ  
輕禁錮ノ囚徒作業ヲ爲サント請フ者アル時ハ之ヲ許スヲ得

第二十五條 毎日囚徒ヲシテ役ニ就カシムルニ際シ悉ク之ヲ監房外ニ整列セシメ警査長及  
ヒ警査點檢ス可シ還房セシムル時モ亦同シ

第二十六條 左ニ記載シタル日ハ服役ヲ免ス

父母ノ喪ニ遭フ者モ亦一日免役ス

一月一日

一月二日

元始祭

孝明天皇祭

紀元節

春季皇靈祭

神武天皇祭

秋季皇靈祭

神嘗祭

天皇節

新嘗祭

十二月三十一日

第二十七條 未決者及ヒ作業ヲ爲サ、ル已決囚ハ毎朝日出ノ頃ニ起床シ各其監房ヲ掃除シ  
畢リ喫飯セシム又毎日一時間以内監房外ニ於テ運動セシム可シ

第二十八條 作業ヲ爲ス者ハ毎朝日出ノ頃ニ起床シ各其監房ヲ掃除シ畢テ喫飯セシム其起

床ヨリ約ネ一時間ヲ經テ役ニ就カシメ午前十時前後ニ於テ湯若クハ水ヲ與ヘ正午十二時ニ至リ休役メ午飯後暫時休憩シ再ヒ就役日没前役ヲ罷メシム其時間ハ別表ニ之ヲ定ム但時宜ニ因リ其時間ヲ伸縮スルコトヲ得

起床寢房就役休役罷役其他勅止ヲ令スルハ鈴若クハ柝ヲ以テシ全監一齊ニ勅止セシム

第二十九條 造船所其他工場ノ役ニ服セシムル時ハ第二十八條ノ例ニ拘ハラヌ成ル可ク其工場ニ定メタル時限ニ從フ可シ

第五章 工錢

第三十條 定役ニ服スル囚徒現役一百日ヲ經レハ始メテ各自ノ工錢ヲ科定シ之ヲ十分シテ其八分ヲ監獄署ニ收メ其二分ヲ與ヘ定役ニ服セサル囚徒ニシテ作業スル者ノ工錢ハ十分シテ其三分ヲ監獄署ニ收メ其七分ヲ與フ

第三十一條 服役限内更ニ罪ヲ犯シ再ヒ定役ニ服スル者後犯ノ刑期一百日以内ハ工錢ヲ給與セヌ

第三十二條 在監人ニ與フ可キ工錢ハ監獄署ニ領置シ毎月ノ首ニ於テ其前月ノ總計金額ヲ本人ニ知ラシム可シ

第三十三條 各種ノ工錢ハ其地普通ノ傭工錢若クハ官署ノ定則ヲ準トシ各自ノ技能ニ應シ之ヲ定ム可シ

第三十四條 監獄署ニ領置ノ工錢ハ本人ノ請ニ由リ親屬ニ贈與スルコトヲ許シ又書籍其他必用ノ物品及ヒ食物ヲ購ヒ之ヲ給スルコトヲ得但其食物ハ定役ニ服スル者ハ一日金三錢定役ニ服セサル者ハ一日金五錢ヲ限リトス

第三十五條 在監人死亡シタル時其領置ノ工錢ハ第十七條ノ例ニ照シテ處分ス可シ

第三十六條 在監人逃走シタル時其領置ノ工錢ハ之ヲ沒收ス

第六章 給與

第三十七條 在監人ニ貸與スル物品

一毛布若クハ蒲團 一蚊帳 一莞筵 一枕 一手巾 一蓑若クハ合羽 一笠

以上ノ貸與品ハ便宜ニ依リ之ヲ斟酌取捨シ淋濯補綴シテ共用ニ充ルコトヲ得

第三十八條 下士卒及ヒ准卒禁錮若クハ拘留ニ處セラレタル者ハ左ノ獄衣ヲ着セシム

常衣

一禪 赭色 一袴 同 一綿入衣 同 一襦袢 同 一帶長三尺 同

但病室ニ在ル者ハ白色調袖衣ヲ着セシム

役衣

一綿入短衣 赭色 一袴短衣 同 一襦短衣 同 一袴股引 同 一襦股引 同

病室ニ在ルモノハ本條ノ限ニ在ラヌ

第三十九條 等外吏以下ノ軍屬及ヒ常人ハ其請求ニ因テ第三十八條ノ獄衣ヲ貸與ス

第四十條 各監房常置ノ器具

- 一時水器 木製 一便器 木製 監房ニ廁田アルモ此器ヲ用ヒス 一洗手盥 木製 一飲器 木製
- 一唾器 木製 一小桶 一蓆帶 一雜巾

第四十一條 浴湯ノ定度ハ毎年六月ヨリ九月マテハ三日毎ニ一次十月ヨリ五月マテ七日毎ニ一次剪髮ハ二月毎ニ一次剃鬚ハ一月毎ニ一次トス但醫官ノ申出ニ因リ臨時浴湯若クハ剪髮剃鬚セシムルハ此限ニ在ラヌ

婦女ノ梳髮ハ膏ヲ用ヒテ裝飾スルヲ許サヌ

第四十二條 衣類雜具其他ノ物品ハ種質ニ由リ時々熱湯ヲ用ヒテ之ヲ滌ヒ臭氣ヲ去リ蟲害ヲ防クヲ要ス但病者ノ物品ト混一シテ之ヲ曬洗ス可カラヌ

第七章 疾病及ヒ死亡

第四十三條 在監人疾病ニ罹ルトキハ輕重ヲ量リ其監房若クハ病室ニ於テ醫療セシム

第四十四條 病者ノ攝生ニ効アル飲食物若クハ湯藥等ヲ用フルヲ要メル時ハ醫官其旨ヲ證明シ監獄署長之ヲ考檢シテ許否ス可シ

第四十五條 傳染病侵襲ノ兆アル時ハ其消毒豫防ヲ慎重ニス可シ若シ在監人中傳染病者アル時ハ速ニ病性及ヒ感染ノ形狀ヲ詳悉シ醫官ノ診斷書ヲ副ヘ海軍卿若クハ所管長官ニ申

報ス可シ

第四十六條 在監人死亡シタル時ハ監獄署長警查長醫官會同驗屍ス可シ

驗屍畢レハ其狀況及ヒ年月日時ヲ記載シ死亡證書ヲ副ヘ本人所管ノ長官ニ申報シ陸軍々人軍屬ナル時ハ其所管司ニ通報シ軍人軍屬ニ非サル時ハ本籍ノ戶長及ヒ親屬若クハ故舊ニ通知ス可シ

未決者又ハ已決囚ニシテ再ヒ訊問ニ係ル者ハ其軍法會議ニモ亦之ヲ通報ス可シ

第四十七條 軍人軍屬在監中死亡シタル者ノ遺骸ヲ處分スルハ通常軍人軍屬ノ遺骸ニ同シ陸軍々人軍屬ノ遺骸ハ其所管官司ノ處分ニ付ス可シ

軍人軍屬ニ非サル者ノ遺骸ハ死亡若クハ死刑執行ノ時ヨリ二十四時内ニ請フ者アレハ之ヲ下付シ請フ者ナケレハ之ヲ假葬シ其上ニ氏名標ヲ建ツ可シ

第八章 書信及ヒ接見

第四十八條 已決囚其親屬故舊ニ信書ヲ贈ルハ六月間ニ一次トシ一通ニ過ルヲ得ス但官司ノ訊問等ニ由テ信書ヲ要メル時又ハ親屬故舊ニ回答ヲ爲サント請ヒ監獄署長必用ト認ムル時ハ此限ニ在ラヌ

未決者ヨリ贈ル信書ハ定限ナシ

第四十九條 在監人ノ發メル信書ハ監獄署長之ヲ閱檢ス可シ若シ書中忌諱ニ涉ル等ノ文意

アル時ハ通信ヲ許サス

第五十條 外人ヨリ在監人ニ贈リ來タル信書ハ監獄署長之ヲ閱檢シ適正ノ事項ヲ陳ヘ又ハ遷善ノ諭示ヲ主トシタルモノニ限り之ヲ本人ニ付與ス若シ在監人ノ悔改ヲ妨クルモノト認ムル時ハ之ヲ付與セス

第五十一條 未決者ニ係ル出入ノ信書ハ審問委員若クハ主理ノ閱檢ヲ經ルニ非サレハ贈答セシムルコトヲ得ス

第五十二條 在監人ヨリ發スル信書ハ必ス信書紙ヲ用ヒシメ監獄署長之ヲ緘シ封皮ニ受領ス可キ者ノ住所氏名ヲ書シ海軍某監獄ト記シ之ヲ遞送ス但郵便稅ハ自辨セシム其自辨スル資力ナキ者ニハ之ヲ許サス親屬故舊ノ信書ハ監獄署ニ宛テ之ヲ差出サシム可シ

第五十三條 在監人ニ接見セント請フ者アル時ハ監獄署長先ツ之ニ面接シテ族籍職業氏名等ヲ訊ヒ其緣由旨趣ヲ詳悉シ已ムヲ得サル事情アリテ形狀ノ疑フ可キナキ時ハ之ヲ許シ警査長警査并茲シテ面會セシム但未決者ニ係ル時ハ監獄署長審問委員若クハ主理ニ照會シテ之ヲ許否ス可シ面會ノ時間ハ三十分時ヲ過クルコトヲ得ス若シ面會ヲ請フノ旨趣ニ違フナル談話ヲ爲ス時ハ直ニ之ヲ停止ス

第五十四條 死刑執行ノ以前又ハ徒流懲役禁錮ノ刑ヲ受ケタル囚徒ヲ地方監獄ニ押送スル以前親屬故舊其囚徒ニ面會セント請フ時ハ第五十三條ノ規則ニ從ヒ面會セシム但其時間

ハ五十分時ヲ過クルコトヲ得ス

第九章 差入品

第五十五條 未決者ニ其親屬故舊ヨリ書籍寢具衣服用紙若クハ飲食物ヲ贈ラント請フ時ハ酒類煙草及ヒ攝生ニ害アル者ヲ除クノ外之ヲ許ス但書籍ハ第十一條ニ記載シタル者ニ限り飲食物ハ炊煮ヲ要セサル者ニシテ一人一食ノ量ニ限ル

第五十六條 已決囚ニハ第五十五條ニ掲クル衣服書籍及ヒ用紙ノ外差入ヲ許サス

第十章 揭示

第五十七條 各監房ニ左ノ諸款ヲ揭示シ傍訓釋義シテ解シ易カラシム可シ若シ文字ヲ讀マサル者アレハ入監ノ時ヨリ二十四時内ニ於テ之ヲ讀ミ聽カス可シ但未決監ニハ第九款ヲ揭示セス

揭示

- 一 在監人ハ常ニ教令ヲ謹守ス可シ
- 一 平日互ニ和順ヲ主トス可シ
- 一 毎朝父母若クハ其墳墓所在ノ方位ニ向テ禮拜ス可シ
- 一 毎朝常用ノ諸器具ヲ清潔ニシ之ヲ排列シテ點檢ヲ受ケ及ヒ席壁扇團等ヲ掃除ス可シ
- 一 窓若クハ物件ヲ汚損シ睡器外ニ唾シ時水ヲ濫用スルコトヲ禁ス

- 一 監外ニ出タル時其途上ニ於テ同行ノ者ト交談シ及ヒ手ヲ交ヘ或ハ路人ニ聲語スルヲ禁ス
- 一 夜間ハ最も鎮靜ヲ主トシ談話或ハ發聲或ハ濫リニ起歩スルヲ禁ス晝間ト雖モ放歌喧
- 一 噪或ハ高聲ニ誦讀シ又ハ隣房ノ者ト談話スルヲ禁ス
- 一 許可ヲ得サル物品ヲ監房ニ置キ或ハ勝負ヲ競ヒ若クハ賭博類似ノ惡戯ヲ爲シ或ハ同房
- 一 者ニ汚辱ヲ被ラシメ猥褻ニ涉ルカ如キ所爲アルヲ禁ス
- 一 服役中其作業ニ關セサル他事ヲ交談シ及ヒ休息時間部外ノ工場ニ到ルヲ禁ス
- 一 許可ヲ得スシテ衣食其他ノ物件ヲ受與貸借スルヲ禁ス
- 一 總テ願向ハ官吏巡視ノ際申出可シ
- 一 監房ニ於テ異常ノ事アレハ晝夜ニ拘ハラヌ直ニ看守所ニ通聲ス可シ
- 一 日没後ハ發病スルモ其症急劇ナルニ非サレハ翌朝ニ於テ醫療ヲ乞フ可キモノトス若シ
- 一 劇症ナル時ハ直ニ看守所ニ通聲ス可シ
- 一 獨居ノ者卒カニ病ヲ發シタル時ハ監房ヨリ看守所ニ架スル所ノ繩器繩ヲ引キ以テ之ヲ
- 一 報ス可シ
- 一 病者アル時ハ同房ノ者共ニ介保ニ力ヲ致ス可キハ勿論其看病人タラシムル者ハ切實ニ
- 一 之ヲ看病ス可シ
- 一 水火風雷等ノ際解放ニ遭フモノハ其解放ノ時ヨリ二十四時内ニ監獄署又ハ憲兵部若ク

ハ警察署ニ其旨ヲ首出ス可シ

右ノ諸款ニ違フ者アルヲ知テ告ケサル者若クハ官吏ヨリ犯者ヲ問フニ當リ之ヲ釋ケサ  
ル者ハ其情狀ヲ量リ處分ス可キ者ナリ

年號月日

海軍某監獄署

第十一章 賞譽

第五十八條 已決囚獄則テ謹守シ且悔改ノ行爲著キ者ト監獄署長ニ於テ認ムル時ハ之ヲ賞  
譽ス可シ

第五十九條 賞譽ヒン者ニハ賞譽毎ニ之ヲ表スル爲メ衣服ノ左袖肩臂間ノ表面ニ横二寸豎  
一寸ノ赤色ノ布ヲ縫着ス可シ

第六十條 賞表ハ假出獄若クハ特赦ヲ具狀スルノ考據ト爲スヲ得

第六十一條 賞表ヲ得タル者ニハ二月間ニ一次親屬故舊ニ接見及ヒ通信スルヲ許ス

第六十二條 已決囚在監人ノ逃走ヲ密告若クハ捕獲シ或ハ監獄ニ係ル水災ヲ防禦シ或ハ人  
命ヲ救援シタル者アル時ハ金貳拾五錢以下ヲ賞譽ス其賞金ハ監獄署ニ領置シ本人ノ請ニ  
由リ必需品若クハ食物ヲ購ヒ之ヲ給ス可シ但賞表ヲ與フルノ限ニ在ラス

第六十三條 未決監ニ在ル者第六十二條ノ功勞アル時ハ之ヲ録シテ軍法會議ノ參考ニ供ス  
可シ

懲治人ニ在テハ金貳拾五錢以下ヲ以テ適宜物品ヲ購ヒ之ヲ與フ可シ

第十二章 懲罰

第六十四條 已決囚獄則ヲ犯シタル時ハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス

一 絶信 親屬故舊ト書信接見ヲ絶ス

二 屏禁 晝夜他ノ監房又ハ工場ト隔絶シタル監房ニ獨居セシメ服役時限表ニ照シテ座作ノ役ヲ科ス

三 減食 常食ノ半若クハ其三分ノ二ヲ減シ鹽湯二品ノ外菜ヲ與ヘス

四 閤室 閤室ニ入レ常食ノ半若クハ其三分ノ二ヲ減シ鹽湯二品ノ外菜ヲ與ヘス仍水寢具ヲ禁ス

第六十五條 絶信屏禁ハ有限若クハ無限ト爲シ減食閤室ハ七晝夜ヲ限ト爲ス

減食閤室七晝夜ニ滿ルモ悔改ノ狀ナキ時ハ一旦之ヲ免シ更ニ之ヲ科スルコトヲ得

第六十六條 懲治人及ヒ十六歳未滿ノ已決囚獄則ヲ犯シタル時ハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス

一 獨愼 晝夜一室ニ獨居セシム

二 減食 常食ノ半以內ヲ減ス但菜ヲ減セズ

獨愼ハ七晝夜以內減食ハ三日以內トス

第六十七條 未決者及ヒ拘留ノ刑ヲ受ケタル者獄則ヲ犯シタル時ハ其輕重ヲ量リ第六十五條第六十六條ニ準據減食スルコトヲ得

第六十八條 賞表ヲ有スル者懲罰ヲ受ケタル時ハ賞表一個若クハ數個ヲ視奪ス

第六十九條 減食若クハ閤室ノ罰ニ處ス可キ者アル時ハ醫官ヲシテ診視セシメ身體ニ妨ナキヲ證シテ後之ヲ行フ可シ

第七十條 屏禁減食閤室若クハ獨愼ノ罰ニ處シタル者アル時ハ監獄署長若クハ警査長時々其動靜ヲ察シ狀況ニ由リ醫官ヲシテ之ヲ問ハシムルコトアル可シ

第七十一條 懲罰ニ處セラレタル者悔改ノ狀著ル、時ハ之ヲ免スルコトヲ得

囚徒服役時限表

月名	時限	起	床	就	役小	憩午	飯	罷	役晚	飯	還	房	服役時間合計
一月	午前七時〇二分	午前八時〇二分	午前九時	午前十時	午前十一時	午前十二時	午後一時	午後二時	午後三時	午後四時	午後五時	午後六時	六時二十八分
二月	六時三十八分	七時三十八分	七時五十分	八時	八時十五分	八時三十分	九時	九時十五分	九時三十分	十時	十時十五分	十時三十分	六時五十七分
三月	六時〇六分	七時〇六分	七時	七時十五分	七時三十分	八時	八時十五分	八時三十分	九時	九時十五分	九時三十分	十時	七時三十九分
四月	五時三十二分	六時三十二分	六時	六時十五分	六時三十分	七時	七時十五分	七時三十分	八時	八時十五分	八時三十分	九時	八時三十八分
五月	五時〇一分	六時〇一分	五時四十分	六時	六時十五分	六時三十分	七時	七時十五分	七時三十分	八時	八時十五分	八時三十分	八時五十九分

陸海軍ノ部 支○監獄ニ關スル事

六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
四時四十九分	四時五十分	五時十六分	五時四十八分	六時二十二分	六時五十二分	七時〇八分
五時四十五分	五時五十一分	六時十六分	六時四十八分	七時二十二分	七時五十二分	八時〇八分
同	同	同	留九時五十分 ヨリ二十分間	十五時 十五分間	同	十時 十分間
上	上	上	十二時 間	同	同	五十二時 間
二十時 間	同	同	同	上	上	同
三時二十分	五時十分	四時五十分	四時二十分	三時二十分	三時二十分	同
一時五十四分	一時五十九分	四時五十四分	一時五十一分	一時四十八分	一時三十三分	一時三十三分
七時十四分	七時〇九分	六時四十四分	六時十一分	五時三十七分	五時〇八分	四時五十二分
九時〇五分	八時四十九分	八時〇四分	八時十二分	七時〇三分	六時十三分	六時十二分

約子日出ノ時刻ヲ以テ起床ノ時刻トナス然ルニ年々季節ニ早晚アリ日々分秒ニ差刻アリ加ルニ東國西國ノ別アリ此ニ由テ何レノ地方ニ於テモ分秒ノ差異ナキヲ保ツ能ハス故ニ

右ノ時間ニシテ工務ヲ併理シ及ヒ餐浴等ヲ爲サント

月毎ニ大約之ヲ平均シテ姑ク其起床時刻ヲ置戦ス各地ノ間概官此表ノ區分ヲ準トシテ宜ク裁酌シテ役因ヲ遇スヘシ



表式之部

(け)

司法省達 十六年十一月廿八日  
丁第四十號裁判所へ

民刑事各表并登記簿等進達ノ際爾後左ノ書例ニ準シ必ス目錄ヲ添フヘシ此旨相達候事  
但民事訴訟表添書目錄モ亦左ノ如ク改正ス

各表並登記簿進達目錄凡例

- 一 登記簿並懸罪已決未決事件表ハ每季分ヲ其翌月中ニ進達スヘシ其他諸表ハ其進達期限ニ從フ可シ若シ已ムヲ得サル事故アリテ其期限ニ進達スルヲ能ハサルモハ其事由ヲ具シ期限ヲ豫定シテ延期ヲ請フヘシ
- 一 治安裁判所ノ登記簿其他左ノ各目錄ニ掲クル諸表ハ各本廳管内治安廳ノ分ヲ取經メ一同ニ進達スヘシ又各支廳ニ於テモ亦其管内治安廳ノ分ヲ取經メ直ニ進達スヘシ  
但シ刑事已決未決事件表ハ從前ノ手續ニ從フ
- 一 登記簿ハ一冊毎ニ其表適宜ノ場所ニ於テ其簿冊ニ紙數何枚及件數何件ト記載スヘシ

民事訴訟表上申目錄

何支 裁判所分

一 何年分 民事訴訟表 第一表

何枚

一同上 控訴并郡區戶長ノ職務ニ對スル民事訴訟表

計何枚

但控訴裁判所民事訴訟表ハ明治十年丁  
第二十一號達既廢表上申書ノ例ニ因ル

何治安裁判所分

一何年分 民事訴訟表

一同上 勸解表

計何枚

合計何枚

(右ノ内記載スヘキ事件ナキ時ハ其總何々ノ表ハ記載  
スヘキ事件無之ヲ以テ欠ト適宜ノ處ニ記載スヘシ  
但延期中ノ者モ其旨記載スヘシ)

右目錄ノ通及進達候也

年月日

重輕罪登記簿上申目錄(遺留罪アレハ輕罪ノ次  
ニ掲クヘシ以下全シ)

何裁判所分

一自何月 重罪登記簿

一同上 輕罪登記簿

何裁判所長官氏印

何冊

同

一同上 諸罰則登記簿

一同上 遅不參登記簿

計何冊

何治安裁判所分

一自何月 輕罪登記簿

一同上 諸罰則登記簿

一同上 遅不參登記簿

計何冊

合計何冊

(右ノ内記載スヘキ事件ナキ片ハ其總何々ノ表ハ記載スヘキ  
事件ナキヲ以テ欠ト適宜ノ處ニ記載スヘシ以下總テ做之  
但シ延期中ノ者モ其旨記載スヘシ)

右目錄ノ通及進達候也

年月日

民事既決未決件數表上申目錄

何裁判所分

一自何月 民事已決未決件數表

何裁判所長官氏印

何枚

表式之部

同上	民事身代限件數表	同
同上	民事執行件數表	同
同上	民事控訴已決未決件數表	同
同上	人民ヨリ院省府縣ニ對スル訴訟已未決件數表	同
同上	人民ヨリ郡區戶長ノ職務ニ對スル訴訟件數表	同
合何枚		
何治安裁判所分		
一何年自何月	民事已決未決件數表	何枚
同上	民事身代限件數表	同
同上	民事執行件數表	同
同上	勸解件數表	同
合何枚		
右目錄ノ通及進達候也		
年月日		何裁判所長官氏印
一刑事ニ係ル已決未決事件表ハ裁判所本支廳毎ニ輕罪豫審既決未決事件表及管内違警罪已決未決事件表ヲ合シ各一冊トナシ其簿冊編纂ノ順序ハ左ノ如クスヘシ		

第一	本廳輕罪及豫審已決未決事件表	
	同廳管内違警罪已決未決事件表	
	支廳輕罪及豫審已決未決事件表	
第二	同廳管内違警罪已決未決事件表	
	但シ分署ノ違警罪已決未決事件表ハ其本署ノ次ニ付ス可シ	
右目錄ノ例		
自何月	管内各輕罪裁判所輕罪豫審及違警罪已決未決事件表上申目錄	一冊
至何月		
一何始審裁判所分		
一何支廳分		同
一何始審裁判所分		同
一何支廳分		同
一何始審裁判所分		同
一何支廳分		同
以下之ニ準ス		
合何冊		
右目錄ノ通及進達候也		

年月日

重罪既決事件表上申目錄

何控訴裁判所

檢事長 氏名 印

一自何月 何重罪裁判所重罪既決事件表

一枚

一同上 何重罪裁判所重罪既決事件表

一枚

以下之レニ準ヌ

合何枚

右目錄ノ通及進達候也

何控訴裁判所

檢事長 氏名 印

年月日

別號表附帶私訴公判表會議局故障事件表上申目錄

何裁判所分

一何年分 別號表

何枚

一同上 附帶私訴公判表

同

一同上 會議局故障事件表

同

(治安裁判所ニ準ヌ)

合何枚

右目錄ノ通及進達候也

年月日

檢事及豫審處分表上申目錄

何裁判所 長官 氏印

何裁判所分

一何年分 檢事處分表自第一表至第三表

何枚

檢事處分表第二表欄外左ノ件

一同上 搜查及逮捕件數

一同上 執行人員(死刑以下拘留)

一同上 裁判費用徵收件數

一同上 沒收物品徵收件數

一同上 同處分件數

一同上 豫審表自一表至八表

一同上 豫審第一表欄外附屬表

(治安裁判所ニ準ヌ)

合何枚

表式之部

右目錄ノ通及進達候也

年月日

重罪既決犯罪表上申目錄

一自何月 至何月 重罪裁判所重罪已決犯罪表

右目錄ノ通及進達候也

年月日

輕罪已決犯罪表上申目錄

一何月分 何始審裁判所輕罪既決犯罪表

一同上 何治安裁判所輕罪已決犯罪表

合何冊

一同上 何支廳輕罪既決犯罪表

一全上 何治安裁判所輕罪既決犯罪表

合何冊

右目錄ノ通及進達候也

年月日

集會條例新聞條例及刑法犯者表上申目錄

何裁判所(又ハ)支(檢事)氏名印

何枚

何裁判所

何冊

同

何冊

同

何裁判所

一何年 自何月 至何月 何始審裁判所分

一全上 何治安裁判所分

合何枚

一全上 何支廳分

一全上 何治安裁判所分

合何枚

(犯者之レナキ向ハ) 其旨届出ツヘシ)

右目錄ノ通及進達候也

年月日

特赦表上申目錄

何始審裁判所 何支

一何年分 特赦表

(記載スヘキ事件無之) 向ハ其旨届出ツヘシ)

右目錄ノ通及進達候也

年月日

司法省達 十五年一月十六日丁 第五號始審裁判所へ

何裁判所

何枚

何裁判所檢事 氏名印

(二)

表式ノ部

今般刑法治罪法實施ニ就テハ今後刑事裁判統計表之材料ニ供候間別紙表式ニ準シ毎年一月一日ヨリ十二月三十一日マテノ豫審事件ヲ記載シ翌年二月マテニ取纏メ差出スヘク候條此旨相達候事

但治罪法ニ拘ハラヌ從前ノ規則ニ從ヒ處分セシ者ハ件數及人員ノミヲ別紙ニ記載シ可差出又公判ノ條件ハ追テ相達候マテハ從前ノ箇條ニ從テ取調置クヘキ事

(別紙)

何輕罪裁判所

檢事處分第一表 (本表ハ十八年丁第十一號ニテ改正ニアリ)

第二表 (起訴ノ手續ヲ(縦三寸一分)横三寸五分)爲サハル各件)

一	二	三	
思料セシ犯 罪ノ性質	罪ト 爲ラ ル件 數	受可 理 ル件 數	計

第一欄内  
此欄内ニハ最初ニ思料セシ犯罪ヲ以テ刑法ノ各條ニ照シ其ノ罪狀ヲ記載スヘシ

第二欄内  
此各欄内ニハ治罪法第百七條ノ末項ヲ區別記載スヘシ

此他公訴權消滅セシ件アレハ欄外若クハ別紙ニ記スルヲ要ス

若シ左ノ件アル時ハ其件數ヲ記スヘシ

何輕罪裁判所

檢事處分第三表

(本表ハ十八年丁第十一號ニテ廢止)

豫審第一表

(本表ハ十八年丁第十一號ニテ改正ニアリ)

右第一表ニ設ケタル各欄ノ外左ノ各件アレハ其件數ヲ舉ケ本表ニ準シテ附屬表ヲ製スヘシ

計			
---	--	--	--

治罪法百三十五條末項  
一 執行  
死刑  
無期徒刑  
有期流刑  
無期流刑  
有期流刑  
重懲役  
輕懲役  
重禁錮  
輕禁錮

右各條ノ下人員ヲ記スヘシ

一 裁判費用徴收  
一 沒收物品  
一 同

右各條ノ下件數ヲ記スヘシ

重禁錮 罰金  
輕禁錮 拘留  
科料

治罪法第百十四條上半截	
一 被告人ヲ訊問スルニ止リ檢事ニ送致スルニ及ハサリシ件	件數
治罪法第百十四條下半截	
一 檢事ニ送致セシ件	件數
治罪法第百十五條末項	
一 檢事ニ通知スト雖モ起訴ヲ爲サハル件	件數
治罪法第百十六條全文	
一 他ノ豫審判事ニ送致セシ件	件數
全條	
一 他ノ豫審判事ヨリ送致セシ件	件數
治罪法第百三十五條	
一 各控訴裁判所檢事長ニ搜查及逮捕ヲ請求セシ件	件數
右ノ外此類ノ箇條アレハ亦條列スヘシ但囑託ノ件ト混ス可カラズ	
豫審第二表 <small>(本表ハ十八年丁第十一號達ニテ改正ニアリ)</small>	
豫審第三表 <small>(本表ハ同上ノ達ニテ廢止)</small>	
豫審第三表 <small>(從前ノ此時間ハ拘留及收監狀ヲ發シテ監倉ニ入リシヨリ終結マテノ期限トス但保釋責付人員モ總テ合算スヘシ)</small>	

入監時間	管轄	言渡各條
五日內	ス = 非	
十日內	訴	
十五日內	スへ	
二十日內	移所	
一月內	スへ	
二月內	移所	
三月內	スへ	
三月以上	移所	
	計	

表式ノ部





執行時間	件数		他廳ヨリ囑託ヲ受ケン各件		
	合計	計	治罪法第百十九條	治罪法第百廿四條	治罪法第百廿五條
十日以下					
十一日至二十日					
二十一日至三十日					
一月至二月					
三月以上					
十二月三十一日殘件					
計					治罪法第百七十二條第二項

右表中三欄内各項ノ外他廳ヨリ囑託ヲ受ケン者アレハ表中ニ別項ヲ設ケテ記載スヘシ  
 豫審第六表 (從前ノ此表ハ豫審ニ係リ被告人及證人(暨五寸七分) 横ニ寸五分) 等ノ裁判費用ヲ條列スル者トス

言渡區分	被告人		被告事件ニ付呼出シタル人員區分			裁判費用金額
	證人	鑑定人	通事	計	官ニ當テ擔ノ擔當	
管轄ニ非ス						
免訴						
違警罪裁判所ニ移ス						
輕罪裁判所ニ移ス						
重罪裁判所ニ移ス						
合計						

豫審第六表

從前本表ハ第七表ナレトモ本年三月丁第十一號達ニ因リ第三表ヲ第一表ニ合併セシヲ以テ第四表以下逐次ニ繰上ケ記號ヲ題スヘキ者トス

表式ノ部



證人ノ陳述ヲ肯セサル者

何人

證人(呼出ニ應セサル者)

何人

計

何人

司法省達

十五年五月十八日丁第三十一號大審院諸裁判所へ

明治十一年丁第二十及二十一二十二號達中刑事訴訟表離形並記載例ヲ廢シ更ニ別冊之通刑事裁判統計材料表式并書例相定候條本年分ヨリ右ニ準シ其廳ニ於テ取扱タル事件ヲ記載シ翌年三月限り差出スヘシ此旨相達候事

但大審院各表ハ裁判所ニ附セス

治安裁判所ニ於テ輕罪各表ヲ調成シタル時ハ所轄ノ始審裁判所ニ於テ之ヲ取經メ共ニ差出スヘシ

別冊之

司法省達

十八年三月二十六日丁第十一號裁判所へ

明治十五年丁第五號前丁第三十一號前ヲ以テ相達候刑事裁判統計表式中檢事處分第一表第二表豫審處分第一表第二表及故障事件表第一表第二表左ノ通り改定候條自今右ニ照シ製表スヘシ

處分時間	件數		受理件數區別										處分區別			
	前年	本年	國內人	國內人	國內人	國內人	國內人	國內人	國內人	國內人	國內人	國內人	國內人	國內人	國內人	國內人
五年以内																
十日以内																
十五日以内																
二十日以内																
一月以内																
二月以内																
三月以内																
三月以上																
六月以上																
一年以上																
合計																

表式ノ部

檢事處分第一表

本表第一欄ニハ表目ノ如ク時間ノ區分ヲ掲載シ第二欄以下ニ於テ其取扱時間ヲ示スモ  
 ノトス第二欄ニハ受理ノ總件數ヲ掲載シ第三欄ニハ受理件數ヲ告訴告發及ヒ犯人自首等  
 ニ區分掲載シ第四欄以下ニ於テハ處分區別消滅未決中止ノ件數ヲ掲載スヘシ但中止ト  
 ハ告訴告發アルモ犯人未々捕ニ就カス捜査中ニ係ルモノヲ記載スルモノトス  
 取扱時間ハ受理ヨリ起算シ第四欄第五欄ニ於テハ處分セシ當日及ヒ消滅セシ日迄ヲ通  
 計シ未決中止ハ其年末迄通計セシモノヲ掲載ク

處分時間	件數		人員		受理件數區分		管 免			消滅			未決			中止		
	前	本	前	本	檢	官	管	免	消	未	中	消	未	中	消	未	中	
	年	年	年	年	リ	ヨ	違	訴	數	員	數	員	數	員	數	員	數	員
起訴ヨリ五日以内					ヨ	リ	ス	移	ス	移	ス							
全十日以内					ス	ヨ	ス	移	ス	移	ス							
全十五日以内					計	計	計	計	計	計	計							

計	全廿日以内	全一月以内	全二月以内	全三月以内	全三月以上	全六月以上	全一年以上

被告人處遇區別

收 拘	監 留	保 釋	實 付	拘束セサル者	保釋ノ申立ヲ棄却シタル者	取 消
何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人

豫審處分第一表

本表第一欄ニハ表目ノ如ク時間ノ區分ヲ掲載シ第二欄以下ニ於テ其取扱時間ヲ示スモノトス第二欄第三欄ニハ受理總數ヲ掲載シ第四欄ニハ第一欄ノ總數ヲ受理各條ニ區分掲載シ第五欄以下ハ表目ノ如ク既決棄却(棄却ノ欄ハ十八年丁)消滅未決中止ノ件數人員ヲ掲載ヘシ

取扱時間ハ起訴ヨリ起算シ既決ハ處分ノ當日未決中止ハ其年未迄ヲ通算シ其取扱ノ長短ヲ示スモノトス

豫審處分第二表

本表ハ被告人ノ處遇區別ヲ示スモノニシテ毎項ニ起訴ヨリ終結又ハ其年未迄ノ處遇シタル人員ヲ列記スヘシ  
本表ハ實際處遇シタル人員ヲ掲載ヘキモノナルニ付舊ヘハ被告一人ニシテ起訴ノ當時ハ之ヲ拘留シ次ニ入監シ次ニ保釋若クハ責付セシ類ト雖モ毎項ニ其數ヲ記入スヘシ故ニ自然重複數ヲ生シ第一表ノ總數ニ比スレハ多少超過スヘシ但曾テ入監セシ被告人ニシテ更ニ之ヲ責付シ又入監セシメシ等ノ場合アルニ於テハ再度全様ノ處遇ヲ爲スト雖モ一項内ニシテ重複數ヲ掲載可ラス  
保釋ハ其請求ニ於テ自己ヨリセシト他人ヨリセシトノ區別ニ依リ允許セシ人員ヲ掲載ケ

故障事件第一表

拘束セサル者ノ項ニハ曾テ拘留若クハ收監等ノ處遇ヲ受ケサル人員ヲ記スヘシ  
保釋ノ申立ヲ棄却シタル項ニ於テハ被告人自己ヨリセシト他人ヨリセシトヲ問ハス保釋ヲ請求セシモ之ヲ允許セシテ棄却シタル人員ヲ掲載ス可シ  
取消ノ項ニ於テハ前項ニ於テ保釋ノ請求ヲ允許シ又ハ責付セシ者ノ中ニテ更ニ之ヲ取消シタル人員ヲ掲載スヘシ

故障ノ趣意

故障ノ趣意	件數		人員		判決件數區分		棄却消滅未決	
	前年	本年	前年	本年	認可	取消	件數	人員
管轄ノ申立ヲ棄却シタルニ付 法律ニ背キ令狀ヲ發シタルニ付 法律ニ背キ令狀ヲ廢シタルニ付 法律ニ背キ保釋責付ヲ爲シタルニ付 法律ニ背キ保釋責付ヲ爲スヘルニ付 刑權ノ處分アリタルニ付 忌避ノ申立ヲ棄却シタルニ付					官察檢 ヨヨ人告原事民 ヨヨ人告被	官察檢 ヨヨ人告原事民 ヨヨ人告被	計	合
					計	計	數	員

表式ノ部



ヲ治罪法各條ノ順序ニ因リ條列提記スヘシ

第二欄 第三欄 第四欄 此數欄ニハ第一表ノ第二欄第三欄第四欄ノ書例ニ同シ

第五欄 此欄ニハ上欄ノ取消ニ係ル件ニシテ會議局ニ於テ更ニ言渡ヲナシタル人員ヲ

言渡區分ニ依リ掲載スヘシ

第六欄 第七欄 第八欄 此數欄ニハ第一表ノ第五欄第六欄第七欄ノ書例ニ同シ

司法省達 十五年十二月八日丁  
第六十號裁判所へ

本年五月丁第三十一號<sup>ニ</sup>ヲ以テ相達候刑事裁判統計表式ノ内重輕罪公判表式ニ係ル別號第  
二及三表附帶私訴表會議局故障事件表ノ外公判各表ハ照查之都合有之ニ付各廳ニ於テ調成  
スルニ及ハス候尤各表式中重罪輕罪登記簿ノ別紙登記簿徵集箇條書ノ順序期限等ニ據リ  
逐次ニ取調差出ス可シ此旨相達候事

重輕罪公判登記簿徵集箇條書

第一條 丁第三拾一號刑事統計表式中今般達書ニ舉ル各表ノ外公廳ヨリ差出ス可キ材料ハ  
登記簿ニ止ルヲ以テ公判各表式中各廳ニ於テハ不用ニ屬スル如キ類アリト雖モ重輕罪登  
記簿書例第一項ニ據リ豫シメ常ニ公判各表式及書例ヲ參照シテ登記簿ヲ調成スルヲ要  
ス

第二條 重輕罪公判第一表第二欄書例并登記簿書例第四項ニ説明アルヲ以テ登記ノ際同伴

ノ人員ニ注意スルハ勿論ナリト雖モ之ヲ登録スルニ方リ成ル可ク同伴ノ首號ノ外次號ヨ  
リ前何號ノ同伴ト受理區内ニ記載シ符號等ヲ用フ可カラス

第三條 舊法ニ從テ處斷セシ類ハ總テ簿冊中犯罪並受理言渡ノ各區ニ於テ簡明ニ實際ノ事  
由ヲ舉テ舊法處斷ニ係ルヲ明示スヘシ

但受理ノ區ニハ舊法ニ因リ言渡ノ區ニハ懲役何年(自首又酌量ニ因リ何等減或ハ再犯  
何等加)又ハ棒鎖何日ト書スルノ類ナリ

第四條 登記簿式ハ重輕罪ノ例ノミニ止ルヲ以テ若シ諸罰則並不參運參ノ類簿冊ニ漏ル者  
アレハ簿式ニ準シ別冊ヲ調成シテ差出ス可シ既ニ輕罪冊中ニ合シ若クハ編纂成功ノ近キ  
ノ上差出モ亦  
効ケ無レトス

第五條 單ニ違警罪ノ處斷ニ係ル者モ亦前條ニ準スヘシ

第六條 差出ス所ノ各簿札ノ外尙一本ツ、各廳ニ準備スヘキ者トス

第七條 簿札中前科若クハ上訴等ノ各項ニ於テ若シ記載ノ事由ナキ時ハ其位置ニ一線ヲ書  
シ脱漏ナラサルヲ示スヘシ

第八條 簿札一枚毎ニ欄外ニ廳名ヲ記スヘシ假令ハ東京重罪裁判所又ハ橫濱輕罪裁判所ト  
記スルノ類ナリ

第九條 毎年重罪簿札ハ三ヶ月輕罪簿札ハ二ヶ月ツ、言渡濟ノ分ヲ取調ヘ一冊ト爲シ差出

スヘシ

但當十五年分ハ總テ騰寫ノ成ルニ隨テ重罪ハ三ヶ月輕罪ハ二ヶ月ツ、ニ取纏メ本年中ヨリ差出シ來ル十六年三月迄ニ全備スルヲ要ス

若シ既ニ本月分迄調成済且一時ニ全冊差出シ候都合ニ至ル向キモ前文月數ノ區分ニ隨ヒ各々別冊トナヌヘシ

若シ既ニ各表編纂ニ着手シタル向キニシテ成功ノ近キニ及フ者ハ本年分ニ限り丁第三拾一號達ノ差出期限迄ニ編成シテ出スモ妨ケナシ

第十條 簿札ハ必スシヨ圖式ニ據ルヲ要セスト雖モ各廳準備之外差出スヘキ分ハ騰寫ノ煩ヲ省キ運搬ノ便ヲ計ル爲メ成ルヘク本省印刷ノ料紙ヲ用ヒ又ハ其圖式ニ准スヘシ

司法省達 十六年十月二十二日  
丁第廿八號裁判所へ

重輕罪登記簿ノ義ニ付テハ明治十五年丁第三十一號<sup>(二)</sup>并同年丁第六十號<sup>(三)</sup>ヲ以テ相違置候處猶ホ一層注意ノ爲メ左ノ通登記簿徵收簡條并取扱順序增補候條自今右ニ準シ各表式

ノ材料ニ適應スヘキ樣鄭重ニ記載スヘシ此旨相違候事

重輕罪登記簿書例并取扱順序

重輕罪公判登記簿徵收簡條書

此ニ載スル各條ハ明治十五年丁第六十號簡條書ノ追加ナルカ故ニ兩書共ニ對照參酌ス

(四)

ハキ者トス

第一條 登記簿ハ言渡ノ度毎ニ必ス調成スヘシ妄リニ其機ヲ失シ上告後大審院等へ騰寫ヲ要スル如キ繁雜ヲ生スルヲ勿レ(言渡アル毎ニ必ラス記載シ確定マテヲ待ツヘカラス)

重罪裁判所ノ處斷ニ係ル輕罪以下ノ者ハ輕罪ノ簿式ニ準シ別冊ト爲シ其廳ノ本簿ニ屬スヘシ(此輕罪以下ノ者ハ單ニ輕罪以下ニ係ル者ニシテ重罪ヲ減シテ輕罪トナリタル者ニ非ス若シ重罪ヲ減シテ輕罪トナリタル者ハ重罪ノ簿冊ニ登記スル者トス)

輕罪裁判所ノ處斷ニ係ル違警罪モ亦同シ

重罪ニ係ル者法律上減輕ニ因リ輕罪裁判所ノ管轄ニ屬シタル時ト雖モ亦重罪登記簿ニ録シ別冊トナシ其廳ノ本簿ニ屬スヘシ(明治十五年當省丁第

四十五號達(十七)參看)諸罰則等ニ係ル者(明治十五年丁第

第六十號)ハ別冊ヲ調成スヘキ者ニ付若シ重罪及輕罪ニ附帶シ又ハ俱發セシ犯則者モ亦別ニ調成スヘシ唯ニ重輕罪ノ簿札ニ合載シ犯則簿冊ヲ省略ス可ラス必ラス兩簿ヲ調成シ其犯則簿中受理欄内ニ重輕罪簿札何號ト同伴同人ナルヲ附記スヘシ

各簿札ノ番號ハ毎年一月始メテ公判言渡ニ係ル者ヲ以テ第一號ト爲シ各簿次ヲ逐テ其年十二月最終ノ言渡マテ繼續スヘキ者トス故ニ重罪ニ在テ三ヶ月ツ、蒐集進達スルニ方リ一月ヨリ三月マテノ分ニシテ假令ハ一號ヨリ千八十三號ニ至ル時ハ其次四月分ノ首號ハ千八十四號トナルヲ例トス總テ各枚各號即チ每人其號ヲ各別ニ記シ此最終ノ番號ヲ以テ

表式ノ部 け



其年裁判官渡人員ノ全數ニ應スヘキ者トス但件數記載方(第二條參看)ト混ス可カラス  
若シ各廳ノ受理又ハ各掛ヘ配當等ノ順序ニ依ル記號ノ如キハ各簿欄外適宜ノ邊ニ記スル  
モ亦妨ケナシ

簿冊ノ圖式ノ說明ハ從前違書(明治十五年丁第三十一號中登記簿)中ニ在リト雖モ往々料  
紙ノ大小及各欄ノ位置等大差違アリテ照査上不便ナレハ將來ハ成ルヘク本省印刷ノ料紙  
ヲ用ヒ又ハ之ニ準據スヘシ

若シ受理スト雖モ言渡前ニシテ翌年ニ廻スヘキ未決ノ者アルモ八年末簿冊進達ノ際左ノ  
簡條ニ準シ別紙ニ書シ共ニ差出スヘキ者トス

何年十二月三十一日調

未決 件數 若干  
人員 若干

第二條 犯罪欄内ニハ刑法各條若クハ何項何截ト記スル外尙犯罪ノ性質ヲ簡明ニ記スヘシ  
今始ラク重罪登記簿ニ就テ本欄ノ一例ヲ左ニ示ス輕罪モ亦之ニ準スヘシ(十五年丁第三十  
一號第一欄參看)

以下文中「ノ印ハ朱書

犯(明治十五年「一」及「二」)

(何) 陪審裁判所管内ニテ  
刑法第四百四條ノ罪ヲ犯ス

「火ヲ放テ屋ヲ燒燬ス」  
罪(若クハ刑法第三百六十六條俱發)

前條火ヲ放云々ハ處斷ニ係ル正條ニシテ若クハ刑法云々ハ俱發アリシ時ノ例トス俱發ニ  
係ル刑法云々ノ文字ハ犯罪ノ本文ヨリ二字欠字スヘシ尤モ言渡ノ欄ト照應スヘキ者ナル  
カ故ニ殊ニ注意シテ實際ノ事由ヲ記スヘシ(次ニ母ル登記簿犯  
罪ノ欄參看)

此他若シ被告人中尊屬ノ身幼ニ對シ身幼ノ尊屬ニ對スルノ類子ト孫トノ混雜ヲ防キ祖父  
ト祖母ト父ト母トノ混合ヲ防キ又ハ成ルヘク養父及養母ヲ區別シ徒ニ祖父母及父母又ハ  
子孫ト一筆ニ記スルコトナク且養實父ノ混雜等ヲ爲ス勿レ(刑法第十條  
參看)

第三條 受理欄内ハ重罪ニ在テハ豫審判事ノ判決會議局ノ判決(治罪法第三百七十  
二條ノ一項ヲ區分) 大審院ノ判  
決(同) 輕罪ハ檢察官云々豫審判事ノ判決會議局ノ判決(治罪法第三百四  
十七條第一項) 大審院ノ判  
決ヲ區別記載シ又ハ訟廷内ノ犯罪ヲ區分スヘシ

又大審院ニ於テ他廳ノ言渡ヲ破毀シ本廳ニ移サレタル件及管轄ノ訴ニ因リ之ヲ定メタル  
件ノ如キ大審院ノ判決ノ下ニ(破毀ノ上又ハ  
管轄ノ爲トカ) 其事由ヲ簡略ニ附記スヘシ

又他廳ヨリ囑託アリタルモハ定式ノ外何應何々ヨリ囑託ノ事ヲ簡單ニ附記スヘシ假令ハ  
何年月日何裁判所ニテ檢察官云々ニ因リ受理ノ後何年月日本廳ヘ囑託ト記スヘシ但本件ノ  
如キハ之ヲ囑託シタル廳ニテハ登記セス其全部ノ囑託ヲ受ケタル廳ニテ記スヘキ者トス一

表式ノ部

四百八十九

部ノ囑託ニ止ル者ハ此限ニ非ス(一部分或ハ若シ宣告書ノミノ委託ヲ受ケタル類アルモ)  
此欄ニ於テハ明治十五年丁第六十號簡條書第二條ニ照シ全件ノ記載ニ注意シ件數ヲ明晰  
スヘシ

一年間一人ニシテ數回言渡ヲ受ケシ者モ亦前何號全人ト記ス(第四條及五條)

又一件五人アリ内三人ハ豫審判事ノ判決ニ因リ内二人ハ故障アリテ後會議局ノ判決ニ因  
ルカ如キ固ヨリ全一ノ件ナリト雖モ必ラス實際ニ從ヒ之ヲ分チ次ニ擧クヘキ受理ノ欄ニ  
於テ前何號ト全件ナルヲ記スヘシ唯前ノ一方ニ合載シ次ノ一方ヲ省略スル勿レ

又此欄ノ末ニ裁判時間ヲ計算登記スヘシ即チ欄中年月日ヨリ言渡ノ欄年月日マテヲ通算  
シ假令ハ言渡マテ一ヶ月何日又ハ一年何箇月ト書スルノ類ナリ

第四條 前科欄内ハ罪名ヲ略記シ及刑ノ言渡ハ勿論無罪或ハ免訴又ハ一年間言渡ノ重複ニ  
係ル者ニ至ルマテ既ニ裁判ヲ經由セシ者ハ悉ク其年月日ニ從ヒ擧ル者トス前科ノ言渡ニ  
對シ上訴セシ者ハ上訴年月日ヲ遺漏スル勿レ若シ再度ノ上訴アリシ者ノ如キハ前科ニ對  
スル言渡ノ次ニ上訴年月日ヲ附シ再ヒ後ノ上訴項内ニ記スヘシ

第五條 言渡欄内ハ言渡ノ事實ニ從ヒ刑名及其期限金額附加刑等ヲ擧ク是亦犯罪及前科年  
齡等ト照應スヘキ者トス故ニ加重若クハ減輕ノ事由等尤モ明晰ナルヲ要ス假令ハ刑法第  
九十一條(九二)ニ該ルヲ以テ一等加刑法第八十五條(八六)又ハ第八十九條ニ據リ何等減ト

書スルヲ例トス

若シ數罪俱發等ノ者ニシテ既ニ犯罪欄内ニ於テ刑法ノ各條ヲ列載セシ者アル時ハ此欄刑  
名ノ肩書ニ刑法ノ條目ヲ附シ前各條中何條ニ因テ處斷セシヲ示スヘシ

若シ管轄違治罪法第二百七十五條豫審判事ニ送付スル言渡及罪ヲ論セス懲治場ニ留置ス  
ル如キ遺漏ス可カラズ

又附加刑ヲ受ケン者ハ監視ノ期限罰金ノ員數沒收物品ノ如キモ亦之ヲ區別記載スヘシ  
又被告人ノ死去及被害者ノ棄權等總テ消滅セシ者ノ類ハ此欄内ニ類別シテ略記スヘシ  
又對審欠席ノ區分ノ如キ遺漏セサルヲ要ス今本欄ノ一例ヲ左ニ示ス(次ノ簿札言渡)

言 [何年何月何日] 對審(若クハ欠席)

重懲罰何年(刑法第八十一條)

波 [附加罰金何圓] 又ハ(刑法第九十二條)

若シ一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發シ其輕ク若クハ等シキハ之ヲ論セス其重キ  
者ハ更ニ之ヲ論シ云々(刑法第百四十二條) 又ハ囚徒逃走(刑法第百四十四條)ノ類ニシテ本年言渡ノ重  
複ニ係ル者ハ注意シ其事由ヲ簡明ニ附記スルヲ要ス(其一年間重複ニ係ル者ハ受理又ハ

各欄  
發付)

前條ニ係ル者ニ就キ言渡欄内ノ一例ヲ左ニ示ス

言  
「何年」「何月」「何日」  
「何罪」「何罰」  
「何金」「何罰」  
「何日」「何月」「何年」

渡  
「前」「何年」「何月」「何日」  
「何罪」「何罰」  
「何金」「何罰」  
「何日」「何月」「何年」

此他舊法ニ從テ處斷セシ類ハ十五年六十號箇條舊第三條ニ照スヘシ

第六條 男女氏名欄内ハ既ニ簿式ニ掲載アル各目ニ照シ記スヘシ

又一年間一人數回處斷ヲ經シ者ハ必ス氏名ノ傍ニ前何號全人ト附記スヘシ若シ其一人前  
回ニ於テ氏名ヲ詐稱シ次回ニ發覺セシ者ハ次回ノ簿中氏名ノ傍前何號全人前ハ偽名ト記  
スヘシ

第七條 重罪及輕罪登記簿教育年齢以下各欄内ノ書例ハ渾テ明治十五年丁第三十一號登記  
簿中朱書ノ例ニ依ル尤モ職業區分ノ如キ全號中重罪公判第九表第一欄ノ書例ニ據リ記ス  
ルヲ要ス

第八條 謀殺及放火犯罪ノ因由欄内モ亦十五年丁第三十一號中重罪公判第十二表第一欄  
ノ書例ヲ參看シ務メテ簡明ニ事由ヲ記スヘシ

此以下犯罪ノ成果ニ在テハ重罪公判第十二表第三欄使用器具ハ全第四欄書例ヲ參看スヘシ  
右各條ノ外若シ常例ニ準シ難キ者アル時ハ適宜ノ欄内又ハ欄外ニ其事由ヲ附記スヘシ

〔何重罪裁判所又ハ輕罪〕

犯 「何年」「何月」「何日」 「何罪」「何罰」 「何金」「何罰」 「何日」「何月」「何年」	受 「何年」「何月」「何日」 「何罪」「何罰」 「何金」「何罰」 「何日」「何月」「何年」	前 「何年」「何月」「何日」 「何罪」「何罰」 「何金」「何罰」 「何日」「何月」「何年」
刑罰 「何年」「何月」「何日」 「何罪」「何罰」 「何金」「何罰」 「何日」「何月」「何年」	受 「何年」「何月」「何日」 「何罪」「何罰」 「何金」「何罰」 「何日」「何月」「何年」	前 「何年」「何月」「何日」 「何罪」「何罰」 「何金」「何罰」 「何日」「何月」「何年」
刑罰 「何年」「何月」「何日」 「何罪」「何罰」 「何金」「何罰」 「何日」「何月」「何年」	受 「何年」「何月」「何日」 「何罪」「何罰」 「何金」「何罰」 「何日」「何月」「何年」	前 「何年」「何月」「何日」 「何罪」「何罰」 「何金」「何罰」 「何日」「何月」「何年」
刑罰 「何年」「何月」「何日」 「何罪」「何罰」 「何金」「何罰」 「何日」「何月」「何年」	受 「何年」「何月」「何日」 「何罪」「何罰」 「何金」「何罰」 「何日」「何月」「何年」	前 「何年」「何月」「何日」 「何罪」「何罰」 「何金」「何罰」 「何日」「何月」「何年」
刑罰 「何年」「何月」「何日」 「何罪」「何罰」 「何金」「何罰」 「何日」「何月」「何年」	受 「何年」「何月」「何日」 「何罪」「何罰」 「何金」「何罰」 「何日」「何月」「何年」	前 「何年」「何月」「何日」 「何罪」「何罰」 「何金」「何罰」 「何日」「何月」「何年」
刑罰 「何年」「何月」「何日」 「何罪」「何罰」 「何金」「何罰」 「何日」「何月」「何年」	受 「何年」「何月」「何日」 「何罪」「何罰」 「何金」「何罰」 「何日」「何月」「何年」	前 「何年」「何月」「何日」 「何罪」「何罰」 「何金」「何罰」 「何日」「何月」「何年」

重罪登記簿二號

〔掛判事又ハ補

氏名

表記掛書記ノ認印

表式ノ部

四百九十三

「何重罪裁判所又ハ輕罪」

「何年何月何日」 「何重罪裁判所管内ニテ」 刑法第三百七十七條ノ罪ヲ犯ス 「兇器ヲ帶シテ人ノ住居シタ ル邸宅ニ入り窃盗ヲナス」		「何年何月何日」 受 「大審院ノ判決ニ因リ (破毀ノ上)若シテハ 理會議局云々」		前 「何年何月何日」 何裁判所ニテ對審 科 全上ノ科ニ因リ輕懲役何年 監視 何月	
「何年何月何日」 「何重罪何年何月何日」 「何」 「附加罰金何圓」 「附加監禁何年」	「何」 「何」 「何」 「何」	「何」 「何」 「何」 「何」	「何」 「何」 「何」 「何」	「何」 「何」 「何」 「何」	「何」 「何」 「何」 「何」
「何」 「何」 「何」	「何」 「何」 「何」	「何」 「何」 「何」	「何」 「何」 「何」	「何」 「何」 「何」	「何」 「何」 「何」
「何」 「何」 「何」	「何」 「何」 「何」	「何」 「何」 「何」	「何」 「何」 「何」	「何」 「何」 「何」	「何」 「何」 「何」

「掛判事又ハ補  
氏 名  
表記掛書記ノ認印」

登記簿取扱順序

- 自今左ノ個條ニ準シ取調ノ手續ヲ爲スヘシ
- 一 登記簿原本ハ言渡アル毎ニ公判掛ノ書記ニ於テ必ス其機ヲ失ハヌ該件ニ係ル被告人毎ニ一枚ヲ調成シ之ヲ表記掛ノ書記ニ交付スヘシ(個條書增補第一)
- 一 表記掛ニ於テ簿札ヲ交收スル時ハ其時日ニ從テ其番號ヲ附シ渾テ各欄ノ記載ヲ調査シ若シ錯誤ト認ムヘキ者アルモ妄ニ變更修飾ヲ加フルコトナク勉メテ實際ノ事由ヲ擧クヘシ若シ犯罪及言渡欄ト對シ解シ難キ者アル時ハ主任判事若クハ判事補ニ質スヘシ
- 一 調査終了ノ分ヨリ之ヲ謄寫シ謄寫スルニ從ヒ每葉欄外ニ掛判事或ハ判事補(掛二人以上長一)ノ姓名ヲ記シ表記掛ノ書記認印スヘシ
- 一 重罪ハ三ヶ月輕罪ハ二ヶ月ツ、一冊トシテ進達ノ手續ヲ爲スヘシ
- 一 簿冊進達前裁判所長ニ於テ之ヲ通覽シ若シ連月又ハ連年ノ間被告人員ノ増減ニ於テ大差ヲ生シタル時其地方ノ景況即チ豐凶若クハ貿易ノ繁閑若クハ天災等ヨリ其増減ノ起因スルト認ムル者アレハ簡明ニ其理由ヲ具狀スルコト明治十四年十二月丁第三十四號達(表式欄外朱書ノ例ニ依ルヘシ)

(五)  
 司法省達 十八年八月十三日丁  
 第十七號裁判所へ  
 明治十五年常省丁第三十一號(統計財料重輕罪公判登記簿并同年丁第六拾號)及明治十六

表式ノ部

四百九十五

年丁第貳拾八號(四)登記簿徵集箇條書中增補修正シ同材料別號表第貳第三ヲ改正シ明治十五年丁第貳拾號(二)及本年丁第拾壹號(二)同材料檢事處分表書例ノ說明ヲ增補シ其登錄表記ノ調成及期限等ハ別紙ノ條項并表式ノ趣旨順序ニ據ルヘシ此旨相達候事

重輕罪登記簿徵集箇條書補正

刑事裁判統計材料取調ニ係ル注意

凡ソ統計材料ハ調査ノ周到ヲ要スル勿論ニシテ其調査ノ周到ナルヘキハ登記ノ正確ナルニ在リ登記ノ正確ナルヘキハ事實ノ明瞭ナルニアリ事實ノ明瞭ナルヘキハ先ツ其淵源ヲ搜索スヘキ訟廷上尋問等ノ効用ニ歸セサルヲ得サル者アラシク新法實施以來刑事統計年報ニ就テ其一班ヲ舉レハ明治十六年對審裁判中年齡ノ不分明ナル者(重罪ニ係ル被告人一〇四九)二百五十九人十五年ニハ三百七十三人(重刑)族籍ノ不分明ナル者(重罪七一五)八百零六人十五年二百零九人(刑)又十六年重罪ニ於テ生國ノ詳カナラサル者六十五人十五年二十八人十六年住地ノ不分明ナル者二十七人十五年四十五人十六年文字ノ知否不分明ナル者七十四人十五年六百〇三人十六年既未婚ノ不分明ナル者百三十五人十五年四百六十八人十六年職業ノ不分明ナル者二百二十八人十五年百八十四人十六年農業ノ内自他ノ耕地不分明ナル者七百二十八人十五年四百十八人(生國以下此ニ至)此兩年間多少ノ異動ナキニアラスト雖モ然モ調査周子カラスト聞ハサルヲ得ス豈ニ尋問等ノ効ニ歸セサルヤ抑年齡職業等治罪法中明

文アル者ハ言ヲ待タス其他總テ連年刑事統計中之材料タリ其内調査完全セスト雖モ而シテ明治十四年ニ至リ不分明ノ員數稍減セントスルノ勢アリ然ルニ今日反テ尙ホ此ノ如シ務メテ整頓ヲ圖ラヌンハ將來益甚シキニ至ラン當省統計材料ノ義ニ就テハ既ニ再三達示之趣モ有之如ク實ニ全國裁判表記上ノ體裁ニ關係スルコト鮮少ナラサレハ最モ鄭重ニ取調ヘ粗畧ニ失スルコト勿レ今復刑事統計材料調書ノ補正ヲ加フルニ方リ此ニ注意ノ要領ヲ附ス

明治十五年當省丁第六十號重輕罪公判登記簿徵集箇條書同十六年丁第二十八號同箇條書追加各條中左ノ如ク增補及改正ス但此達書到達ノ日ヨリ次ノ各條ニ據リ登記スヘキ者トス

一 登記簿列ハ明治十五年以來再三本省ノ達示アレトモ往々各廳一定セサル者アリ又補正ヲ要スヘキ者アリ左ノ各條ノ如キ注意ヲ要ス但以下數箇條ハ簿冊全體ノ調成方法トス尙

一 登記簿札(重罪以)總欄ノ大サハ本省印刷ノ寸方ニシテ之ヲ美濃紙種全形 半截中ニ設クル事

但重罪簿札總欄内各欄ハ丁第二十八號明治十年明示アル簿式ニ準シテ區畫シ輕罪等ノ簿札總欄内各欄ハ丁第三十一號明治十年輕罪簿式ニ準シ各欄ヲ適宜ニ分割スヘシ

一 登記ノ時ハ總テ墨書スル事(明治十六年丁第二十八號中簿式ニ「印ハ朱書トアルハ狂但各欄ニ登錄スヘキ事由ニシテ通例ト爲シ難キ異狀アル者ハ朱書スヘシ假令ハ犯罪及

一統計材料ハ一ケ年間毎年度一月ヨツ、取調フル者ナレハ登記簿モ亦既決旨渡濟若スルニ從ヒ之ヲ登録シ等ハニケ月ツ、毎曆年ニ區畫シ得ル様ニ調成テハ其開應ノ期限ニ拘ハラヌ一ケ年ヲ限リ調成スル者トス故ニ若シ甲年ノ開應シ年ニ洗ルモ其開應ヲ待タス先ツ甲年ノ旨限ニ係ル件ノミヲ一掃シテ調成シ年ニ洗ルモノハ乙年ノ簿冊ニ編入ス

明治十五年丁第三十一號登記簿個係書第二條并十六年丁第二十シテ其年度ノ錯雜又ハ登録ノ時機ヲ遷延セサル事丁第二十八號微集簿條

一重罪裁判所ノ取扱ニ係ル内單ニ輕罪ノ者アレハ其重罪應ノ別冊ト爲シ又輕罪裁判所ノ取扱ニ係ル内重罪ニシテ法律上減輕ニ因リ之ヲ管轄シタル者ハ其輕罪應ノ別冊ト輕罪ト其異ニスレナスノ例ナレトモ往々本冊ト別冊ト配分ノ混雜セシ者アル如シ自令其區分ヲ判然セシムル事諸規則違反及違背罪モ亦別冊ト爲ス者ト

一此他輕罪應ノ取扱ニ係ル内新法ニ在テ重罪ノ性質カ故ニ新舊比照スレハ重禁錮等ノ刑期ニ該ル如キモ其他質タルタル者ハ皆別冊中ニ編入スル事

但前條ノ旨趣ヲ正確ナラシメ且各簿八員ノ調査ニ便利ナラシムル爲メ各簿表面件數人員明治十六年丁ノ傍ラニ其年度最終ノ言渡ニ係ル簿札ノ番號ヲ附記スヘシ其例左ノ如シ

第四十號簿(輕罪又ハ附屬) 公判簿札ノ最終

内何號ハ重罪(輕罪又ハ附屬) 公判簿札ノ最終

簿札各欄書例說明

左ニ掲グル各條ハ重罪又ハ輕罪簿札各欄中各應勉メテ書例ノ整理ヲ要スル者トス但此ニ掲外ノ條項ハ總テ明治十五年丁第三十一號表式及書例ヲ参照シ且十五年丁第六十

號及十六年丁第二十八號登記簿微集個係書ニ準スヘシ

犯罪ノ欄 此書例明治十五年五月第三十一號重罪公判第一表第一欄書ハ既ニ明示アレト

モ更ニ注意ヲ要スヘキ一並ノ例ヲ左ニ列ス

一刑法第二百八十六條及第二百八十七條ノ如キモ亦裁判官ニ係ル者ハ裁判官トノミ記シ檢事ハ檢事トノミ警察官ハ警察官ト區別スルヲ

一刑法第三編第一章第一節各條ノ如キモ謀殺毒殺故殺又ハ慘刻ノ所爲又ハ重罪ヲ犯スニ便利ルハ爲メ又輕罪ヲ云々詐稱誘導シテ危害ニ陷レタル謀殺ト尤モ分明ナルヘキヲ

一同第二節各條ノ如キモ亦他條項ノ事實ヲ條分細析シテ記スルノ類 成ルヘク分明ナルヘキヲ

一謀殺毒殺若クハ放火又ハ毆打創傷ノ如キ從犯ハ之ヲ區別シ正犯ト分ツト未遂犯モ亦同シ

但罪名ノ傍ラニ從(又ハ)ト附記スルヲ左ノ如シ

何年何月日 刑法第二百九十二條 豫メ謀テ人ヲ殺ス從(又ハ)未遂)

一數罪俱發ニ係ル者ノ如キハ其處斷ニ係ル犯罪ノ年月日ニ依テ記スル者トス

但繼續犯罪ノ如キハ其最終ノ年月日ニ依ル

受理ノ欄丁第二十八號個係書第三條各項

一關所裁判ヲ受ケタル者故障申立テ公判ニ附セシ時ハ此欄ニ其事由ヲ記スル左ノ如シ

何年何月何日 此肩書ノ年月日ハ故障ノ申立ヲ受理セシ時ノ年月日ニ依ル  
 欠席裁判ノ故障ニヨリ  
 一 裁判時間ハ重軽罪裁判所ニ於テ公訴簿時間ハヲ受ケタル日ヨリ起算シ言渡ノ當日マテ  
 ヲ通算ス但三十日ヲ一日トシ一年ハ曆ニ因ル

言渡ノ欄 第二十八號個條  
 第五條各項參看

一 謀殺毒殺放火ノ如キハ各表 明治十五年丁第三十一號各表式及本省編纂ニ關係スル  
 多ケレハ其未遂犯罪ニ於テモ亦注意シ左ノ例ニ準ス

言 何年何月何日

言 重懲役何年 何刑ヨリ未遂ニテニ  
 尋 何年何月何日

若シ從犯ナル時ハ前條ニ準シ註解ヲ附シ現刑 區別記載シ犯罪ノ欄罪名ノ傍ニ從(ハ  
 未)下記スルノ注意ヲ要ス

又前發ノ刑ヲ以テ後發ノ刑ニ通算セシ類ハ其通算ノ刑期ヲ揭ケ前ノ刑期ヲ附記ス假令ハ  
 一 罪前ニ發シ已ニ重禁錮三ヶ月ト十日ノ言渡アリ餘罪後ニ發シ前發ノ刑ヨリ重クシテ一  
 年八ヶ月二十日トナル者トセハ左ノ如シ

言 何年何月何日

言 重禁錮二年 前ノ三月十  
 日ト通算

控訴ノ欄

一 輕罪簿札言渡ト上訴ノ欄トノ間ニ控訴ノ一欄ヲ設ケ現言渡ニ對シ控訴アリタル時其年月  
 日ヲ記シ次ノ上訴ト區分スル

犯時年齡

一 刑法第一編第四章第一節第七十九條以下各條ニ係ル者ノ如キ尤モ判然タルヲ要ス假令ハ  
 二十年ニ滿チタル者ハ滿二十年ト記シ若シ此ニ過ル者ハ二十年一ヶ月又ハ二ヶ月ト記シ  
 二十年ニ滿タサルモノハ十九年何ヶ月ト記スルノ類凡二十年以上若クハ以下各齡總テ此  
 ニ準ス

犯時職業 明治十五年丁第三十一號  
 重罪公判第九表參看

一本項ノ如キ統計上ニ於テモ各般ノ考證ヲ要スレハ徒ニ舊慣ニ依リ農工商トノミ概擧ス可  
 ラス農業者ノ内田畑ヲ所有スルト否トヲ取調ヘ工業者モ亦大工又ハ左官又ハ何職工ナル  
 カヲ調ヘ商業者モ亦臈服又ハ陶器又ハ何店又ハ何行商ヲ調フル事

一 犯時ニ就テ調フヘキ者ナレハ官吏ニシテ罪ヲ犯シタル者ハ犯時ノ官職ヲ舉ケ現況往々現  
 況ニ拘  
 泥シ犯時ノ官名ヲ脱セ  
 レモノアリ故ニ及フニ泥ムヘカラス

一 犯時住地

被告入若シ既未決ノ囚徒ニシテ犯時入監ニ係ル如キハ其入監前マテ住セシ地ニ就テ記ス  
 ハシ

證人等ノ人員

- 一本項ハ公判廷ニ呼出シタル證人若クハ鑑定人等ヲ區別シ其人員ヲ舉ル
- 一同件中被告人數人アリ證人等モ亦數人アル時ハ首號簿札ノ被告人ノミニ係ル證人等ハ首號ニノミ記シテ次號ニハ之ヲ省キ次號ノミニ係ル者ハ其前後ノ各號ニ省ク但同伴ノ全體ニ係ル證人等ハ首號ノミニ掲ケ次號ヨリ之ヲ省キ重複ス可ラス

裁判費用

- 一被告人數人連帶ノ金額ニ係ル者ノ如キハ同伴ノ首號ニ列スヘキ簿札ニノミ其總額ヲ記載シ次札ニ省キテ重複セサル事
- 一同件ナル數人中從犯ノ者ハ已ニ判決アリ正犯ハ反テ未タ判決セヌ或ハ全件中ノ數人各別ニ判決アリ其時日ヲ異ニシ每人各費用アリシ時ハ其事實ニ從ヒ各札ニ區別記載スル事

不參及遞參

- 一本件ハ左式ノ如ク毎年調成シ翌年二月マテニ進達スヘシ但本件ノ簿札ハ明治十八年七月一日分ヨリ廢止ノ事

明治何年  
何裁判所  
治安ヲ區分

(用紙及總額ノ大サ簿札ノ如シ但各欄ハ適宜ニ區分)

不參及遞參ニ係ル	前年	本年	罰金	科料	計
	件數	件數	(人員)	(人員)	

罰金	
科料	
計	

罰金等取消シタル者ハ記載ノ限ニアラス

右ノ外前ニ述ヘタル如ク總テ明治十五年丁第三十一號重罪公判登記簿並全年丁第六十號明治十六年丁第二十八號重罪登記簿徵集簡條書及取扱順序全年丁第四十號(一進達手續ニ據リ調成スヘシ)

別號第二及第三表改正

明治十五年丁第三十一號中別號表第二及第三ハ本年分ヨリ改メテ左式ノ如ク調成スヘシ但前ノ違示等此ニ抵觸スヘキモノハ總テ廢止

明治何年

何裁判所別號表

表式ノ部



罰金及科料	總計		完納		幾部		不完納		未定		換刑人員及期限	
	員	金	員	金	員	金	員	金	員	金	禁錮	拘留
罰金												
科料												
罰金科料併科												
合計												

別號表書例

本表ハ各廳ニ於テ處分セシ罰金及科料ニ係ル人員金額並其納否換刑ヲ區別記載スル者ニシテ其書例ハ左ノ如シ但人員金額トモ千位ニ、點ヲ附シ金額ノ第一欄ニ於テハ各條列載セシ如ク主刑及附加刑等ヲ區分記載スヘシ

第二欄ニハ三欄以下六欄マテノ人員及金額ヲ通算セシ總數ヲ記スル者トス而シテ其員數ハ前年ノ未定額中ニ在リ本年ニ至リ三欄以下ノ成果アリシ者モ亦含有スヘシ

但本欄以下罰金科料併科ノ條ニ係ル人員ニ就テハ罰金ノ條ノミニ之ヲ記シ科料ノ條ニハ之ヲ省クコト左ノ如シ

罰金科料併科 罰金 一、〇二五 員  
科料 一、八二五 員  
合計 三、八五〇 員

第三欄ニハ罰金若クハ科料ノ言渡ヲ受ケタル金額ヲ悉皆收納セシ者ニ就テ其人員及金額ヲ揭クヘシ

第四欄ニハ言渡金額中ノ一部若クハ數部ヲ收納セシ人員ト其納否ノ金額ヲ區別記載スル者トス即チ罰金十圓ノ言渡ニ係ル者若シ資力少クシテ僅カニ二圓ノミヲ納メ殘金八圓ハ禁錮ニ換ヘラレシ時ハ本欄人員ノ項ニ一ト見做シ一ト書シ納ノ項ニ二〇〇〇否ノ項ニ八〇〇〇ト記スルノ類ナリ

第五欄ニハ罰金若クハ科料言渡ノ金額ヲ悉皆收納シ能ハサル無資力ノ者ニシテ換刑ノ處分ヲ受ケシ人員及其金額ヲ掲載スヘシ

第六欄ニハ納期猶豫限内ニ在テ未タ全部ヲ收メヌ又ハ數部ヲ收メ又ハ納期ヲ過ルモ逃走等ノ事故ニ依リ年末マテ未定ノ者ヲ掲クヘシ即チ本欄未定ノ全部ニ於テハ既ニ言渡ハ確定スト雖モ未タ全ク納否ノ決セサル人員ト金額ヲ記シ幾部ニ於テハ若シ既ニ幾部ヲ收メシモ逃走等ノ事アルカ故ニ其未納ノ分ヲ以テ換刑ノ處分ヲ爲スニ至ラサル如キ未定ノ人員ト其納否ノ金額ヲ記ス然レトモ此幾部中ニハ第四欄ノ員數第四欄金額不納ノ分ハ換刑トナト混合ス可ラス但此欄納否ノ書例ハ第四欄人員及其金額納否ノ區分記載ノ例ニ據ルヘシ第七欄ニハ換刑ノ處分ヲ受ケタル者即チ第四欄及ヒ五欄ノ人員ニ就テ換刑ノ刑名及期限ノ區分ニ從ヒ其人員ノミヲ掲載スヘシ

此他前年ヨリ繼續シ來ルモノ及ヒ本年ノ言渡ニ係ル者ノ内期滿免除又ハ死亡等ニテ消滅セシ者アル時ハ只欄外ニ其人員金額ノミヲ附記スヘシ

附帶私訴表改正

明治十五年丁第三十一號中附帶私訴表ノ第一欄物品土地山林建物船及罪名ノ類聚記載方ハ本年分ヨリ改メテ本省刑事統計年報第六部附帶私訴表明治十五年第八十九表ノ例ニ據リ編成スヘシ但前年ニ全レ

檢事處分表書例増補

明治十八年當省丁第十一號改定檢事處分第一表説明並明治十五年丁第五號全第二表欄外執行ノ條説明左ノ如ク増補ス本年分ヨリ此ニ據リ調成スヘシ

一 告訴及告發ノ區分ニ注意ヲ要ス假令ハ被害者ヨリ警察官ニ告訴シ警察官之ヲ檢事ニ送致セシ時モ亦其實事タル告訴ニ係ル故ニ之ヲ告訴ノ欄ニ於ル内外國人ノ各項ニ從テ配分登錄スルノ類ナリ

一 他廳ヨリ全部ノ嘱托アリシ如キモ亦他廳ニテ受付ケタル事實其初メ内國人ヨリ告訴ニ就キ告發又ハ告發ノ區別中ニ配分スルノ類ナリ但時間ノ計算ハ嘱托ヲ受ケタル日ヨ

一 治安裁判所ノ件數中豫審ヲ要スル事件ニシテ之ヲ其管轄始審裁判所ヘ送付セシ場合ニ於テハ本(支)廳表中ニ之ヲ掲載シ治安廳ノ表ニハ之ヲ省キ欄外ニ附記スヘシ此外前年又ハ

但本件ハ本廳ニ於テ受付即チ到着ケタル日ヨリ時間ヲ起算ス

一 各輕罪裁判所ニテ開設アリタル重罪裁判所ノ言渡ニ係ル各刑ノ執行人員ハ別紙ニ調成シ肩書ニ何重罪裁判所言渡ニ係ル執行人員ト附記シテ輕罪廷ノ言渡ニ係ル者ト區別スヘシ

明治十五年丁第五號第二表欄外執行各條  
但シ重罪廷ノ取扱ニ係ル者ハ禁錮以下罰金科料ニ至ルマテ總テ重罪廷ノ内ニ合シ輕罪

(六)

廷ニ係ルモノト混ス可カラス

一裁判費用没收物品徴收及處分ノ件モ亦重罪廷ニ係ル者アル時ハ之ヲ區別スヘシ

司法省達 十九年一月十日  
五月丁第二號

明治十五年五月丁第三十二號達特赦表ハ自今具申書類ニ就キ本省ニ於テ直ニ編纂候條昨十八年分ヨリ差出ニ及ハス此旨相達候事

但自今特赦具申ノ時々該囚徒氏名ノ頭上ニ其所在監名(何府縣)ヲ附記スヘシ

〔參照〕

司法省達 十五年五月十八日丁第三十二號大審院審判所へ

明治十一年丙第十一號達相履シ更ニ別冊之通刑事裁判統計材料中特赦表式並舊例相定候條本年分ヨリ右ニ準シ特赦事件ハ監獄長ヨリ申立シ者ニ至ル迄總テ調成シ翌年二月マテニ差出スヘシ此旨相達候事

別冊之略

司法省達 十五年三月廿九日丁第十號大審院審判所へ

明治十一年當省丁第二十七號達新聞條例及謗謔律犯者表雖形別紙ノ通改正候條右ニ照準シ年兩度ニ取調前季自一月分ハ七月十五日限後季自七月分ハ翌年一月十五日限可差出尤犯者無之向ハ其段可届出此旨相達候事

(七)

但管轄治安裁判所ノ分ハ始審廳へ取廻メ可差出事

(別紙)

凡例

- 一本表ハ集會條例新聞條例ヲ以テ處斷シ及ヒ新聞紙雜誌雜報ノ記事ヨリ起リ或ハ公然演説ヲ爲シタル犯者ニシテ刑法ノ條目ニ從テ處斷シタル者ヲ記入ス
- 一所犯新法頒布以前ニ在テ新舊ノ法ヲ比照シ舊法ニ從テ處斷シタル者ハ本表記載ノ例ニ倣ヒ記入ス可シ
- 一數罪俱發シ一ノ重キヲ以テ論シ其餘罪ノ輕クシテ論セサル者モ本表記載ノ例ニ準シ一々記載ス可シ
- 一一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發シ其輕ク若ハ等シクシテ論セヌ或ハ重クシテ更論シタル者ハ各々本表記名ノ區畫中ニ記載シタル例ニ倣ヒ記入ス可シ
- 一上告ニ係ル者ハ其上告ニ拘ハラヌ原裁判ノ刑名ヲ記入ス但シ大審院ノ表ハ此例ニアラス
- 一公然ノ演説上ヨリ起リ刑法ノ條目ニ從テ處斷シタル者ハ本表新聞名ノ欄内へ其社名ヲ書シ若シ社名アラサル者ハ其理由ヲ記入ス可シ

大審院 何裁判所	明治何年自集會條例新聞條例及刑法犯者表 何月至何月	刑	新聞等ノ名	犯者
犯罪ノ條目	裁判官渡シテ 爲シタル月日			

表式ノ部



明治何年 警視廳 何警察署(又ハ何分署) 規則違犯即決表

諸規則違犯	件数		人員	言渡區分人員	計	附加
	無罪	有罪				
郵便規則						
酒造稅則						
烟草稅則						
計						

明治何年 警視廳 何警察署(又ハ何分署) 全上 別號第一號表

科	料	人員	金額	拘留	留人員
一 完納				一 執行済	
二 假納シテ正式ノ裁判ヲ請求セザルモノ				二 保證金ヲ差出サ、ルニ付留置セシモノ	

別號第二號表

換	刑	人員	員	没入保證金額何圓何十錢
七 科料ヲ拘留ニ換ヘシモノ				三 保證金ヲ差出シタル後出廷シテ執行ヲ受ケタルモノ
三 不完納				四 保證金ヲ差出シタル後出廷セザルニ依リ保證金ヲ没入シタルモノ
四 假納セザルニ因リ留置セシモノ				計
五 幾部否納				
六 未定幾部否納				

違警罪即決表書例

本表欄外年號并署名標題等總シテ表式ニ照ラシ記載ス可シ但表中員數ノ記載方ハ千百十九件ナレハ「二一九」ト記シ一萬千三百九拾人ナレハ「二一三九〇」ト記スヘシ

第一欄ハ刑法ノ各條項ヲ區別シ又男女ノ員數ヲ區分スルコト表式ニ示シタルカ如シ

何縣 違警罪トアル以下ハ刑法第四百三十條ニ係ル犯罪ノ各項ヲ區別例載スヘシ

第二欄ハ告訴發其他ノ區分ヲ問ハヌ即決セシ總件數ヲ記スルモノトス但一事件中ノ被告人ニ男女アルハ第一欄男ノ下ニ件數ヲ記シ女ノ下ニハ之ヲ省ク可シ又一入ニシテ數罪ヲ犯シ各其刑ヲ科シタルハ刑ノ重キ者ニ付キ其刑等シキキハ第一欄罪目記載ノ前後ニ

表式ノ部

從ヒ前記罪目ノ下ニ件數ヲ記シ他ノ罪目ノ下ニハ之ヲ省キ件數重複セサルヲ要ス

第三欄ハ全上ノ總人員ヲ記スルモノトス但一人ニシテ數罪ヲ犯シ各其刑ヲ科シタルハ刑ノ重キモノニ付其刑等シキハ第一欄罪目記載ノ前後ニ從ヒ前記罪目ノ下ニ其數ヲ記シ他ノ罪目ノ下ニハ特ニ朱字ヲ以テ其數ヲ記シ總人員ト重複人員トヲ識別スルニ便ナラシム可シ

第四欄ハ言渡ノ區分ニ從ヒ其人員ヲ記載スルモノトス但科料金完納セサルヲ以テ拘留ニ換ヘタルモノハ別號表ニ記載スヘキモノナルカ故此ニ混記セサルヲ要ス

若シ拘留五日ニ該當スルモノ再犯加重ニ因リ六日以上ニ入り科料一圓未滿ノ者加重シテ一圓以上ニ入ルノ類ハ左ノ如ク表外ニ附記スヘシ

刑法第何條何項ニ係ル拘留何日以上ノ内再犯ニ因リ加等ノ者何人何府縣 違警罪何々(罪ヲ云)ニ係ル科料壹圓以上ノ内再犯ニ因リ加等ノ者何人

第五欄ハ無罪以下科料ニ至ル迄ノ人員ヲ通計スルモノトス即チ第三欄ノ人員ト全一ナルヘシ

諸規則違犯即決表書例

本表欄外年號并署名標題等總シテ表式ニ照ラシ記載ス可シ但表中員數ノ記載方ハ違警罪即決表ニ全シ

第一欄ハ諸規則ノ各目ヲ列載シ又ハ男女ノ員數ヲ區分スルヲ表式ニ示シタルカ如シ

第二欄以下各欄ノ書例ハ總シテ違警罪即決表ニ全シ但本表ハ第一欄ニ掲ケタル一ノ罰則ヲ以テ一罪トナスカ故一罰則中ノ各條項ヲ犯シ各其刑ヲ科シタル時ハ之ヲ合算シテ表記スルモノトス若シ將來表式記載外ノ條件起ル時ハ隨時各欄各項目設ケサルヲ得サルヲアル可シ即チ拘留ニ係ル者アル如キハ科料ノ上ニ一項(違警罪即決表ニ準)ヲ設ケルノ類是ナリ

別號表書例

本表欄外年號并署名標題等總シテ表式ニ照ラシ記載スヘシ但各表員數ノ記載方ハ違警罪即決表ト全シク數字ヲ以テ記入シ千位ニ、點ヲ附シ金額ノ圓位ニハ、●點ヲ附シ厘位ニ止マルモノトス

第一表

第一項ニハ科料ノ言渡(違警罪即決例第八條ニ據ラサルモノ)ヲ受ケタル金額ヲ悉皆收納セシ者ニ就キ其人員及金額ヲ掲グルモノトス但前年ノ言渡ニ係ルモノト雖モ本年ニ至リ收納セシ者ハ此ニ合ス以下各項モ亦此例ニ依ルヘシ

第二項ニハ即決例第九條ニ依リ科料金ヲ假納セシメタル後其言渡確定シタル人員及金額ヲ掲グルモノトス

第三項ニハ言渡シタル科料金を完ク收納シ能ハスシテ拘留ニ換ヘタル人員及其金額ヲ掲ル  
モノトス

第四項ニハ科料金を假納セサルニ因リ留置セシ人員及其金額ヲ掲ルモノトス

第五項ニハ言渡シタル科料金額中ノ幾部ヲ收メタル人員ト其納否金額ヲ區別掲載スルモノ  
トヌ即チ科料金圓ノ言渡ヲ受ケタル者(始ラク一人)資力少クシテ僅ニ廿五錢ヲ納メ殘金  
七拾五錢ハ收納スル能ハサルヲ以テ拘留ニ換ヘシ時ハ人員ノ欄ニ於テ納否ノ中間ニ一ト  
記シ金額ノ欄ニ於テ納ノ下ニ〇・二五〇ト記シ否ノ下ニ〇・七五〇ト記スルノ類ナリ

第六項ニハ納期限内ニ在テ未タ全部ヲ納メヌ又ハ全額ノ内幾部ヲ納メ又ハ納期過去ルモ逃  
走等ノ事故ニ依リ年末マテ納否未定ニ係ル人員及金額ヲ掲クルモノトス例ヘハ一圓ノ言  
渡ヲ受ケタル者二人アリテ未タ全部ヲ納メサル時ハ全部ノ下人員ノ欄ニ於テ二ト記シ金  
額ノ欄ニ於テ二・〇〇〇ト記シ又五拾錢ノ言渡ヲ受ケタル者三人ノ内一人ハ四十錢一人  
ハ三十錢一人ハ二十錢ヲ納メ殘金ノ納否未タ決セサルヲ以テ換刑スルニ至ラサル時ハ人  
員ノ欄ニ於テ納否ノ中間ニ二ト記シ金額ノ欄ニ於テハ納ノ下〇・九〇〇否ノ下ニ〇・六〇  
〇ト記スルノ類ナリ

第七項ニハ第三項第五項ノ人員中禁錮ニ換ヘシ者ヲ掲クルモノトス  
第二表

本表各項各欄ノ記載方ハ表式ニ詳ラカナルヲ以テ更ニ説明ヲ要セス

右達例ニ從ヒ製表シ尙左ノ通心得可シ

一 違警罪諸規則違犯ノ處分ヲ甲ノ警察署(分署モ包含)ヨリ乙ノ警察署ニ囑托シタル場合ニ  
於テ其全部(被告人ノ母問ヨ)ノ囑托ニ係ルモノハ乙警察署ニ於テ製表シ一部(被告人ノ  
母問成ハ)母問成ハハ科料金保證書(母問成ハハ科料金保證書)ノ囑托ニ係ルモノハ甲警察署ニ於テ製表シ彼此重複  
徵收換刑ノ處分等共一部分ニ止ルモノ)

セサルヲ要ス

一 各表ノ用紙ハ美濃又ハ同形ノモノヲ用ヒ進達ノ時左式ニ從テ其目錄ヲ添フヘシ

違警罪各表進達目錄

明治何年何府縣何警察署

一 違警罪即決表

何枚

全

一 諸規則違犯即決表

何枚

全

一 別號第一表

何枚

全

一 全第二表

何枚

表式ノ部





輕罪控訴登記簿書例

掛判事氏名  
表記掛書記氏名

此簿札ニ記載ス可キ各條ハ刑事裁判統計材料ニ供スル者トス故ニ言渡アル毎ニ必ス簿式ニ準シ登錄シ其機ヲ失スルナキヲ要ス今簿札中特ニ注意ス可キ條件ヲ左ニ示ス

第一條 簿式中甲乙ノ符號ヲ付シタルハ假リニ控訴事件ノ二例ヲ示シ登錄者ニ參觀ノ便ヲ與フルニ過キヌ簿式中○ヲ附レタルハ未嘗ナリ

第二條 原裁判罪名ノ欄内甲ノ符號ヲ付シタル罪名ハ單一ノ犯罪ニ係リ乙ノ符號ヲ付シタル罪名ハ數罪俱發ノ一例ヲ示シタルモノニテ其委託云々ハ現ニ處斷セシ罪名又以下ハ俱發ニ係ル罪名トス故ニ俱發ノ罪名ハ處斷ノ罪名ヨリ關字ス可シ控訴裁判所ニ係ル罪名ノ欄モ亦同シ

第三條 同上言渡欄内ニハ公訴ト私訴トニ拘ハラヌ又公訴ハ主刑附加刑トモ言渡シタル條項ヲ總テ列記スルモノトス其刑期金額ハ加等減輕シテ現ニ科シタルモノヲ擧ク可シ

第四條 控訴事件控訴申立人ノ欄内ニハ檢察官被告人民事擔當人民事原告人ト一々區別シ一筆ニ訴訟關係人ト概記ス可ラス若シ一ノ控訴アリタル時對手人ヨリモ亦同時ニ控訴セシキハ雙方ノ名稱ヲ列記シ附帶ノ控訴アリタルモ亦其名稱ヲ掲ケ肩書ニ附帶ト記ス可シ

シ

第五條 同上控訴ノ理由欄内ニハ本按ノ裁判言渡ト公判ノ手續ニ關スル判決トニ拘ハラヌ控訴スル所ノ理由ヲ擧ルモノトス故ニ一人ニシテ本按ノ言渡ト公判ノ手續トニ對シ控訴セントキハ其條項ヲ列記ス可シ其要旨ハ左ノ類トス

- 一 管轄違ノ申立ヲ棄却セラレタルニ因リ
- 一 辯論中公判ノ手續ニ付異議ノ申立ニ對スル判決不當ナルニ因リ
- 一 要償ニ付テノ言渡不當ナルニ因リ
- 一 管轄違ノ言渡アリタルニ因リ
- 一 越權ノ處分アリタルニ因リ
- 一 無効ノ記載アル規則ニ背キタルニ因リ
- 一 違警罪ノ言渡ヲナスト雖モ其事件ハ輕罪ナルニ因リ

右ノ例ニ準シ控訴申立ニ係ル事實ヲ簡明ニ記ス可シ若シ前條ニ示シタル如ク雙方同時ニ控訴シ或ハ附帶ノ控訴アリタルモハ其條項ニ控訴人ノ名稱ヲ肩書シ附帶ニ係ルモハ其名稱ノ下ニ附帶ノ二字ヲ註記ス可シ

第六條 控訴裁判言渡ノ欄内モ亦原裁判ノ言渡ト同シク記載スルモノトス其言渡區別中簿式ニ記載セザリシ二三ノ例ヲ左ニ示ス

表式ノ部

一 管轄違ナルヲ以テ云々  
 一 辯論中異議ノ申立ニ對スル判決ハ云々  
 一 原裁判ハ無効ノ記載ナル規則ニ背キタルヲ以テ其效ナキモノトス  
 一 原裁判ヲ認可ス  
 但何々ノ言渡ハ越權ノ處分ニ係ルヲ以テ云々  
 一 不受理(控訴期限經過スルヲ以テ)  
 一 消滅(被告人死去スルヲ以テ)  
 右ノ例ニ準シ言渡及ヒ一件歸結ノ要旨ヲ漏ラサス記ス可シ  
 第七條 同上出廷セシ證人等ノ人員欄内ニハ證人鑑定人ニ限ラス醫師通辯人事實參考ノ爲メ呼出シタル者ニ至ル迄總テ舉ルモノトス且ツ裁判費用欄内證人其他ニ給與セシ金員ハ其出所被告人ニ科セシト官ニテ擔當セシトニ拘ハラヌ總テ給與ス可キ金員ヲ舉ク可シ若シ其欄内ニ記ス可キ金員ナキ時ハ圈ヲ付シテ脫漏ナラサルヲ表スヘシ  
 第八條 此簿札ハ公判ノ順序ニ從ヒ各件ノ被告人一人ニ付登錄ス可シ若シ一事件中被告人數名アラハ初筆ノ被告人ノ簿札ニ番號ヲ付シ其他ノ簿札ニハ番號ヲ付セス控訴事項受理年月ノ傍ヲニ前何號同伴ト記載ス可シ  
 第九條 前條ノ場合ニ於テハ第七條ニ示シタル證人鑑定人等ノ人員裁判費用トモ被告總人

(十)

員ニ關係セシトハ初筆ノ被告人ノ簿札ニ登記シ其他ノ簿札ニハ記スルニ及ハヌ若シ各自異ルルハ各關係スル所ノ人員金額ノミヲ其簿札ニ登記シ重複セサルヲ要ス  
 右ノ外番號附記ノ手續簿札ノ用紙年末未決ノ件數人員調査差出方其他ハ明治十六年丁第二十八號(四)及ヒ同年丁第四十號(一)達ニ依ル可シ  
 司法省達 十四年十二月十九日丁第三十四號大審院裁判所ハ  
 治罪法第五十二條第六十八條第七十六條第八十二條第四百六十四條表式別紙ノ通相定候條右ニ照準シテ調製スヘシ此旨相達候事  
 但明治十年丙第十七號違犯罪未決件數表丁第六十二號違犯罪糾問表ハ來十五年一月一日ヨリ廢止候事  
 朱(第一號 治罪法第五十二條違犯罪事件表式) 用紙美濃ノ類

明治何年何月中何違犯罪裁判所違犯罪既決未決事件表

件數	違 罪			既 決				未 決	
	總數	管轄違	辯論中異議	原裁判認可	不受理	消滅	其他	未決	未決

何月何日調

檢察官 官氏名印

何月何日閱

所長 官氏名印

米

檢察官ノ意見アルルハ表末ニ記載スヘシ但長文ニ涉ルルハ別紙ニ記スルモ可ナリ左ニ  
 一一ノ文例ヲ示ス  
 犯罪事件前表ニ比スレハ若干ノ増加アルハ近來管内ニ某事業興起シタルニ因リ人口幅  
 濶スルニ原由セリト思考ス  
 又ハ犯罪事件斯ク増加スト雖モ過半ハ何々ノ事ニ關スル犯罪ナルヲ以テ久シカラスシ  
 テ常ニ復スヘシト思考ス  
 又ハ何月以來未決事件ノ増加セシハ係リ官員疾病或ハ何々ニ因リ何月以來事務ヲ執ル  
 能ハサルニ由ル  
 又ハ事件ノ減少スルハ何々ニ原由セリ因テ久シカラスシテ増加スルヲ見ルニ至ル可シ  
 ト思考ス  
 裁判所長意見アラハ亦前文ニ準ス

米(第二號) 治罪法第六十二條豫審事件表式(一)

明治何年 至何月 何日 輕罪裁判所豫審既決未決事件表

豫審	件數	既決未決日數			豫審	件數	豫審	件數
		未十 日	上十 日	未上 月				
舊新現非免	受受行行訴				既	未	會 同 局	
重罪輕罪 發覺管轄 取上照 取上照	所(所) 裁判 裁判 所(所) 裁判 裁判 所(所) 裁判 裁判				既	未	會 同 局	
却減下	却減下				既	未	會 同 局	
決	受受濟未				既	未	會 同 局	
舊新判判	受受濟未				既	未	會 同 局	
告	告				既	未	會 同 局	

何月何日調

檢察官 官氏名印

表式ノ部

五百二十五

何月何日閱

所長官氏名印

※(檢事及所長意見ヲ記スルハ違警罪表式ニ準ス)

此表總テ件數ヲ以テ記載スヘシ既濟未濟ノ日數ハ受理ノ日ヨリ豫審終結或ハ送致シタル日迄ヲ算ス以下各表之ニ準ス

既濟未濟日數二月以上ノモノアラハ二月以上三月未滿三月以上六月未滿六月以上一年未滿ト記スヘシ其一年以上ニ及フモノハ一年毎ニ區別シテ記入シ未濟三月以上ニ及フ者ハ其理由ヲ説明スヘキモノトス以下各表之ニ準ス但豫審中止ノ分ハ其總件數ヲ記スルニ止リ中止日數ヲ區別記スルニ及ハス

表中斜線ヲ填シタル欄ハ件數ヲ記入スルニ及ハス以下各表之ニ準ス

※(第三號 治罪法第六十二條豫審表式ノ二)

明治何年自何月何日何月何日何輕罪裁判所豫審未濟人員表

日數區別	未濟總人員			監	保釋	實付	不入監
	舊受	新受	收監				

合計	十日未滿	一月未滿	二月未滿	三月未滿	三月以上	六月未滿	六月以上	一年未滿

何月何日 檢事官氏名印  
 何月何日 所長官氏名印

此表未濟人員ノ現在ヲ以テ記スヘシ例ヘハ先ニ拘留スト雖モ現ニ收監ナレハ現ニ收監シタル日數ヲ以テ記スルカ如シ但不入監トハ收監拘留保釋實付ヲ爲サ、ル人員ヲ云フ

※(第四號 甲治罪法第六十二條輕罪事件表式)

明治何年自何月何日何月何日何輕罪裁判所輕罪既決未決事件表

表式ノ部











既濟未濟日數	十日未満	十日以上 一月未満	一月以上 二月未満	合計	裁判管轄ヲ移スノ訴	再審ノ訴	哀訴
	二月未満						
何月何日調							
何月何日閱							
檢事長 官氏名印				院長 官氏名印			

朱(檢事長及院長意見ヲ記載スルハ違警罪表式ニ準ス)  
 大審院ノ表式ハ分テ第一第二トス第一ハ上告ヲ記シ第二ハ哀訴再審ノ訴裁判管轄ヲ定ム

ルノ訴裁判管轄ヲ移スノ訴ヲ記ス  
 朱(第九號 治罪法第四百六十四條既決犯罪表式)  
表中○ヲ付セ  
レ者ハ朱書

何裁判所既決犯罪表

(號)	氏名	年 齡	職 業	住 所	出 生 地	本 籍	罪 名	刑 名	犯 數	裁判言渡ノ年月日	對審欠席區別	(イ)
												(何年何月)
	(伊 藤 某)		(何々)	(何縣何區何町)	(同上)	(同上)	(竊盜)	(重禁錮何年(或ハ何月))	(初犯(或ハ再犯))	(何年何月何日)	(對審裁判(或ハ欠席裁判))	

此表一葉一人ヲ記載シ(イロハ)ノ順序ヲ以テ氏名ヲ區別シテ編綴シ探討ニ便ニスヘシ  
 表中ノ朱書ハ記載ノ一例ヲ示スモノナレハ(ロ)以下モ之ニ準スヘシ治罪法第四百六十五條

表式ノ部

ニ從ヒ本省ニ送致スルハ一月分ヲ編綴シテ一冊トナシ每翌月十五日迄ニ差立ヘシ  
 一 刑名ノ條ヲ記スルニハ假令ハ重禁錮何年監視何月(自首若クハ酌量ニ據リ何等減又ハ再犯若クハ刑法何條ニ據リ何等加)ノ如ク加減或ハ再犯加重ニ係ルモノハ必ス之ヲ附記スヘシ若シ無罪及免訴ニ係ルモノアルハハ證憑不充分ニ付無罪又ハ期滿免除確定裁判ヲ經ルニ付免訴ト書スルカ如ク無罪ノ事由并ニ治罪法第二百廿四條第三以下各項ノ事由ヲ簡明ニ記スヘシ

(一十)

一 犯罪ノ條ハ(舊法ニ據リ處斷何度新法ニ據リ處斷何度ト區別記載スヘシ)  
 司法省達 十四年十二月廿二日丙第十九  
號 警視廳府縣(東京府ヲ除ク)ヘ

警察署ニ於テ審判シタル 違警罪事件表 (本表ハ十八年丙第九號) 并既決犯罪表別紙様式ニ照準シテ調成スヘシ尤違警罪事件表ハ治罪法第五十二條ニ從ヒ差出ス儀ト可心得此旨相達候事  
 別紙

明治何年何月中何警察署又ハ何署 違警罪即決件數表

違警罪	總件數	言渡件數區分		
		無罪	免訴	刑ノ言渡
				上數ノ内正式ノ裁判ヲ請求ス

何月何日調

署長 官氏名印

一 犯罪事件ニ於テ前ニ比較シ甚ダシク増減ヲ生シタル時ハ表外或ハ別紙ニ署長ノ意見ヲ付スヘキ者トス假令ハ管内人口ノ増減其他ノ事故等ニ起因シテ増減ヲ致シタリト認メシ理由ヲ述ルノ類ナリ

(治罪法第四百六十四條既決犯罪表式)

用紙美濃ノ類

何警察署警察分署(既決犯罪表式)

氏名	(伊 藤 某)
年 齡	(何年何月)
職 業	(何々)
住 所	(何縣何郡何町)
出 生 地	(同上)
本 籍	(同上)
罪 名	(竊盜)

表式ノ部 け

刑名	(重禁錮何年(或ハ何月))
犯罪	(初犯(或ハ再犯))
裁判言渡ノ年月日	(何年何月何日)
對審欠席區別	(對審裁判(或ハ欠席裁判))

(二十)

此表一葉一人ヲ記載シ(イロハ)ノ順序ヲ以テ氏名ヲ區別シテ編綴シ探討ニ便ニスヘシ  
 表中ノ朱書ハ記載ノ一例ヲ示スモノナレハ(ロ)以下モ之ニ準ス可シ  
 司法省達 十四年十二月十九日  
 丙第十八號府縣へ  
 刑事裁判ノ宣告犯人本貫へ通知ノ義裁判所へ別紙丁第三十三號後ノ通相達候條此旨爲心得  
 相達候事  
 司法省達 十四年十二月十九日  
 第三十三號裁判所へ  
 刑事裁判言渡ヲ犯人ノ本籍へ通知シ及犯人前科取調ノ儀是迄區々相成居候處來明治十五年  
 一月ヨリ左ノ通可相心得此旨相達候事  
 刑事裁判言渡アリタルハ治罪法第四百六十四條ニ揭クル既決犯罪表寫ヲ犯人本籍ノ地ノ  
 輕罪裁判所檢事ニ送致ス可シ右送致ヲ受ケタル檢事ハ其旨ヲ犯人本籍ノ地ノ戸長ニ通知シ  
 該表ハイロハ標號ニ從ヒ區別編纂致置ク可シ  
 犯人ノ前科取調ヲ要スルハ犯人本籍ノ地ノ輕罪裁判所檢事ニ照會シ檢事ハ編纂致置タル

既決犯罪表寫ヲ送致スヘシ

既決犯罪表	
イ號	何處裁判所

イ號目錄

伊藤 某	一丁
生駒 某	二丁
飯塚 某	三丁

表式ノ部

